

# 新潟市生涯学習市民意識調査結果報告書

平成 20 年 12 月

新潟市教育委員会

## はじめに

新潟市では、平成13年3月に「まなびをひろげ・生かす生涯学習社会」の実現をテーマに、第2期生涯学習推進基本計画を策定し、市民一人ひとりが自発的に学び、その能力を生涯にわたり最大限に発揮できるよう、施策を体系化し、事業の推進に努めてまいりました。

しかし、近年の教育基本法や社会教育法、図書館法、博物館法の改正を始め、地方分権の進展や協働意識の高まりなど、市民の学びを取り巻く環境は大きく変化しています。

そこでこの度、学びに関する市民意識の変化や実態、学習ニーズを把握するために、生涯学習市民意識調査を実施いたしました。

この調査は、平成17年に14市町村が合併し、人口約81万人を擁する本州日本海側初の政令指定都市となって、初めて全市的に実施した生涯学習に関する意識調査で、調査報告書では市民の皆さんの学びの実態や要望等について、年代や環境、地域性といった視点も加味して考察いたしました。

この調査結果を、平成22年度から5ヵ年を計画年度とする「第3期生涯学習推進基本計画」の策定の礎とし、また、市民の学びの羅針盤として施策に反映していきたいと考えています。

調査にご協力いただいた市民の皆様を始め、調査設計から分析に至るまでご尽力くださいました新潟大学 齋藤 勉教授、並びに新潟青陵大学 中村恵子教授、新潟大学 内田 健准教授に心からお礼申し上げます。

平成20年12月

新潟市教育委員会

教育長 佐藤 満 夫

# < 目 次 >

## はじめに

調査概要	1
調査結果	11
1 生涯学習活動への関わり	13
(1) 生涯学習活動の現状	13
生涯学習活動の実施状況	13
生涯学習活動の方法	15
グループ・サークル・団体などの活動内容	17
生涯学習活動の活動場所	19
利用している公共施設の種類の種類	20
活動場所の所在地	22
身につけた知識や技能の活用	23
(2) 生涯学習活動に対する今後の意向	25
実施してみたい生涯学習活動	25
施策への要望	27
入手したい情報	29
2 社会活動への関わり	31
(1) 学校訪問をめぐる状況	31
(2) 社会活動への参加	34
社会活動への参加経験	35
社会活動への参加意思	37
参加したことがある社会活動分野	38
参加してみたい社会活動分野	41
(3) 活動参加経験がない理由	42
(4) 活動に参加したきっかけ	45
(5) 活動の役に立ったこと	48
(6) 活動の継続状況	51
(7) 活動の休止・停止理由	53
(8) 活動参加の条件	55
3 人との関わり	59
(1) 年代による「人との関わり」の現状と意向	59
(2) 活動上の関係者による「人との関わり」の現状と意向	61
全体結果数表	63

## (付) 調査票様式

## あとがき



# 調 査 概 要



## 1 調査の目的

市民の生涯学習活動や社会活動の様子、要望などを捉え、今後の生涯学習推進のための基礎的な資料とするとともに、生涯学習推進の施策に活用することを目的として実施した。

## 2 調査の設計

- (1) 調査地域：新潟市全域
- (2) 調査対象：平成20年4月末日現在の住民基本台帳に登載されている20歳以上の市民
- (3) 標本数：2,500人
- (4) 抽出方法：区の人口によって層化し、それらを等間隔にして標本を抽出する層化系統抽出法
- (5) 調査方法：郵送法（調査票の配布、回収とも）
- (6) 調査期間：平成20年5月29日～6月10日

## 3 調査の項目

本調査は、市民の生涯学習活動の現状と意向の把握を中心としているが、特に、生涯学習の成果がどの程度社会活動に生かされているか、また、人と人との関わりが活動にどのような傾向を持っているかを重視した。

- (1) 生涯学習活動への関わり
- (2) 社会活動への関わり
- (3) 人との関わり

なお、調査は下記の3名に依頼し、項目設定および分析をおこなっていただいた。

### 【調査分析検討】

齋藤 勉	新潟大学教授
中村 恵子	新潟青陵大学教授
内田 健	新潟大学准教授

## 4 集計・分析にあたって

- (1) 図表中の「n」とは回答者総数（または該当者質問での該当者数）のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- (2) 数値（%）は単位未満を四捨五入してあるので、総数と内訳の計が一致しないこともある。
- (3) 職業別は、次のように分類した。

自営業	農・林・漁業 [農業・林業・漁業の自営者]
	商・工・サービス業 [小売店・飲食店・理髪店・修理店など]
	自由業 [開業医・弁護士・宗教家・芸術家・茶華道師匠など]
家族従業者	農・林・漁業 [農業・林業・漁業の家業を継続的に手伝っている人]
	商・工・サービス業 [商・工・サービス業の家業を継続的に手伝っている人]
	自由業 [自由業の家業を継続的に手伝っている人]
勤め人	管理職 [民間会社・官公庁の課長職以上]
	事務職・専門技術職 [事務職員・教員・技術者など]
	技能・労務職 [技能工・販売店員・外交員など]
無職	主婦・主夫
	学生
	その他

- (4) 本文及び図表中、意味をそこなわない範囲で簡略化した選択肢がある。
- (5) 本文は、小数点以下を四捨五入した表記として簡略化した。

#### 4 回収結果

区分		母集団数	構成比% (母集団)	標本数	有効 回収数	回収率%
地区名						
市 全 体		656,734	100.0	2,500	1,315	52.6
性 別	1 男 性	312,423	47.6	1,175	547	46.6
	2 女 性	344,311	52.4	1,325	759	57.3
	性無回答				9	
年 齢 別	1 20～29歳	90,895	13.8	360	132	36.7
	2 30～39歳	115,138	17.5	424	220	51.9
	3 40～49歳	99,903	15.2	353	208	58.9
	4 50～59歳	119,254	18.2	480	352	73.3
	5 60～69歳	101,770	15.5	366	168	45.9
	6 70歳以上	129,774	19.8	517	223	43.1
	年齢無回答				12	
1 北区		62,961	9.6	243	134	55.1
2 東区		113,109	17.2	433	222	51.3
3 中央区		143,164	21.8	537	296	55.1
4 江南区		55,895	8.5	214	95	44.4
5 秋葉区		64,209	9.8	244	123	50.4
6 南区		38,764	5.9	149	67	45.0
7 西区		127,118	19.4	484	267	55.2
8 西蒲区		51,514	7.8	196	102	52.0
居住地区無回答					9	

回収率は、男性よりも女性の方が1割以上高い。

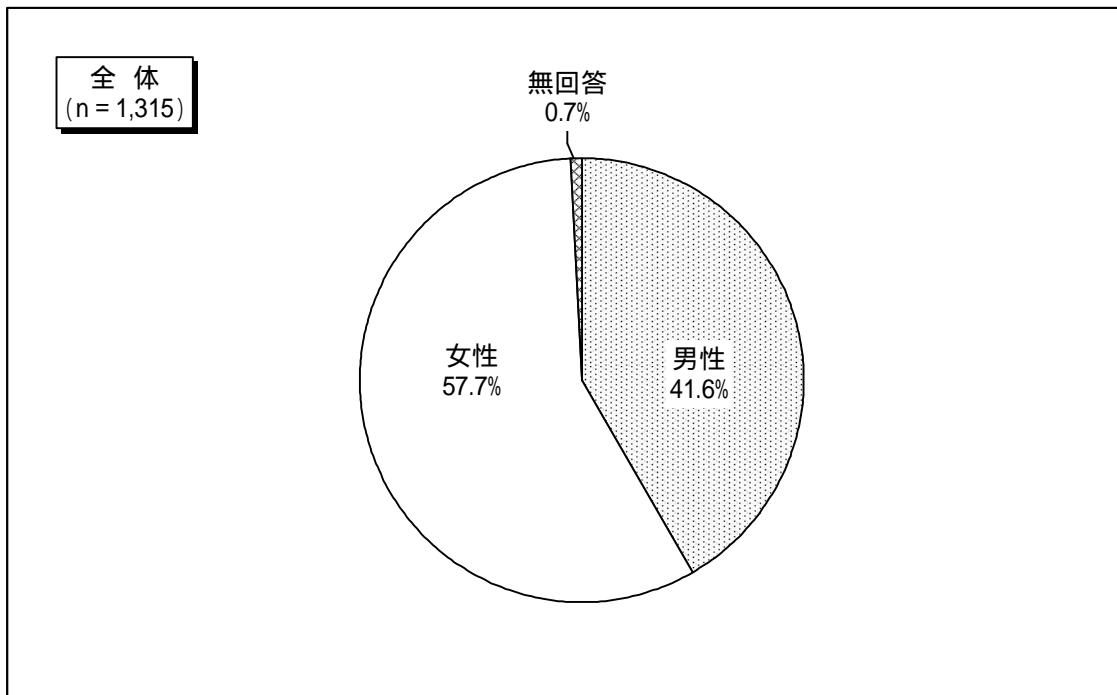
年齢別では、50～59歳が7割を超える。対して、低い年齢層は20～29歳である。

地区別では、江南区や南区での回収が他地区に比して少ない。



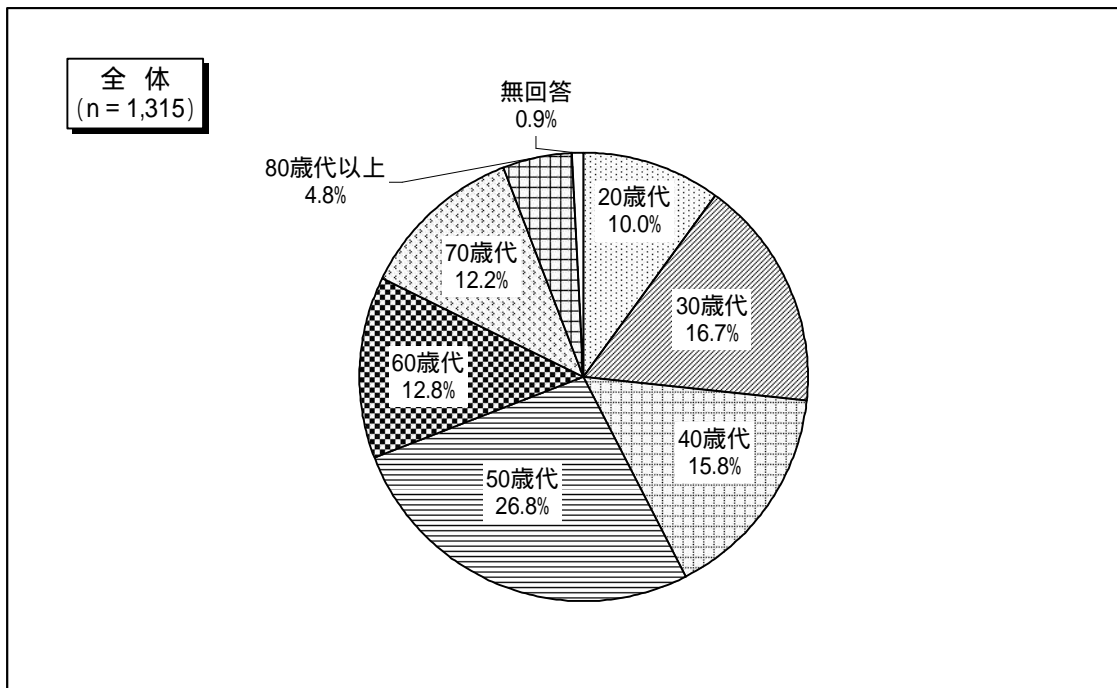
## 5 回答者の特性 ( n = 1,315 )

### 性別



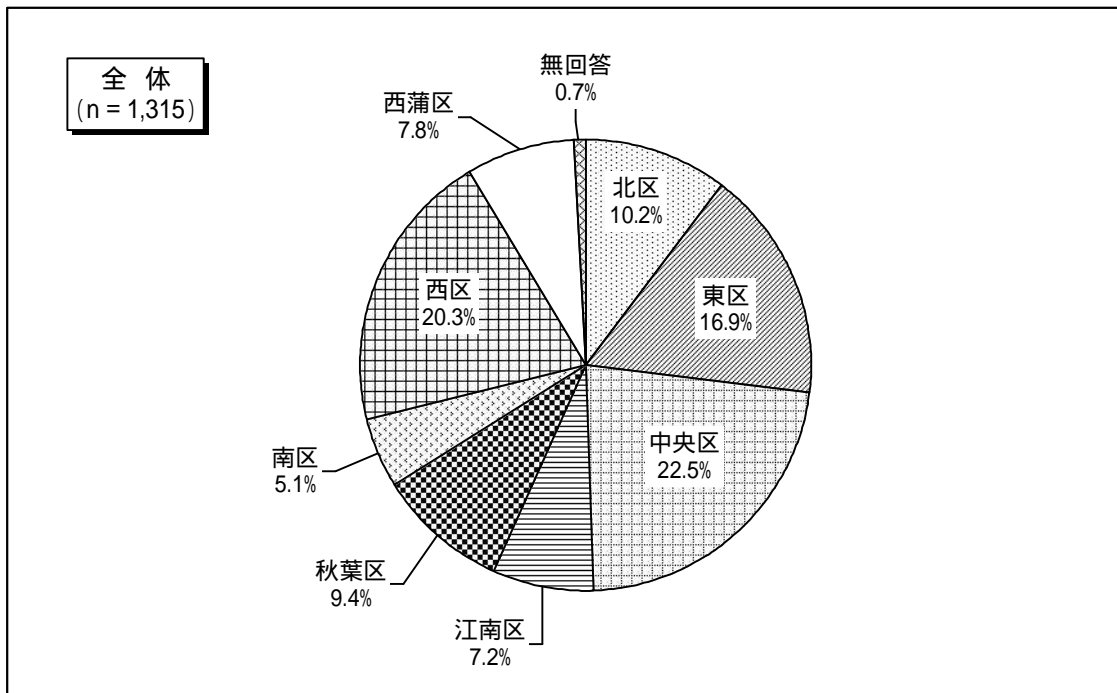
回答者の構成は、女性が多く、6割弱を占めている。

### 年齢別



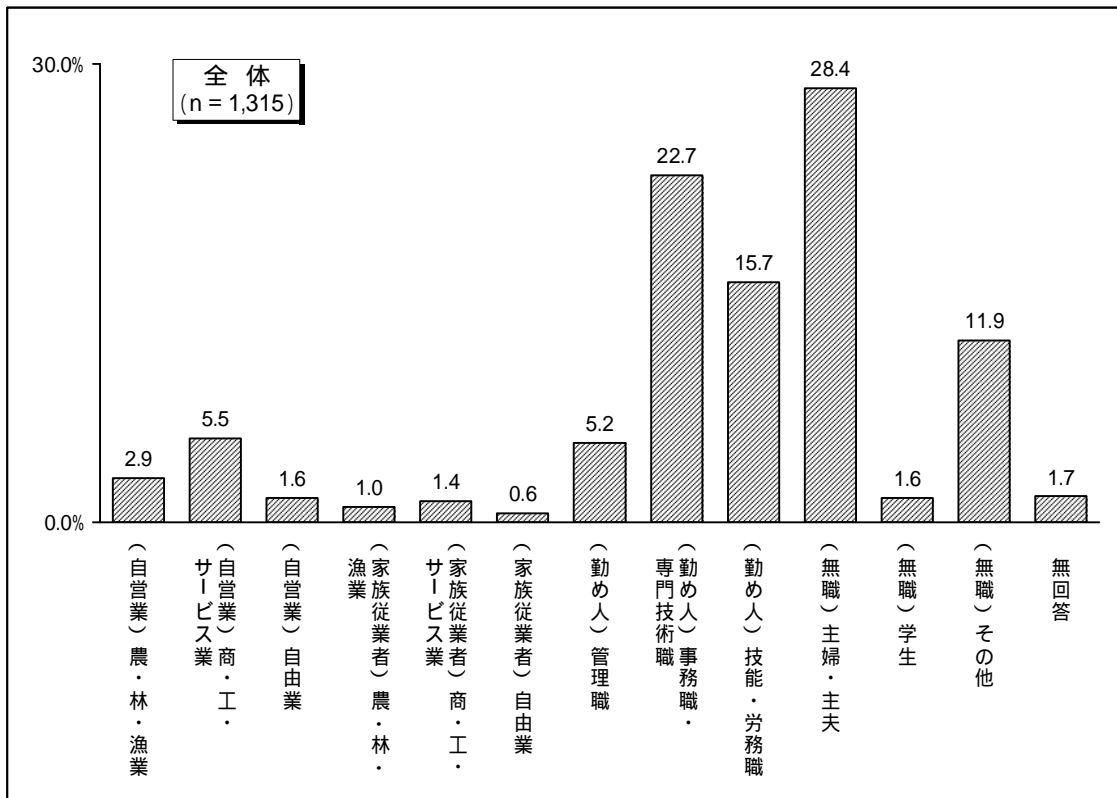
高い回収率を反映し、「団塊の世代」(昭和22年~24年生)を含めた50歳代が4分の1程度を占める。

## 居住地区別



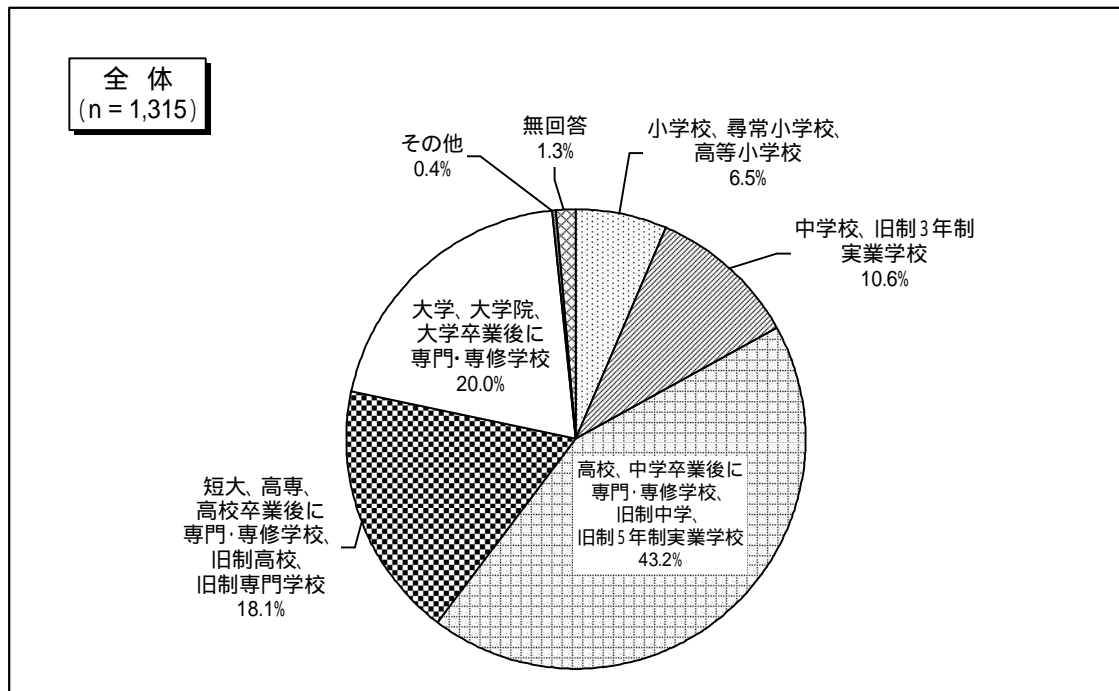
配布数及び回収率を反映し、中央区、西区、東区の構成比が比較的高い。

## 職業別



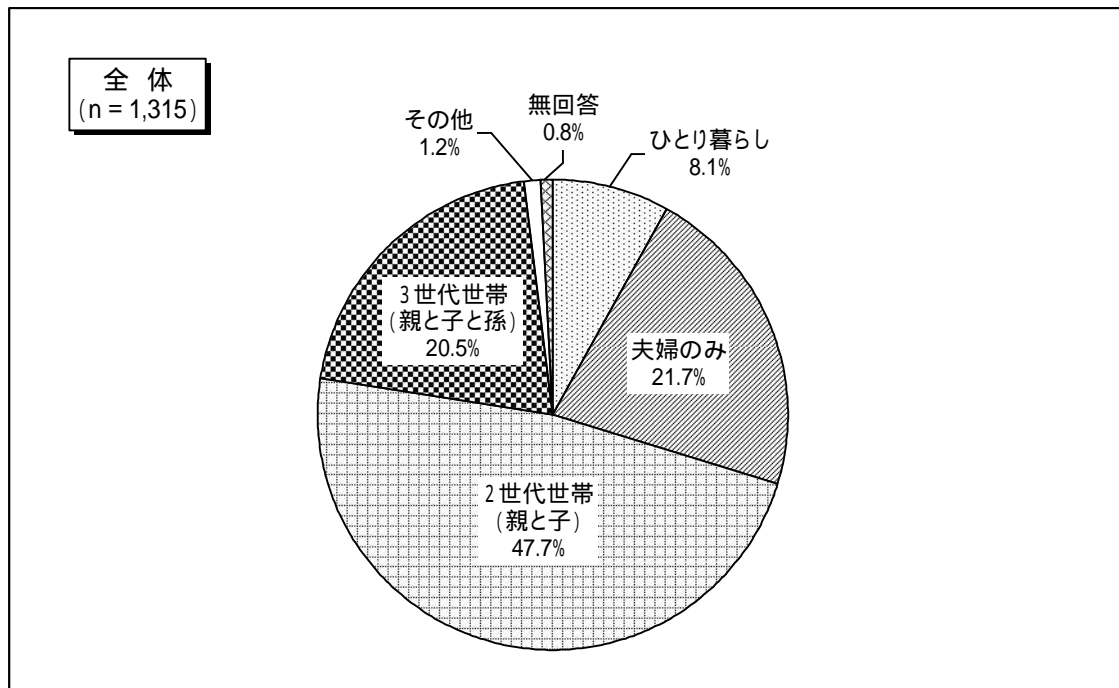
「主婦・主夫」と「事務系や労務系の勤め人」で3分の2程度を占める。

## 最終学歴別



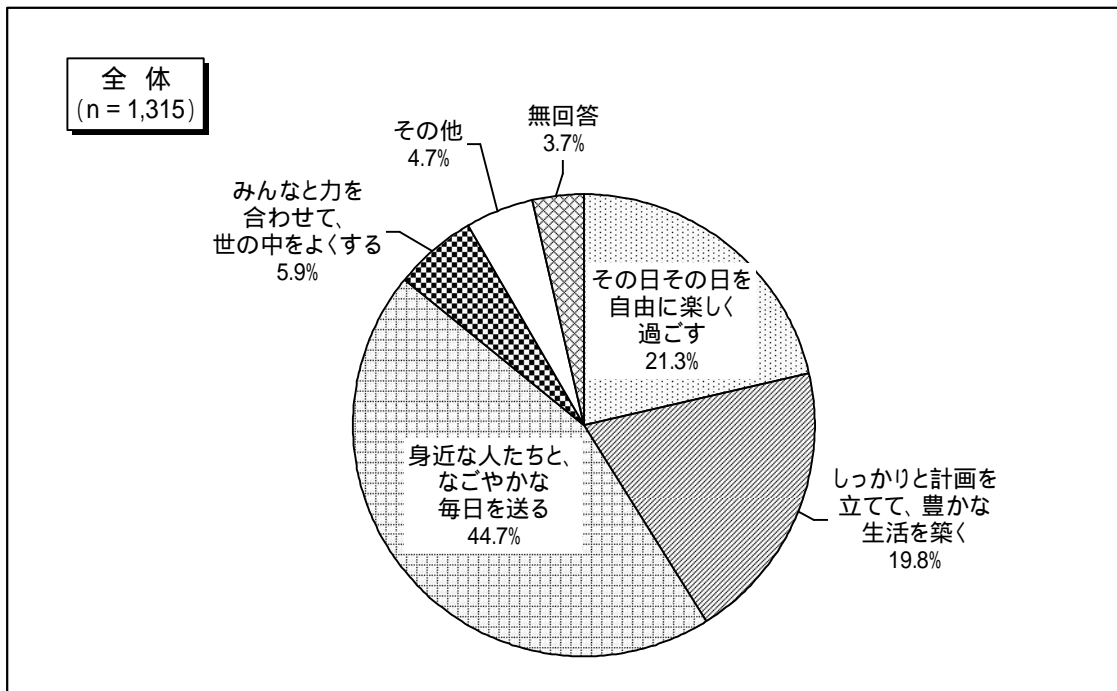
4割強の人は、高校などが最終学歴である。

## 家族構成別



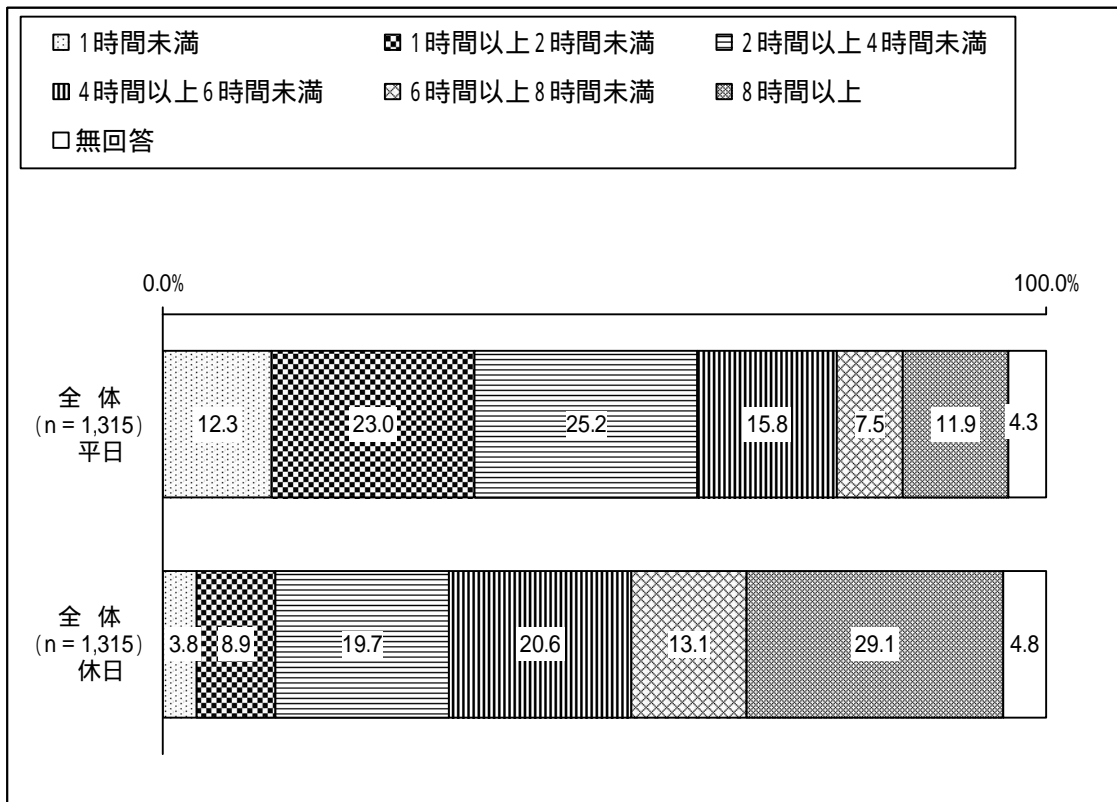
2世代世帯が半数弱を占める。

## 最重視生活目標別



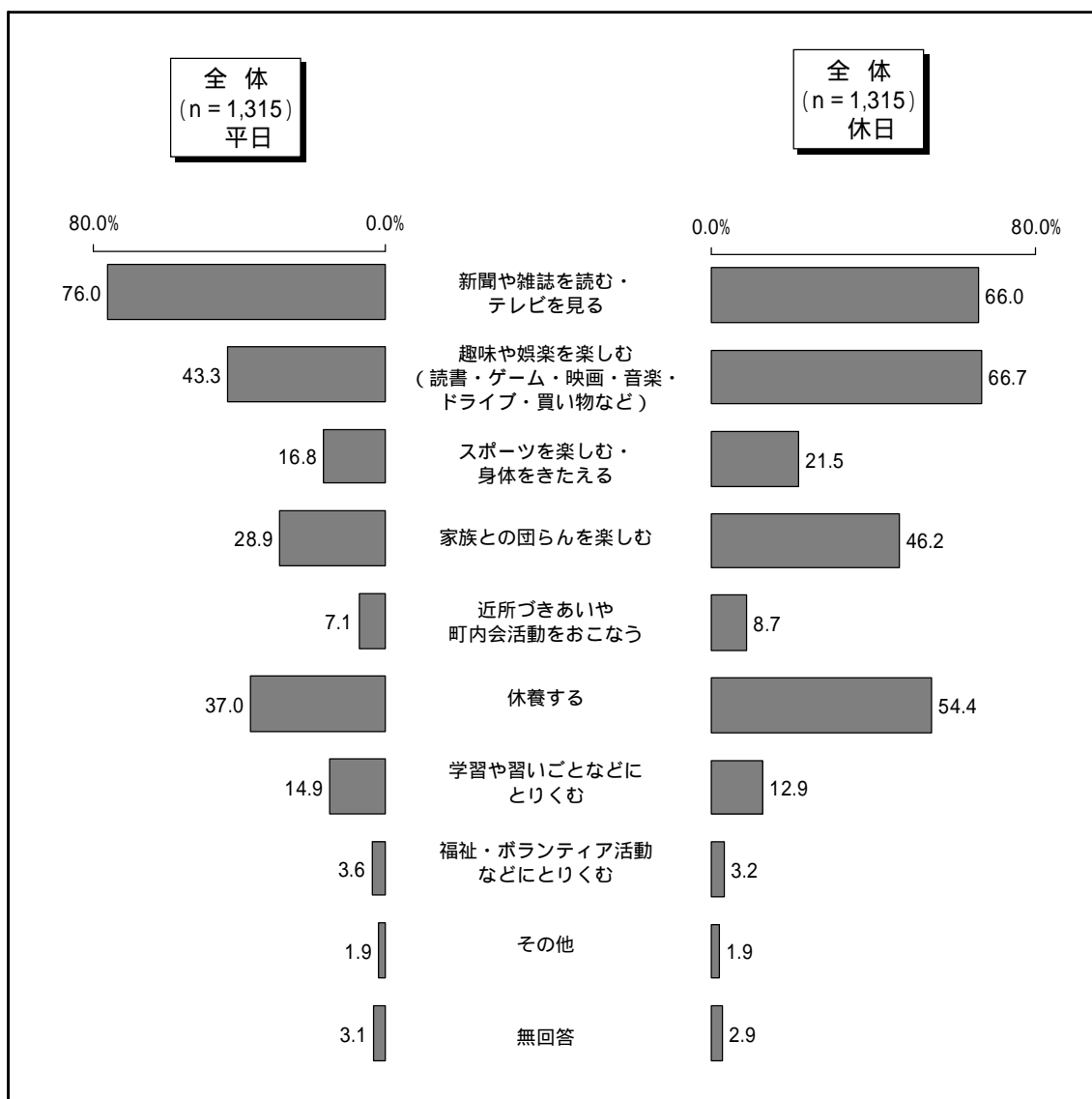
なごやかな毎日を送ることを最重視する人が4割強を占める。

## 1日の自由時間別（平日・休日の比較）



平日に比べ、休日の方が自由時間の長い人が多い。

自由時間の用途別（平日・休日の比較）



平日、休日ともに、新聞等の閲読やテレビ視聴で過ごす人が最も多い。



# 調 查 結 果





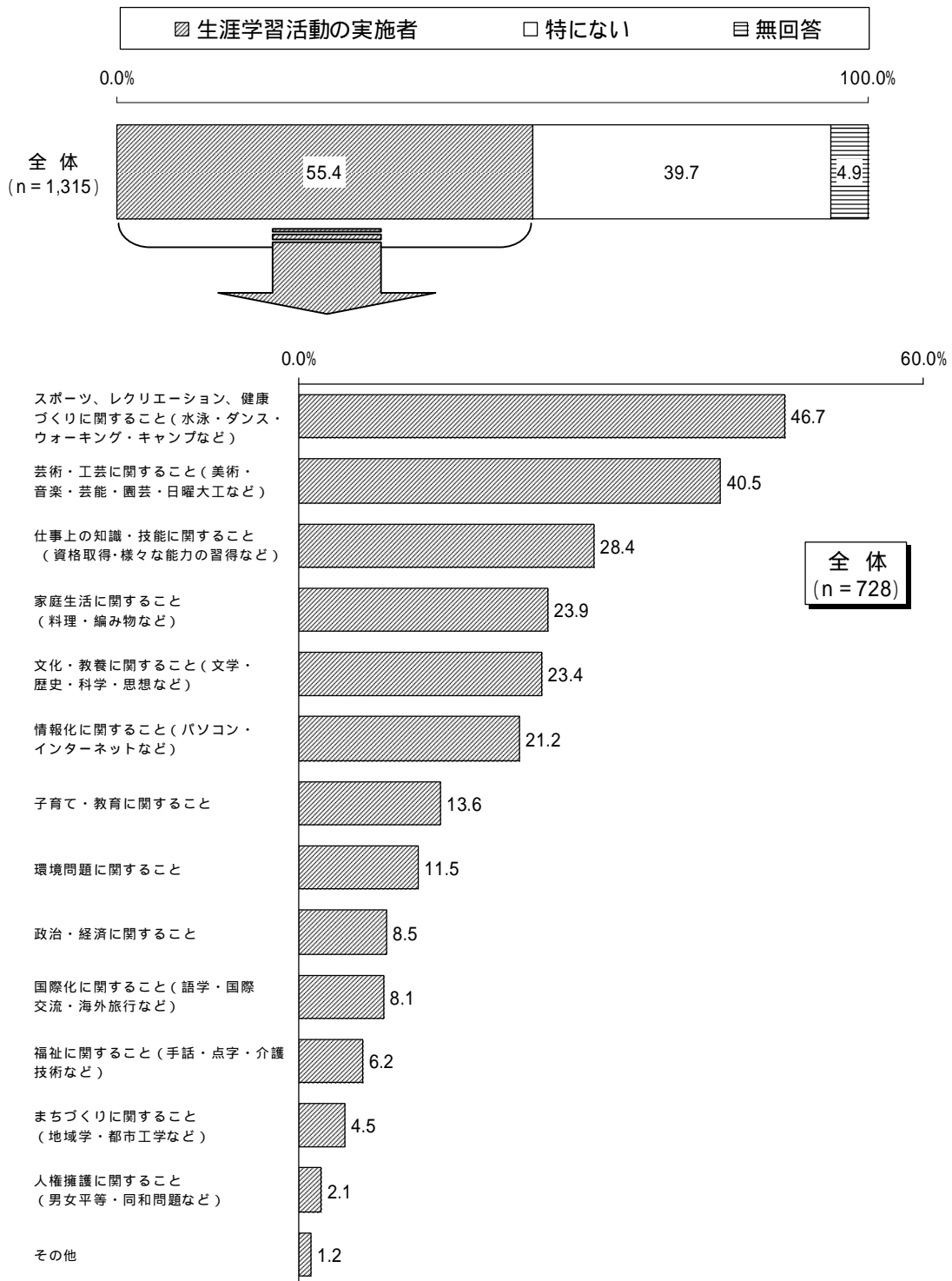
# 1 生涯学習活動への関わり

## (1) 生涯学習活動の現状

### 生涯学習活動の実施状況

問 あなたが今、おこなっている生涯学習活動はありますか。

あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)



半数強が生涯学習活動を実施している。

#### 【全体結果の要約】

現在、生涯学習活動おこなっている人は55%である。

おこなっている人の活動内容として最も多いのは、「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること（水泳・ダンス・ウォーキング・キャンプなど）」で、おこなっている人の半数弱（47%）が回答した（対象者全体では26%と約4人に1人）。「芸術・工芸に関すること（美術・音楽・芸能・園芸・日曜大工など）」がおこなっている人の41%でこれに次ぐ。

以下、おこなっている人ベースの回答率2割台で、「仕事上の知識・技能に関すること（資格取得・様々な能力の習得など）」（28%）、「家庭生活に関すること（料理・編み物など）」（24%）、「文化・教養に関すること（文学・歴史・科学・思想など）」（23%）、「情報化に関すること（パソコン・インターネットなど）」（21%）が続く。

一方で、「子育て・教育に関すること」（14%）や「環境問題に関すること」（12%）は回答率1割台にとどまっている。更に、「政治・経済に関すること」（9%）、「国際化に関すること（語学・国際交流・海外旅行など）」（8%）、「福祉に関すること（手話・点字・介護技術など）」（6%）、「まちづくりに関すること（地域学・都市工学など）」（5%）、「人権擁護に関すること（男女平等・同和問題など）」（2%）などは実施者が少なく、回答率は1割に満たない。

#### 【結果考察】

新潟市民の生涯学習活動の実施率は55%となっており、新潟県や全国の実施率と比べて、高い数値を示している。平成20年9月の新潟県の『県民アンケート調査報告書「生涯学習に関する意識・実態と今後の意向について」』によると、この1年間に何らかの「生涯学習」を「した」人は45%、「しなかった」人は55%である。平成20年5月に内閣府が実施した全国調査『生涯学習に関する世論調査』によると、生涯学習を「（この1年くらい）していない」人は、51%である。新潟県や全国の調査では、生涯学習をおこなっている人は半数に満たないが、新潟市においては半数を超えている。

全国調査では、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」の順で実施者が多く、新潟市も活動内容については全国と同様の傾向にあることがわかる。

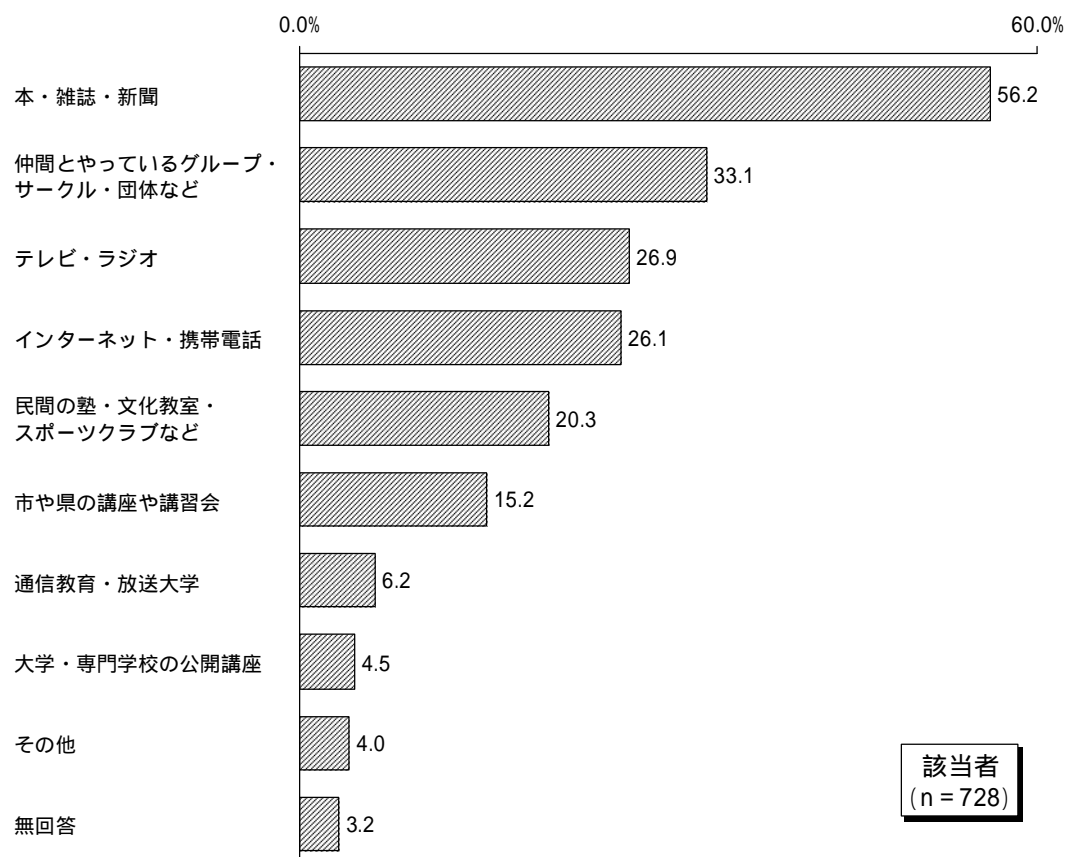
また、年代別にみると、若年層（20歳代・30歳代）では、「仕事上の知識・技能に関すること（資格取得・様々な能力の習得など）」の実施者が最も多い。40歳代以上の中高年齢層で最も多いのは「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること（水泳・ダンス・ウォーキング・キャンプなど）」となっており、年代による活動内容の違いがみられた。

## 生涯学習活動の方法

(『生涯学習活動をおこなっている』と答えた方にお聞きします。)

問 あなたは、その生涯学習活動をどのような方法でおこなっていますか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)



約 3 分の 1 は団体活動の実施者である。

### 【全体結果の要約】

「本・雑誌・新聞」によって実施している人が最も多い。「仲間とやっているグループ・サークル・団体など」を回答した人も約 3 人に 1 人いる。

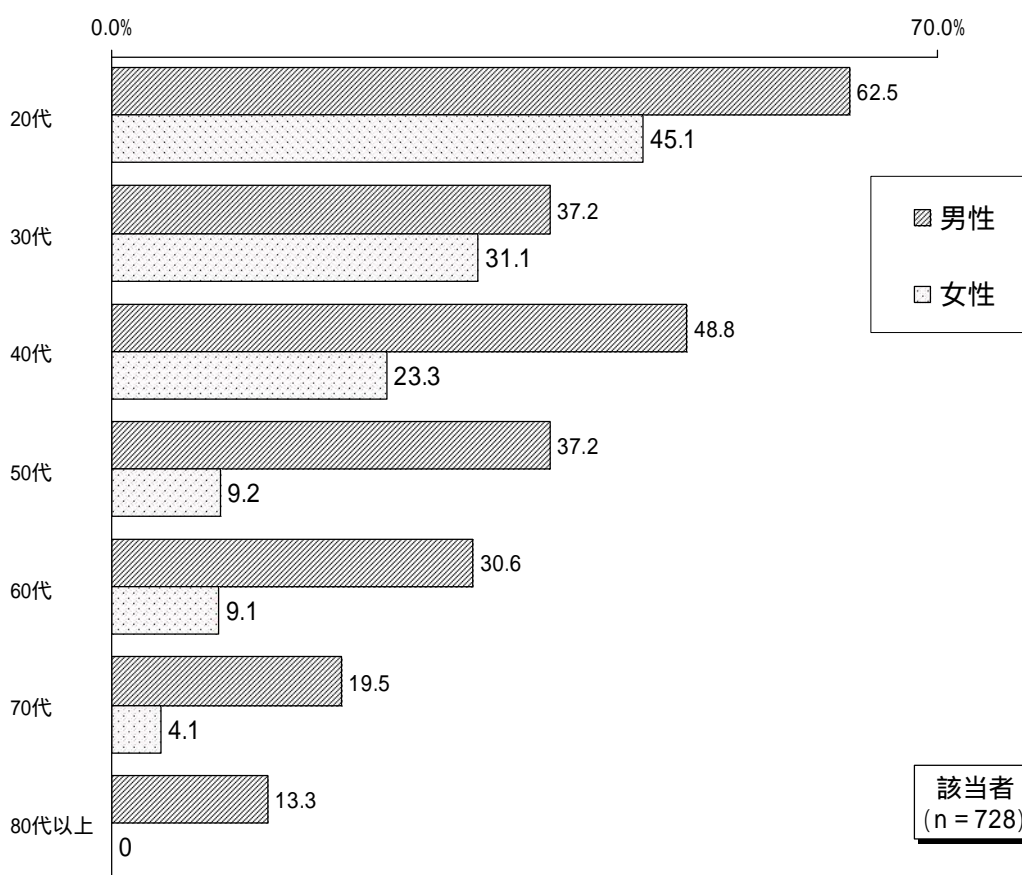
以下、「テレビ・ラジオ」、「インターネット・携帯電話」、「民間の塾・文化教室・スポーツクラブなど」の順で続くが、これらに比べると「市や県の講座や講習会」、「通信教育・放送大学」、「大学・専門学校の公開講座」といった講座や講習会関係の利用者は少ない。

【結果考察】(図1 - 1 参照)

すべての年代において、「本・雑誌・新聞」が主要な生涯学習活動の実施方法となっている。若年層(20歳代・30歳代)では「インターネット・携帯電話」による実施が、40歳代以上の中高年層では「仲間とやっているグループ・サークル・団体など」による実施が、「本・雑誌・新聞」に次いで多くなっている。

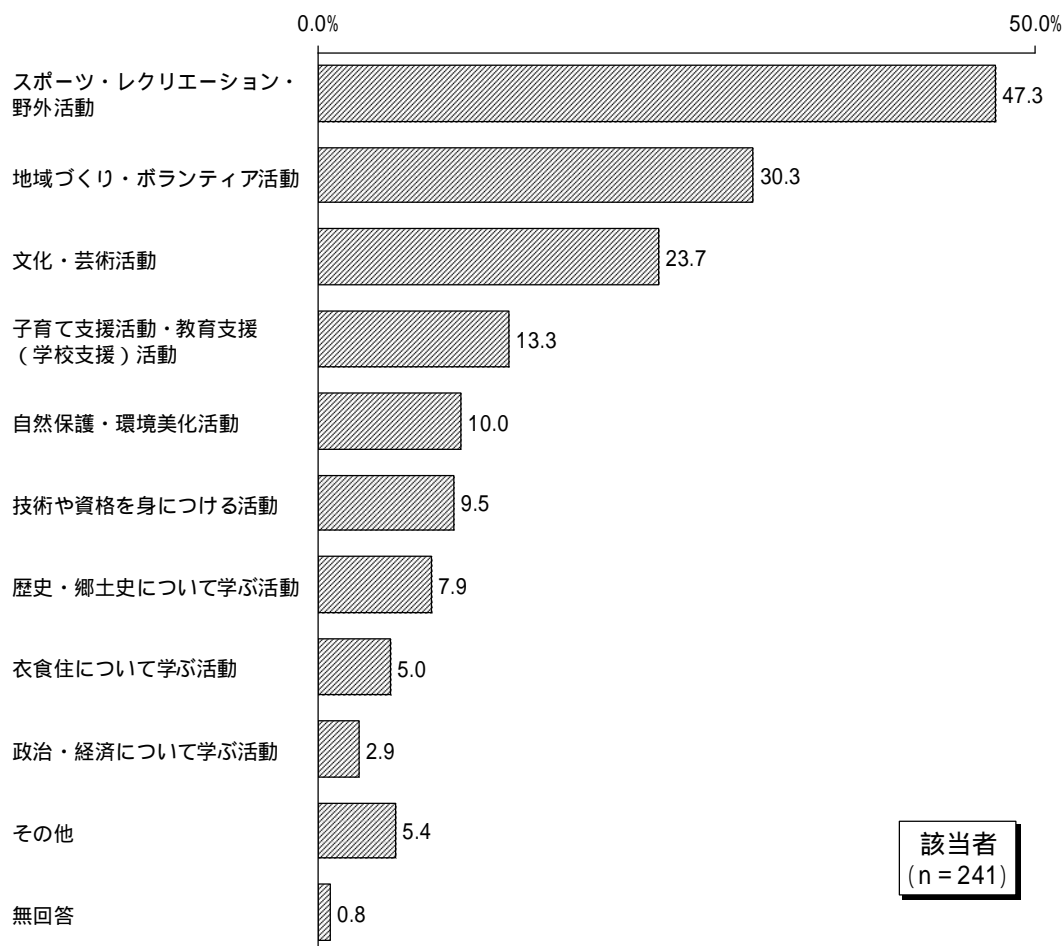
「インターネット・携帯電話」については、20歳代全体で51%と高く、年代による差が特に顕著である。また、女性の割合が男性より低く、男女差も大きい。(図1 - 1)

<図1 - 1> インターネット・携帯電話による実施率



## グループ・サークル・団体などの活動内容

活動を「仲間とやっているグループ・サークル・団体など」を選んだ人にお聞きします。  
 (付問) そのグループ等は、どのような活動をしていますか。  
 あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)



主要な活動内容は「スポーツ・レクリエーション・野外活動」である。

前問で「仲間とやっているグループ・サークル・団体など」と回答した人(241人)に、参加団体などの活動内容について聞いた。

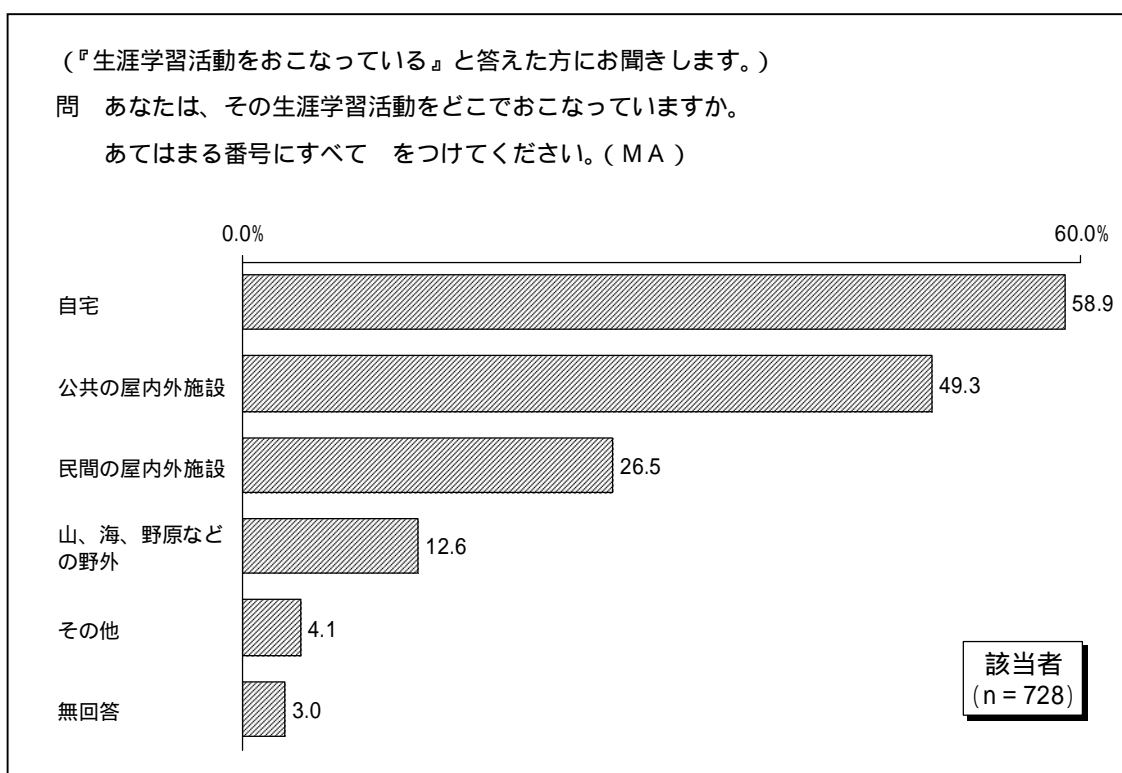
### 【全体結果の要約】

「スポーツ・レクリエーション・野外活動」が最も多く、半数弱が回答した。以下、「地域づくり・ボランティア活動」、「文化・芸術活動」の順で続く。

### 【結果考察】

地区別にみると、仲間とやっているグループ・サークル・団体などの活動内容に違いがみられる。それぞれの項目で最も高い割合の地区は、以下のとおりである。「スポーツ・レクリエーション・野外活動」は北区(59%)、「地域づくり・ボランティア活動」は秋葉区(54%)、「文化・芸術活動」は中央区(29%)、「子育て支援活動・教育支援(学校支援)活動」は東区(28%)、「自然保護・環境美化活動」は秋葉区(27%)、「技術や資格を身につける活動」は西区(24%)、「歴史・郷土史について学ぶ活動」は江南区(13%)、「衣食住について学ぶ活動」は南区(13%)、「政治・経済について学ぶ活動」は東区(7%)となっている。参加団体などの活動内容に、それぞれの地区の特徴があらわれている。

## 生涯学習活動の活動場所



「自宅」活動者が約6割いるが、活動場所は多岐にわたる。

『生涯学習活動をおこなっている』と回答した人(728人)に、その活動場所について聞いた。

### 【全体結果の要約】

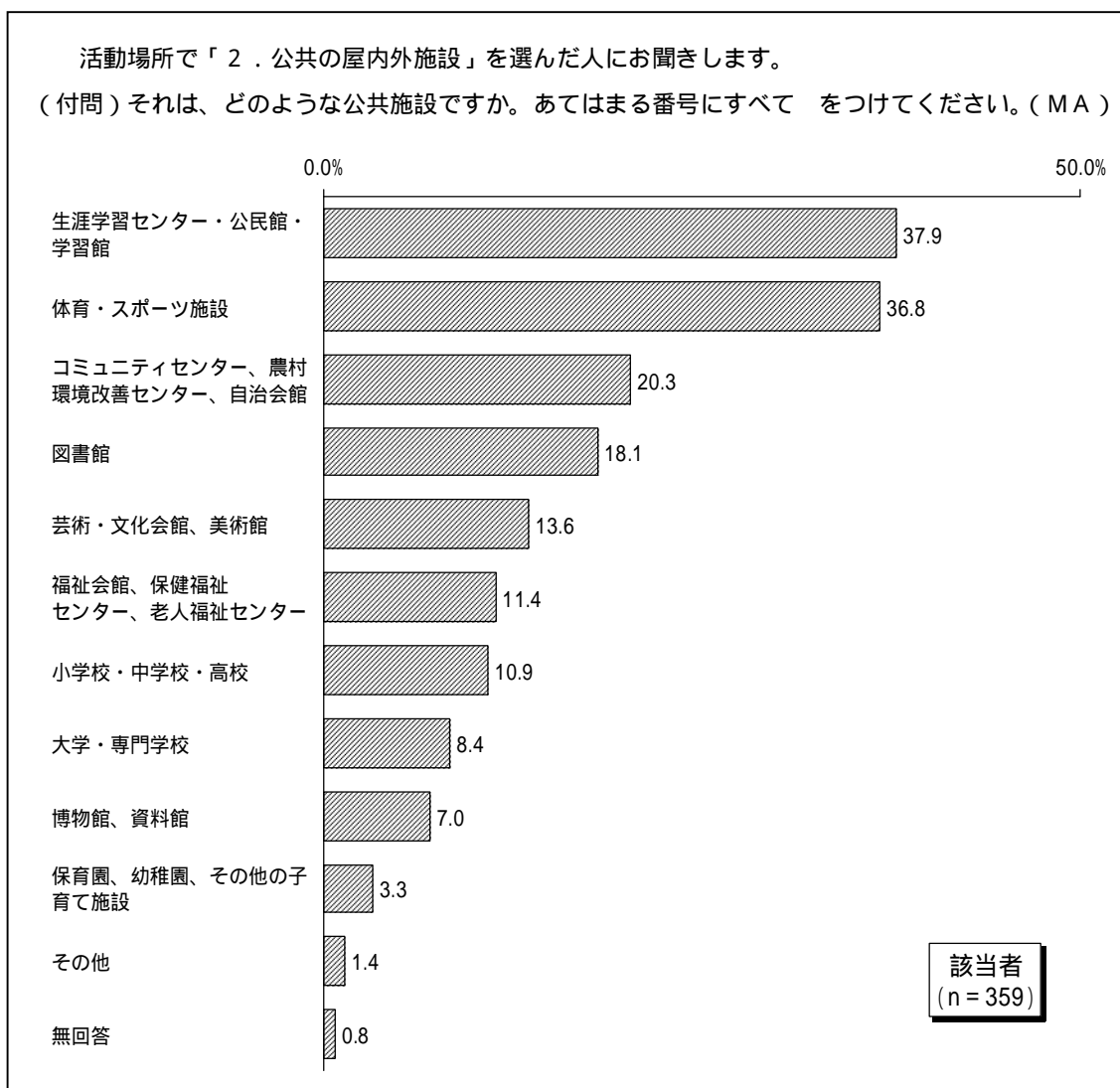
「自宅」で生涯学習活動をおこなっているとの回答が最も多い。

「公共の屋内外施設」を利用し活動している人も半数程度いる。その他、「民間の屋内外施設」も4人に1人程度、「山、海、野原などの野外」も1割強あり、活動場所は多岐にわたっている。

### 【結果考察】

「自宅」での活動者は、20歳代、30歳代がそれぞれ72%、80%となっており、若年層が特に多い。50歳代以上の中高年層では、5割以上の方が「公共の屋内外施設」で活動しており、公共施設の利用率が高い。

## 利用している公共施設の種類の種類



「生涯学習センター・公民館・学習館」「体育・スポーツ施設」の利用者が多い。

前問で「公共の屋内外施設」と回答した人(359人)に、施設の種類について聞いた。

### 【全体結果の要約】

「生涯学習センター・公民館・学習館」と「体育・スポーツ施設」の回答が3割を超えており、これら二種の公共施設の利用者が多い。



## 【結果考察】

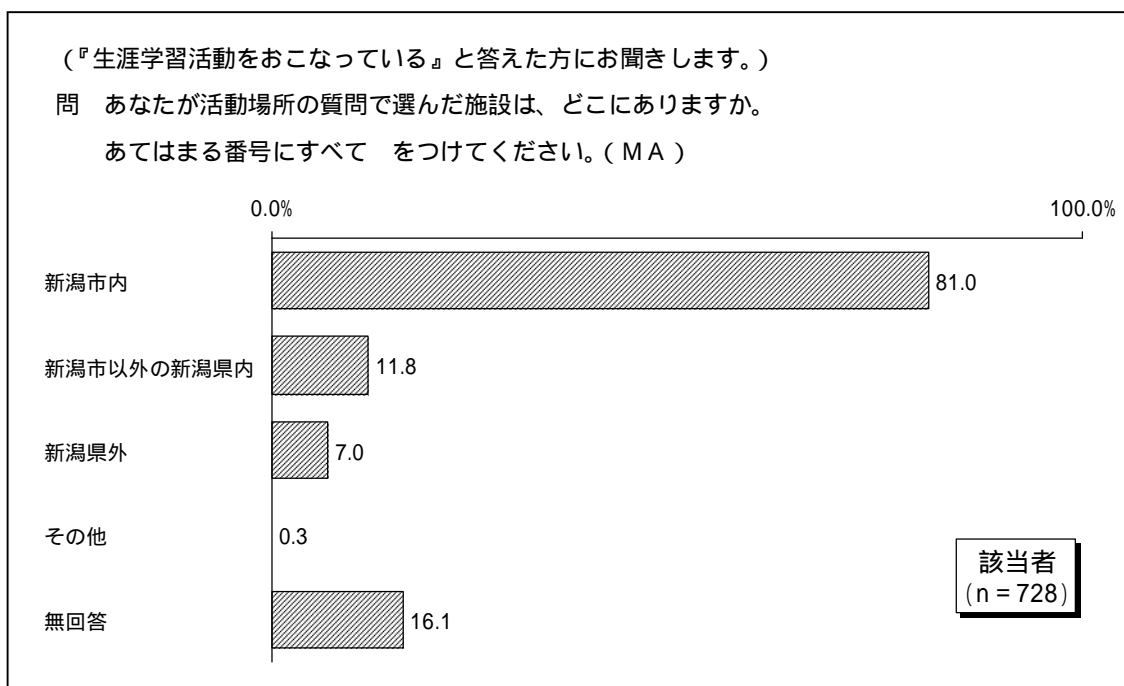
地区別による公共施設の利用の違いがみられる。それぞれの項目で最も高い割合の地区は、以下のとおりである。「生涯学習センター・公民館・学習館」は、秋葉区の56%である。

「体育・スポーツ施設」は、北区の50%である。「コミュニティセンター、農村環境改善センター、自治会館」は、江南区、南区の33%である。「図書館」は、中央区の22%である。「芸術・文化会館、美術館」は、西蒲区が19%である。「福社会館、保健福祉センター、老人福祉センター」は、秋葉区の22%である。「小学校・中学校・高校」は、西蒲区の19%である。

「大学・専門学校」は、西区の15%である。「博物館、資料館」は、東区の10%である。「保育園、幼稚園、その他の子育て施設」は、秋葉区の9%である。

「グループ・サークル・団体などの活動内容」の結果と比べてみると、「スポーツ・レクリエーション・野外活動」が多い北区では「体育・スポーツ施設」の利用率が高く、「地域づくり・ボランティア活動」や「自然保護・環境美化活動」が多い秋葉区では「生涯学習センター・公民館・学習館」の利用率が高い。「文化・芸術活動」が多い中央区では「図書館」の利用率が、「技術や資格を身につける活動」が多い西区では「大学・専門学校」の利用率が、それぞれ他の地区と比べて高くなっている。「グループ・サークル・団体などの活動内容」と「利用している公共施設の種類」との間には、関連があることがわかる。

## 活動場所の所在地



約 8 割の人は、自宅を含めた市内で生涯学習をおこなっている。

『生涯学習活動をおこなっている』と回答した人(728人)に、活動している場所や施設などの所在地について聞いた。

### 【全体結果の要約】

多数は「新潟市内」を活動拠点としている。

一方で、「新潟市以外の新潟県内」や「新潟県外」に活動場所がある人も 1 割前後いる。

### 【結果考察】

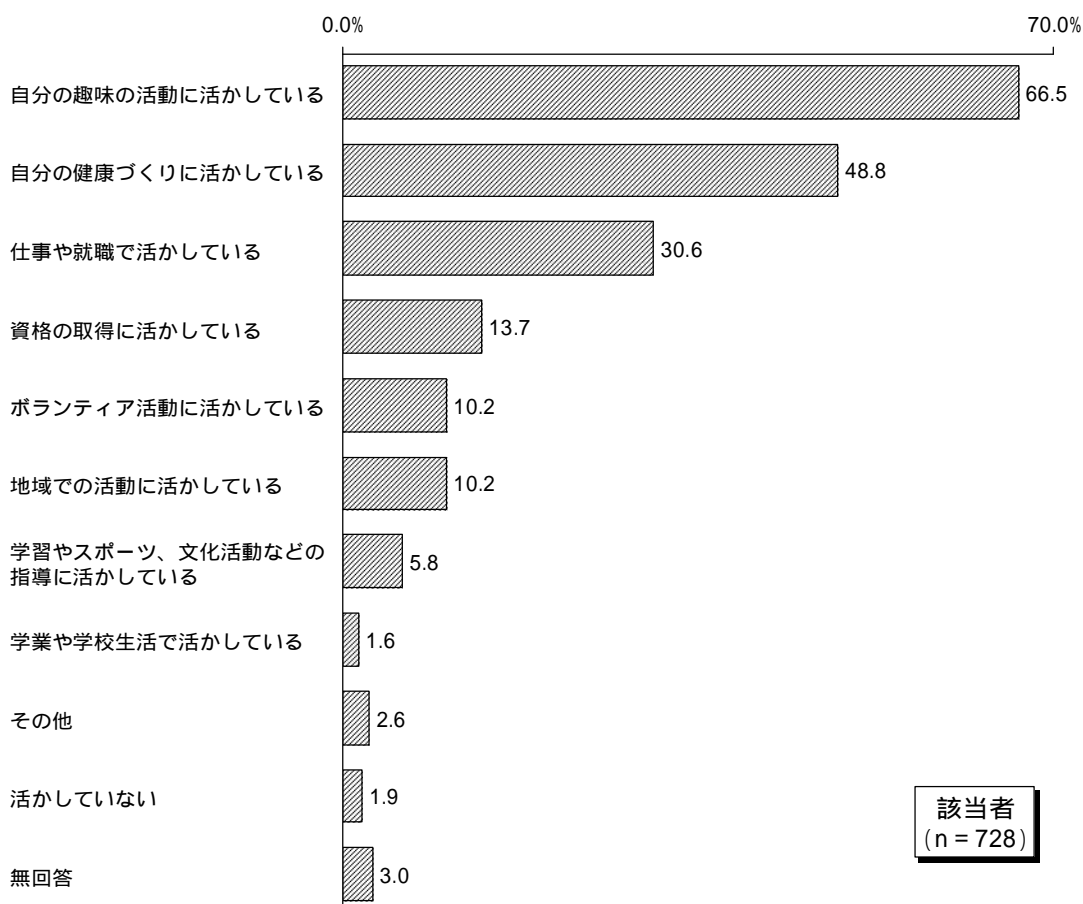
「新潟市以外の新潟県内」や「新潟県外」で活動している人は、女性より男性が多い。

## 身につけた知識や技能の活用

(『生涯学習活動をおこなっている』と答えた方にお聞きします。)

問 あなたは、生涯学習活動で身につけた知識や技能をどのように活かしていますか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)



約3人に2人が「自分の趣味」に活かしている。

『生涯学習活動をおこなっている』と回答した人(728人)に、生涯学習活動で身につけた知識や技能をどのように活かしているかについて聞いた。

### 【全体結果の要約】

「自分の趣味の活動に活かしている」人が3分の2程度いる。「自分の健康づくりに活かしている」人も半数弱いる。更に、「仕事や就職で活かしている」人も約3割はいる。上記以外の活用先は1割台以下まで下がる。

### 【結果考察】

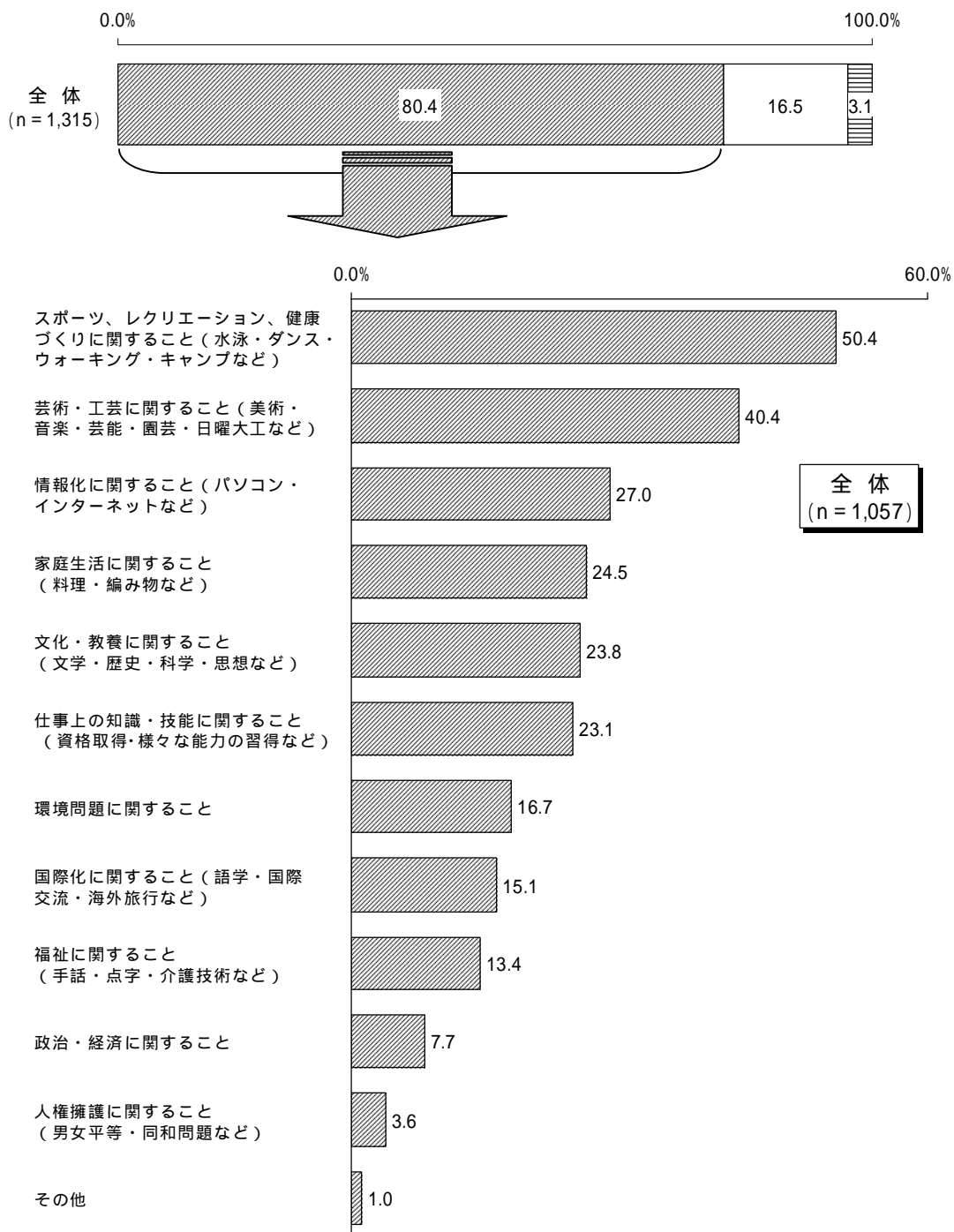
年代別にみると、どの年代でも「自分の趣味の活動に活かしている」割合が最も高くなっている。「自分の健康づくりに活かしている」では、高齢層（60 歳代以上）中堅層（40 歳代・50 歳代）が多く、「仕事や就職で活かしている」、「資格の取得に活かしている」は、若年層（20 歳代・30 歳代）が多い。また、「地域の活動に活かしている」では、団塊の世代（昭和 22 年[1947]から昭和 24[1949]年の 3 年間に生まれた世代）が全体の約 2 倍の 21% という高い割合を示している。

## (2) 生涯学習活動に対する今後の意向

### 実施してみたい生涯学習活動

問 あなたが、これから生涯学習活動としておこなってみたいと思っていることはありますか。  
 あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)

■ 今後の生涯学習活動の実施意向者 □ 特にない ▨ 無回答



「スポーツ、レクリエーション、健康づくり」や「芸術・工芸」への意向が強い。

これからおこなってみたいと思っている生涯学習活動について聞いた。

#### 【全体結果の要約】

約8割の人は、今後「生涯学習活動」をおこなってみたいと回答した。

おこなってみたい人の活動内容として最も多いのは、「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること（水泳・ダンス・ウォーキング・キャンプなど）」で、「芸術・工芸に関すること（美術・音楽・芸能・園芸・日曜大工など）」を望む人がこれに次ぐ。

以下、おこなってみたい人ベースの回答率2割台で、「情報化に関すること（パソコン・インターネットなど）」(27%)、「家庭生活に関すること（料理・編み物など）」(25%)、「文化・教養に関すること（文学・歴史・科学・思想など）」(24%)、「仕事上の知識・技能に関すること（資格取得・様々な能力の習得など）」(23%)が続く。

一方で、「環境問題に関すること」(17%)、「国際化に関すること（語学・国際交流・海外旅行など）」(15%)、「福祉に関すること（手話・点字・介護技術など）」(13%)は回答率1割台にとどまっている。更に、「政治・経済に関すること」(8%)、「人権擁護に関すること（男女平等・同和問題など）」(4%)などは少なく、回答率は1割に満たない。

#### 【結果考察】

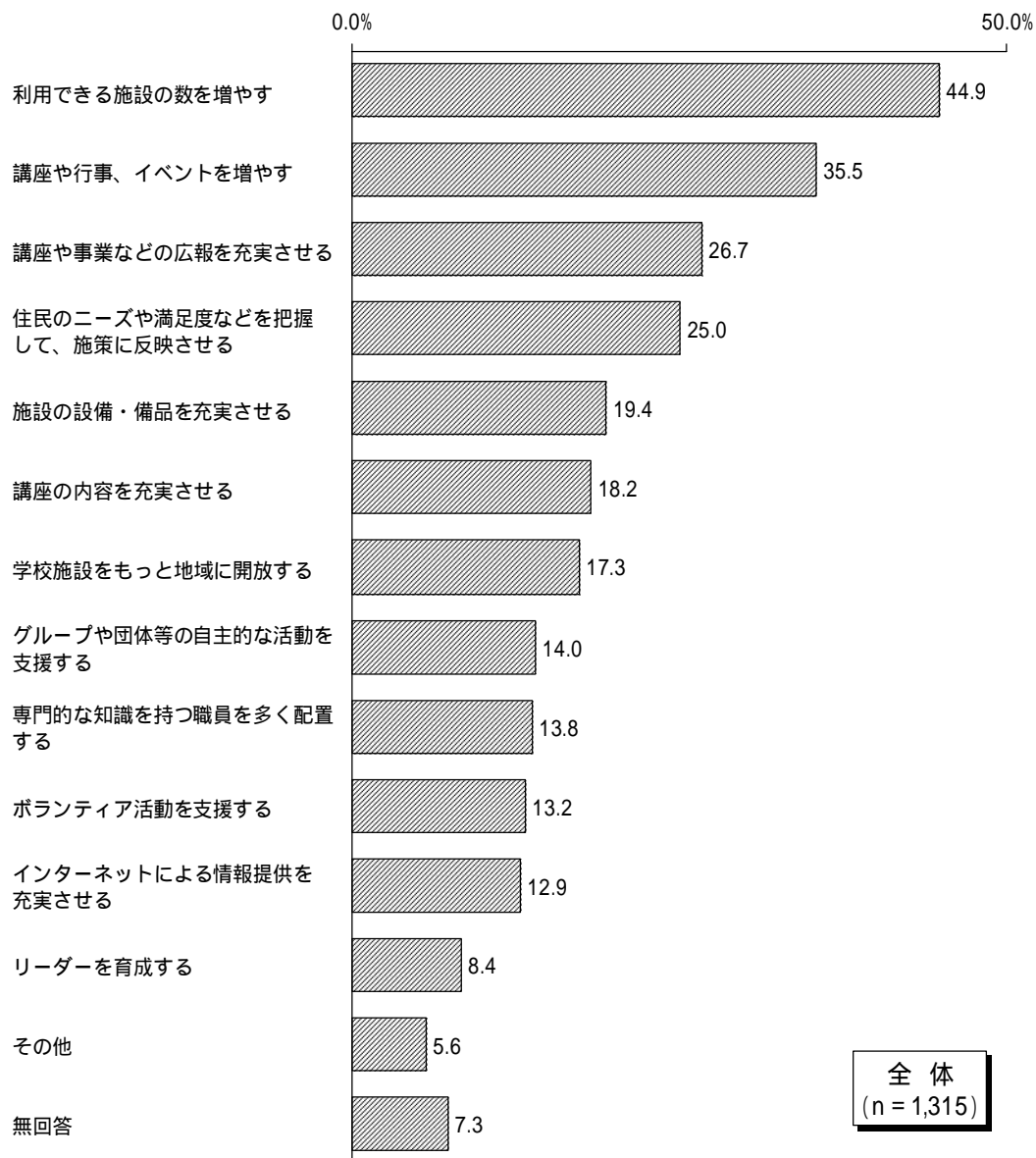
約8割の人が生涯学習活動を実施してみたい意向を持っており、実際におこなっている人の割合55%と比べると、その割合が高くなっている。

実際におこなっている人では「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること」、「芸術・工芸に関すること」、「仕事上の知識・技能に関すること」の順で実施者が多いが、意向では「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること」、「芸術・工芸に関すること」に続いて「情報化に関すること（パソコン・インターネットなど）」が3番目に多くなっている。「情報化に関すること」については、若年層（20歳代・30歳代）だけでなく、中堅層（40歳代・50歳代）でも実施したい意向を持っている人が多い。

「特になし」と回答した人では、目標別では「その日その日を自由に過ごす」(24%)、自由時間別では「8時間以上」（平日：34%、休日：21%）を選択した人が、他の項目を選択した人より割合が高くなっている。

## 施策への要望

問 生涯学習活動をもっと盛んにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号を3つ選んでをつけてください。(3A)



「利用施設の増加」と「講座やイベントなどの充実」が二大要望である。

生涯学習活動を盛んにするために、市が力を入れるべきことについて聞いた。

**【全体結果の要約】**

「利用できる施設の数を増やす」との回答が最も多い。これに「講座や行事、イベントを増やす」が3割台で次ぐ。また、「講座や事業などの広報を充実させる」や「住民のニーズや満足度を把握して、施策に反映させる」との要望も4分の1程度ある。一方で、「リーダーを育成する」との声は1割に満たない。

**【結果考察】**

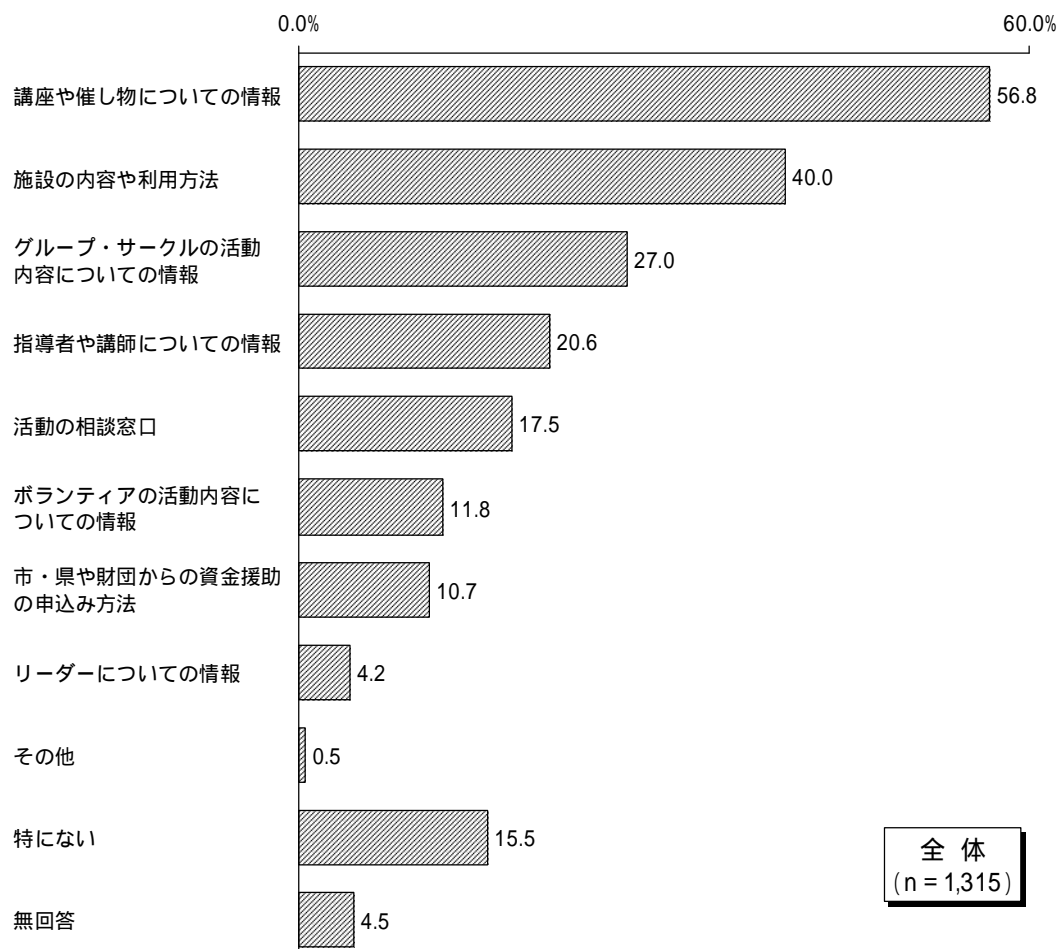
平日・休日の自由時間の用途別にみると、「福祉・ボランティア活動にとりくむ」を選択した人では、「リーダーを育成する」(平日：17%、休日：16%)において全体の約2倍、「ボランティア活動を支援する」(平日：43%、休日：45%)においては全体の3倍以上の割合を示しており、それぞれ要望が高くなっている。



## 入手したい情報

問 あなたが生涯学習活動をおこなう上で、手に入れたい情報はありますか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)



「講座や催し物についての情報」の必要性が高い。

生涯学習活動をおこなう上で、手に入れたい情報について聞いた。

### 【全体結果の要約】

過半数が「講座や催し物についての情報」の入手を望んでいる。

「施設の内容や利用方法」を望む人も4割いる。

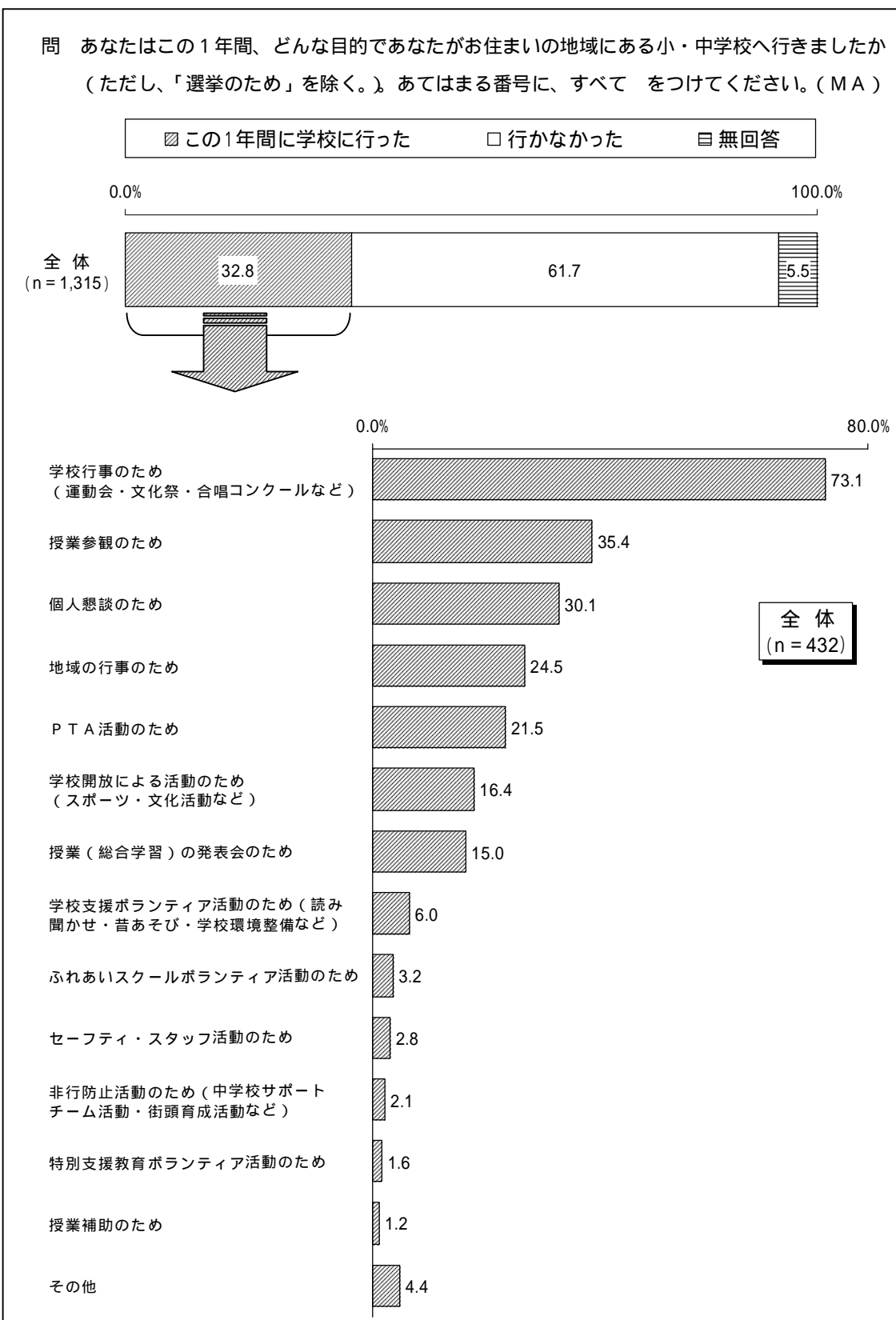
### 【結果考察】

目標別でみると、「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」を選択した人は、他の目標を持つ人と比べて、「講座や催し物についての情報」(66%)、「施設の内容の利用方法」(47%)の入手を望む割合が高い。「身近な人たちと、なごやかな毎日を送る」を選択した人では、「グループ・サークルの活動内容についての情報」(31%)を手に入れたいとしている。「みんなと力を合わせて、世の中をよくする」を選択した人は、「指導者や講師についての情報」(29%)、「活動の相談窓口」(31%)、「ボランティアの活動内容についての情報」(18%)、「市・県や財団からの資金援助の申込み方法」(18%)、「リーダーについての情報」(8%)を望む傾向がある。

また、「特にない」の項目では、「その日その日を自由に楽しく過ごす」を選んだ人が25%と高い割合になっている。

## 2 社会活動への関わり

### (1) 学校訪問をめぐる状況



6割程度はここ1年間、学校を訪れたことがない。

過去1年間に、選挙投票の場合を除いて、地域の小・中学校を訪問した目的について聞いた。

【全体結果の要約】

6割強は「行かなかった」と回答した。

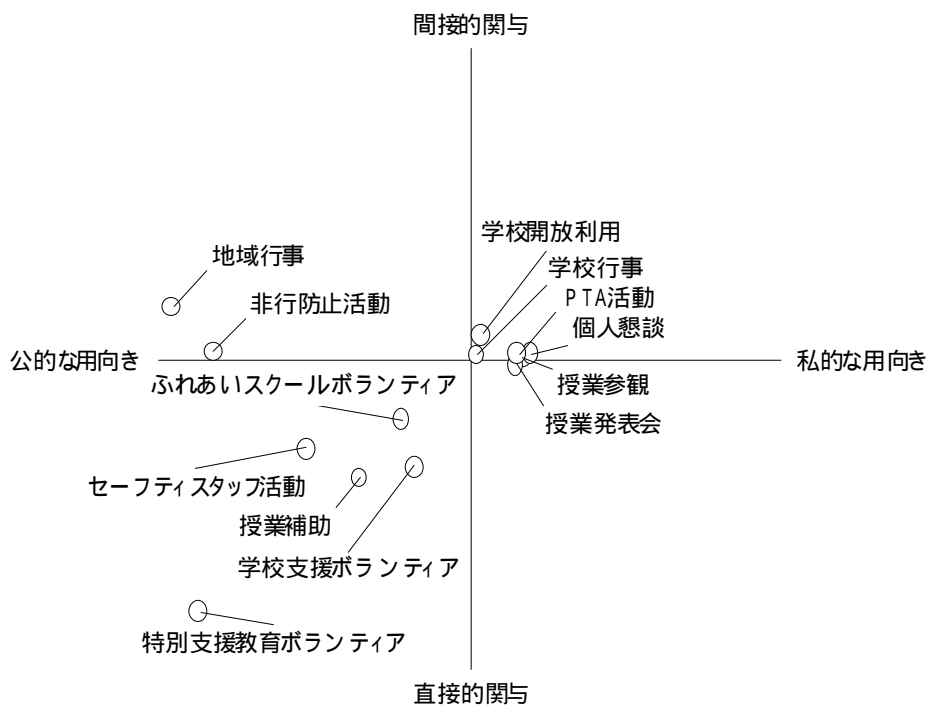
訪問目的（理由）で最も多かったのは、「学校行事のため（運動会・文化祭・合唱コンクールなど）」である。

【結果考察】(図2 - 1 参照)

この1年間に学校を訪れた人について、訪問目的別の回答傾向をみてみよう。

回答パターンをもとに訪問目的を分類した結果が図2 - 1である（注）。

<図2 - 1> 学校訪問の目的の分類



分類法: コレスポンデンス分析

横軸は、訪問の用向きが保護者としての用事や自分のレクリエーションといった 私的なものか、自治会・町内会関連の用事のように 公的な性質のものかを表わしており、縦軸は訪問目的と学校の教育活動とのかかわりが 間接的 か 直接的 かを表わしていると解釈した。

図で右上の区画に集中しているのは、教育活動とのかかわりが 間接的 である 私的な用向きに分類される。具体的には、保護者としての訪問（「授業参観」「PTA 活動」「個人懇談」「学校行事」「授業発表会」）とスポーツ・文化活動のための訪問（「学校開放利用」）である。

保護者として学校を訪れているグループで目立つのは、30 歳代・40 歳代の女性である。「学校行事」については、30 歳代・40 歳代の男性の回答率も高い（それぞれ、83%/78%）が、30 歳代の女性では 92%、40 歳代女性では 86%とどちらも同じ年齢層の男性を大きく上回っている。60 歳代女性の回答率も 83%と両者にならんで高い。

「個人面談」（30 歳代女性 60%/男性 17%、40 歳代女性 83%/男性 27%）「PTA 活動」（30 歳代女性 38%/男性 13%、40 歳代女性 61%/男性 22%）など、ほかの用向きでは男女差が更に顕著に示された。学齢期の子をもつ 30 歳代・40 歳代では保護者としての用向きの多くを女性がこなしており、60 歳代女性は孫の学校行事の参観に出向いているようだ。言うまでもなく、これらの用向きで学校を訪問している人の大半は、子どもがいる世帯（「2 世代世帯」と「3 世代世帯」）の構成員である。学校訪問の目的別回答率の上位を、これら保護者としての訪問がほぼ独占している。

一方、「学校開放」の利用層の中心は 40 歳代の男性（41%）である。

左上の区画に位置づけられる「地域行事」と「非行防止活動」を訪問目的にあげる回答者の割合は、高齢層で比較的高い。「地域行事」をあげた人の割合が最も高いのは 60 歳代男性（53%）で、ついで 70 歳代以上男性（37%）という結果である。

左下の区画を占める訪問目的は、学校の教育活動のサポートに 直接 かかわる 公的な用向きという性質を共有している。回答率は 1%から 6%とおしなべて低い。保護者とは異なる立場で学校の活動を支える活動に関与している人があまりいないことを示している。

さまざまなかたちで授業を支援する活動（学校支援ボランティア、特別支援教育ボランティア、授業補助）や、放課後や学校休日、あるいは通学路における児童・生徒の福祉・安全を担保する活動（セーフティスタッフ、ふれあいスクールボランティア）はいずれも、学校と地域社会との結び目となり、「学・社・民の融合」推進の鍵となることが期待されているものだが、はじめられて間もない活動も多く、普及・定着にはもうすこし時間を要するようである。

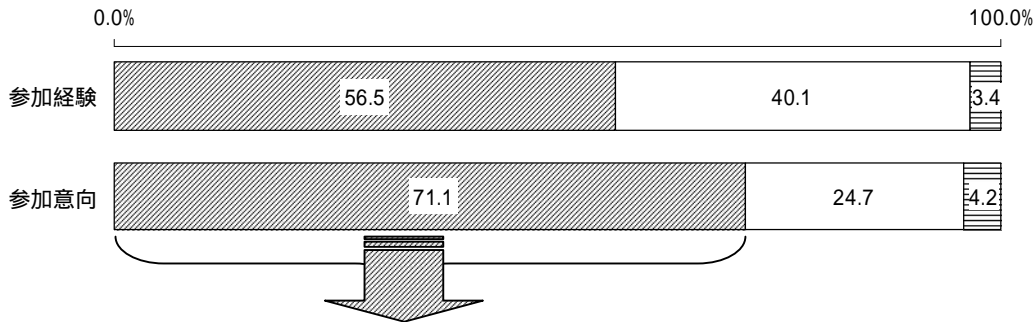
（注）以下では、複数回答形式の設問への回答パターンを分析し、その結果をもとに選択肢項目の分類をおこなっている。分析には数量化 III 類とコレスポンデンス分析を適宜用いた。いずれも、選択肢項目への反応から得られるデータを、もとの項目を束ねてできる少数の項目に集約する目的でつかわれる多変量解析法である。分析の結果つくられた項目のうち、データの性質を説明する力がもっとも強い項目を横軸に、つぎに強い項目を縦軸にとって座標空間を描き、選択肢の各項目をそれぞれに与えられたスコアにもとづいて配置している。以下で示す分類図も同様に作成した。

横軸・縦軸が意味する特性にかんして類似性をもつ項目は、座標空間上では互いに近い位置に配置されている。また、2つの軸が直交する原点から上下左右いずれかの方向に離れている項目ほど、それぞれの軸が意味する特性をつよく帯びていると解釈することができる。

## (2) 社会活動への参加

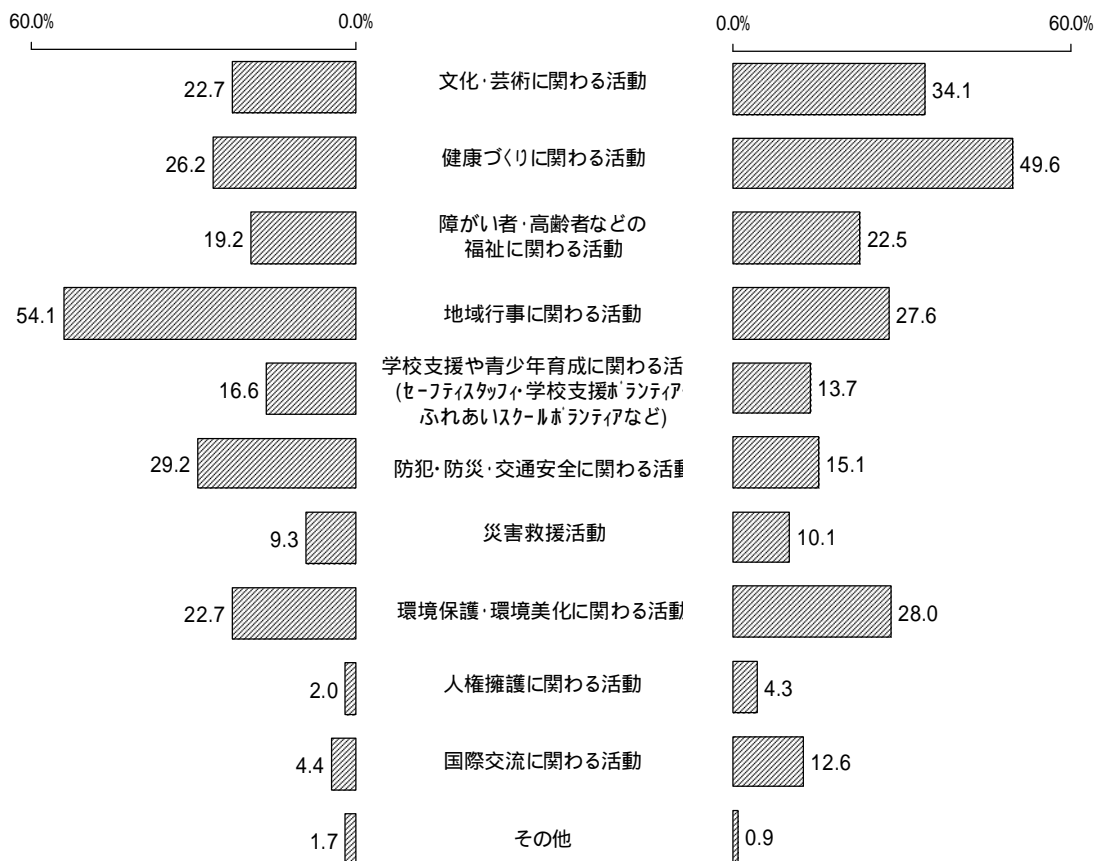
- 問 次の中で、あなたがこれまでに参加したことがある社会活動はありますか。  
 あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)
- 問 あなたが今後、参加してみたい社会活動はありますか。  
 あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)

☑ 社会活動参加者/今後の参加意向者    □ 参加したことはない/参加したい活動はない    〇 無回答



参加した社会活動内容  
 全体 (n = 743)

実施したい社会活動内容  
 全体 (n = 935)



4 割の人は、自己意思による『社会活動』未経験者、  
今後の意向は「健康づくり」や「文化・芸術」が比較的多い。

これまでに参加したことのある社会活動、及び、今後、参加してみたいと思っている社会活動について聞いた。

#### 【全体結果の要約】

社会活動への参加経験をその参加内容とともに問うたところ、約 4 割は未経験者であった。

実際に参加したことのある社会活動で最も多かったのは「地域行事に関わる活動」で、約 5 割が回答した。

また、今後の参加意向の活動内容は、「健康づくりにかかわる活動」への意向が最も多い。「文化・芸術にかかわる活動」を望む人も 4 人に 1 人程度いる。

一方で「特にない」と回答した人も 4 人に 1 人程度いることに留意したい。

#### 社会活動への参加経験

#### 【結果考察】

分野を問わず、社会活動に 1 つ以上参加した経験をもつ人の内訳をみると、男女では差がないが、年齢層別では 20 歳代・30 歳代の若年層で経験率が低い（それぞれ、47% / 43%）。この結果はある程度、過去から現在までの経験をたずねた結果であることを反映したものであろう。生活歴が長い人ほど、なんらかの活動に参加する機会とこれまでに会うことも多かったと考えられるからである。

また、業種・職種別では、自営業主（70%）と学生（71%）で参加経験率が高い。大半が経験率の低い 20 歳代に属していることを考え合わせると、学生は社会活動への参加機会をきわめて積極的に活用している層であることがうかがえる。

世帯構成別では、「ひとり暮らし」で参加経験がない人の割合が高い（59%）。「ひとり暮らし」がとくに若年層に偏っているわけではないので、この結果はやはり単独世帯という生活形態に特有の事情を反映したものと考えられる。この点は活動分野別の傾向を考察する際にあらためて検討したい。

今回の調査では、回答者の生活目標をたずねる質問を設けている。NHK 放送文化研究所が 5 年ごとに実施している「日本人の意識」調査にならい、「その日その日を自由に楽しく過ごす」（快志向型）、「しっかりと計画を立てて豊かな生活を築く」（利志向型）、「身近な人たちとなごやかな毎日を送る」（愛志向型）、「みんなと力を合わせて世の中をよくする」（正志向型）の 4 つから 1 つを選んでもらった。その回答結果別にみると、正志向型の回答者で活動参加経験率が顕著に高かった（72%）。ただし、このグループのシェアは 6%と 4 つのなかでもっとも小さいことも書き添えておく（2003 年実施の全国調査では、正志向型が 7%だった。NHK 放送文化研究所編 2004. 『現代日本人の意識構造 [ 第六版 ]』NHK ブックスを参照）。

特筆すべきは、平日・休日それぞれで自由に使える時間を答えてもらった結果と参加経験率とのあいだに、ほとんど差がないことである。たしかに、参加経験は過去をふくめて聞いたもので、自由時間はもっぱら現在の状況をたずねた質問である。したがって、この結果からただちに時間的余裕が活動参加と無関連であるとまでは言えない。だがすくなくとも、活動参加経験がない理由や活動休止・停止理由としてもっとも多くの回答を集めた「時間的余裕のなさ」が、現実の生活実態（主観的な「多忙感」ではなく実際の「多忙さ」）をどこまで反映したものなのか、吟味してみる必要はありそうだ。「時間」の問題は、以下でも関連する項目のところで検討する。



## 社会活動への参加意思

### 【結果考察】

これから参加してみたい社会活動が1つ以上ある人の割合は、男性よりも女性でやや高い（女性77% / 男性71%）。年齢層別でもっとも高いのは20歳代で、80%が参加してみたい活動をあげている（逆にもっとも低いのは70歳代以上の59%）。業種・職種別では学生の91%が参加意思を示している。

また、世帯構成別では、参加意思の有無にほとんど差がない。参加経験率の低い「ひとり暮らし」でも、73%が参加したい活動を1つ以上あげている。

若年層や単身生活者は社会活動への参加経験率こそ低いが、参加する意思が希薄であるわけではない。彼/彼女たちの参加意思を実際の参加につなぐことができれば、活動参加率全体がかなり底上げされることが見込まれる。

ここでも平日・休日の自由時間別でみた回答傾向は注目に値する。平日・休日のいずれについても、自由時間の長さで参加意思の高さにはあまり差がない（自由になる時間が「平日8時間以上」のグループで参加したい活動があると回答した人の割合は53%でむしろ低いが、これは70歳代以上のシェアが大きいためと考えられる）。参加意思の有無は、時間的余裕の多寡とほぼ無関係だと言える。

参加経験と参加意思との関連も簡単に確認しておこう。本調査では、これまで参加したことのある活動分野とこれから参加してみたい活動分野のどちらも、制限なしの複数回答形式でたずねている。2つの設問について、「参加したことのある（してみたい）活動はない」と「無回答」をのぞいた回答数（つまり「参加したことのある活動分野数」と「参加してみたい活動分野数」）の関係をみると、さまざまな活動への参加経験をもつ人のほうが、これから参加してみたい活動もたくさんあげていることが確認できる（相関係数は0.35、1%水準で有意）。また、「これまで参加したことのある活動分野数」と「これから参加してみたい活動分野数」のそれぞれと「実施している生涯学習分野数」との関係をみても、これまで経験した社会活動分野が多い人、これから参加してみたい社会活動分野が多い人ほど、幅広い分野の学習にとりくんでいる、という傾向が読みとれる（相関係数はそれぞれ0.39 / 0.34、どちらも1%水準で有意）。

（注）「有意」とは、確率論や統計学の用語で、ある数値が「確率的にみて偶然に起きているとは考えにくく、関連性や差の有無を判定するうえで意味をもっているとみなすことができる」ことを示す。

ここでは、二つの設問の回答間の関連性の強さを示す「相関係数」という数値について、有意水準1%（数値が偶然に生じた確率が1%以上のときは「有意」とみなさない）を用い、それぞれの回答の関連性（たとえば、「参加経験のある活動分野数」を多く回答している人ほど、「参加してみたい活動分野数」を多くあげているという関連性）を判定している。

「1%水準で有意」というのは、「相当に高いハードルを設定しても、二つの設問にたいする回答傾向に関連性があるとみなすことができる」ことを意味している。

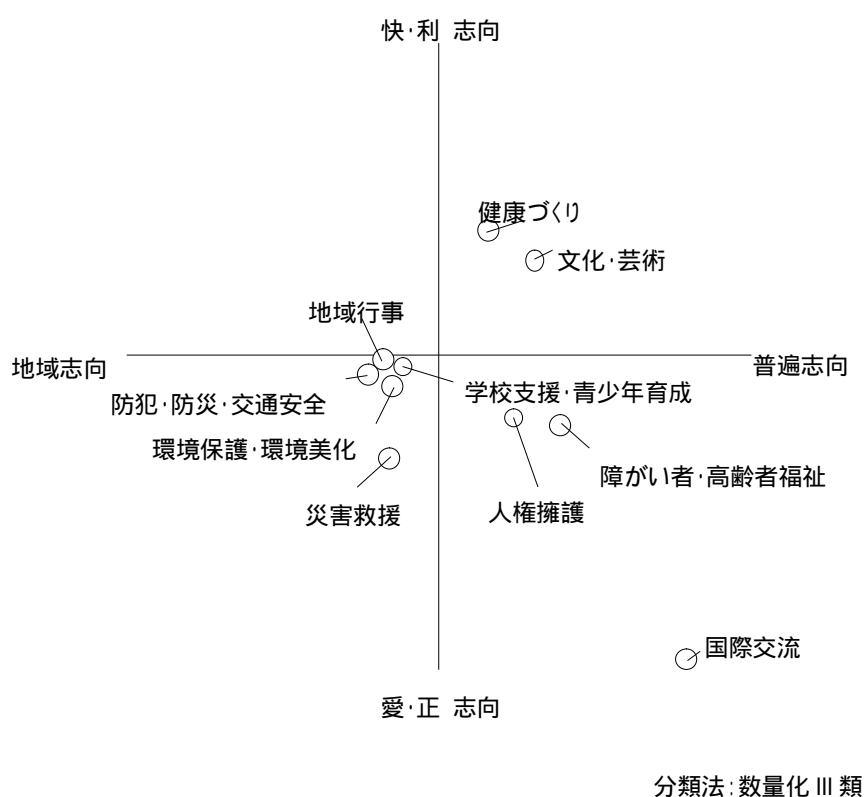
## 参加したことのある社会活動分野

【結果考察】(図2 - 2、表2 - 1・表2 - 2 参照)

つぎに、個別の活動分野に立ち入って、参加経験率をみていこう。

回答パターンをもとに 10 種の社会活動分野を分類した結果を図 2 - 2 に示した。

< 図 2 - 2 > 参加したことのある社会活動の分類



ここでは、横軸のプラス方向が各活動分野のもつ 普遍 志向、マイナス方向が 地域 志向を示しており、縦軸はプラス方向が 快・利 志向、マイナス方向が 愛・正 志向を表わしていると解釈した。前項で述べたように、快・利 志向とは自己充実を優先する姿勢を、愛・正 志向は人との絆や世直しを優先する姿勢を、それぞれ意味する。

左下の区画には、参加経験率が圧倒的に高い「地域行事」をはじめ、「防犯・防災・交通安全」「環境保護・環境美化」「学校支援・青少年育成」「災害支援」の5つが配置されている。これら 地域 + 愛・正 志向型の活動は、自治会・町内会を拠点に展開されているものと考えられる。

右上の区画を占めているのは、「健康づくり」と「文化・芸術」の2つである。両者には心身面の自己充実を追求する 普遍 + 快・利 志向型の活動という共通点があり、ど

ちらも参加経験率は比較的高い。

「人権擁護」「障がい者・高齢者福祉」「国際交流」の3つは 普遍 + 愛・正 志向型に分類できる。このうち「障がい者・高齢者福祉」の経験率は2割程度だが、あとの2つは参加経験率がきわめて低い。同じく 愛・正 志向型の活動でも、「地域行事」のように自治会・町内会と密接にリンクした活動か、「国際交流」のようにそうした関連が希薄な活動かで、経験率には大きな差がある。

生活目標別では、「みんなと力を合わせて世の中をよくする」(正 志向型)の回答者で、すべての活動分野にわたって参加経験率がもっとも高かった。この人たちが、地域 志向型と 普遍 志向型とを問わず社会活動に積極的に関与するかたわら、心身面での自己充足の追求も怠らない、きわめてアクティブな層であることをうかがわせる。

活動参加への積極性で際だつグループは、平日・休日の自由時間の使いみちの回答結果からも浮かび上がってくる。平日と休日のどちらについても、「近所づきあいや町内会活動をおこなう」「福祉・ボランティア活動などにとりくむ」と答えたグループは、ほぼすべての活動分野で参加経験率が高い。なんらかの社会活動に参加した経験をもっているのは、平日・休日「近所づきあい・町内会活動」従事者でそれぞれ92%/90%、「福祉・ボランティア活動」従事者ではそれぞれ94%/98%となっており、この人たちの大半がきわめてアクティブな社会活動参加者であることは明らかである

更に、平日・休日の自由時間を「福祉・ボランティア活動」に使っている人では、そうでない人とくらべて「近所づきあいや町内会活動」従事者の割合が有意に高い。

また、正 志向の生活目標を掲げる人の割合が比較的高いことも、これらのグループの特徴である(「近所づきあい・町内会活動」に平日・休日に従事している人で、それぞれ15%/16%、同様に「福祉・ボランティア活動」では18%/18%)。

こうしたグループの回答者全体でのシェアはごく小さいが(「近所づきあい・町内会活動」従事者は平日7%/休日9%、「福祉・ボランティア活動」従事者は平日4%/休日3%)、各活動分野における精力的な担い手を多くふくんでいる層であると考えられる。

社会活動への関与度が高い「アクティブ層」(生活目標が 正 志向、平日・休日の自由時間を「近所づきあいや町内会活動」や「福祉・ボランティア活動」につかっている)の含有率は、50歳代以上の年齢層で比較的高い(表2-1 休日「福祉ボランティア活動」従事者では年齢層別の有意差なし)。

<表2-1> 社会活動「アクティブ層」指標の年齢層別回答率

	生活目標が 正 志向 (S.A.)		平日の自由時間を「近所づきあいや町内会活動」につかう (M.A.)		平日の自由時間を「福祉・ボランティア活動」につかう (M.A.)		休日の自由時間を「近所づきあいや町内会活動」につかう (M.A.)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
20歳代	5	3.8	0	0.0	0	0.0	4	3.0
30歳代	8	3.7	4	1.8	3	1.4	10	4.5
40歳代	6	2.9	5	2.4	2	1.0	13	6.3
50歳代	24	8.4	26	8.9	8	2.7	30	10.2
60歳代	15	7.0	19	8.4	21	9.3	28	12.3
70歳代以上	19	9.2	39	17.5	13	5.8	30	13.5
回答者全体	77	6.1	93	7.1	47	3.6	115	8.7

p. < .01

注：S.A.は単数回答形式の設問、M.A.は複数回答形式の設問であることを表わす。

こうしてみると、地域志向型の活動と 普遍志向型の活動の担い手とが互いに別の層に帰属しているわけではなく、地域志向型の活動に熱心な人たちの一部が 普遍志向型の活動にも積極的にとりくんでいる、という状況が浮かび上がってくる。

以上の考察は、社会活動全般への参加経験を規定するのが近隣関係にかかわる活動への参加状況であることをつよく示唆している。そこで次に、半数をこえる回答者が参加した経験をもっている「地域行事」に焦点をあててみよう。

「地域行事に関わる活動」への参加経験率をみると、女性（49%）より男性（61%）で高く、年齢層別では40歳代（59%）と50歳代（64%）の高さが目立つ。反対に低調なのは20歳代（41%）であり、分野不問でみた年齢別の参加経験率と同一の傾向が示された。

また、「ひとり暮らし」の「地域行事」参加経験率（40%）も目立って低い。単身生活者の参加経験率が低いことはすでに指摘したが、その理由はここから推察できそうだ。「ひとり暮らし」の人は、ふたり以上の世帯で暮らす人とくらべて近隣関係の「とっかかり」が少ないぶん、自治会・町内会活動に関与する機会が少ない。そのため、そこを足がかりにしてほかの活動に参加する機会も乏しいのではないかと考えられる。

ほかの活動分野についての回答とならべてみると、「地域行事」には際だった特徴がある。それは、この分野に参加した経験のある人の29%にほかの分野での活動経験がないことである（「その他」をのぞくほかの分野では、同様の数値が13%から20%の範囲にある）。

参加経験者について参加した活動分野数をみても、「地域行事」と回答した人では平均値が有意に小さい（表2-2 逆に平均値が有意に大きいのは「人権擁護」である）。「地域行事」の参加経験者には、さまざまな活動を積極的に展開している上記のアクティブ層が（おそらくはかなり少数）ふくまれている一方で、割り当てられた役務をこなす程度の関与にとどまっているかなり分厚い層もふくまれている、と考えられる。

<表2-2> 参加経験のある活動分野数（活動分野別の平均）

	平均	標準偏差	N
文化・芸術に関わる活動	3.07	1.82	169
健康づくりに関わる活動	2.95	1.74	195
障がい者・高齢者などの福祉に関わる活動	2.95	1.89	143
地域行事に関わる活動	2.50*	1.51	402
学校支援や青少年育成に関わる活動	3.15	1.75	123
防犯・防災・交通安全に関わる活動	2.99	1.72	217
防災救援活動	3.39	2.07	69
環境保護・環境美化に関わる活動	3.18	1.79	169
人権擁護に関わる活動	5.13*	2.92	15
国際交流に関わる活動	3.24	2.14	33
その他	1.62*	0.77	13

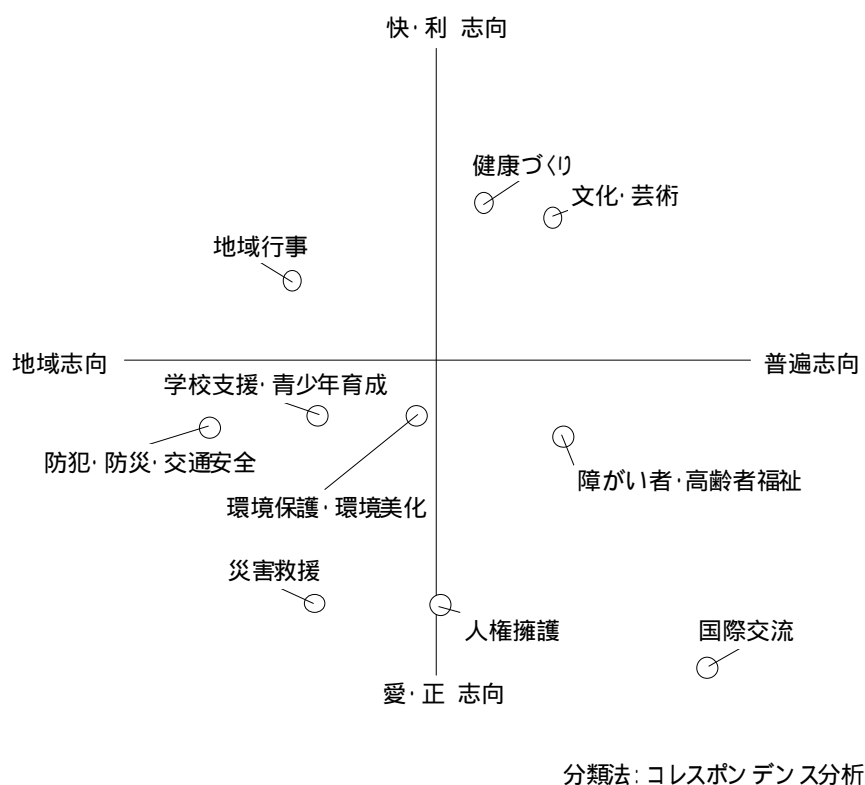
\* p<.01

## 参加してみたい社会活動分野

【結果考察】(図2 - 3 参照)

社会活動への参加意思についても、参加経験と同様に回答パターンから活動分野を分類した(図2-3)。

<図2 - 3> 参加してみたい社会活動の分類



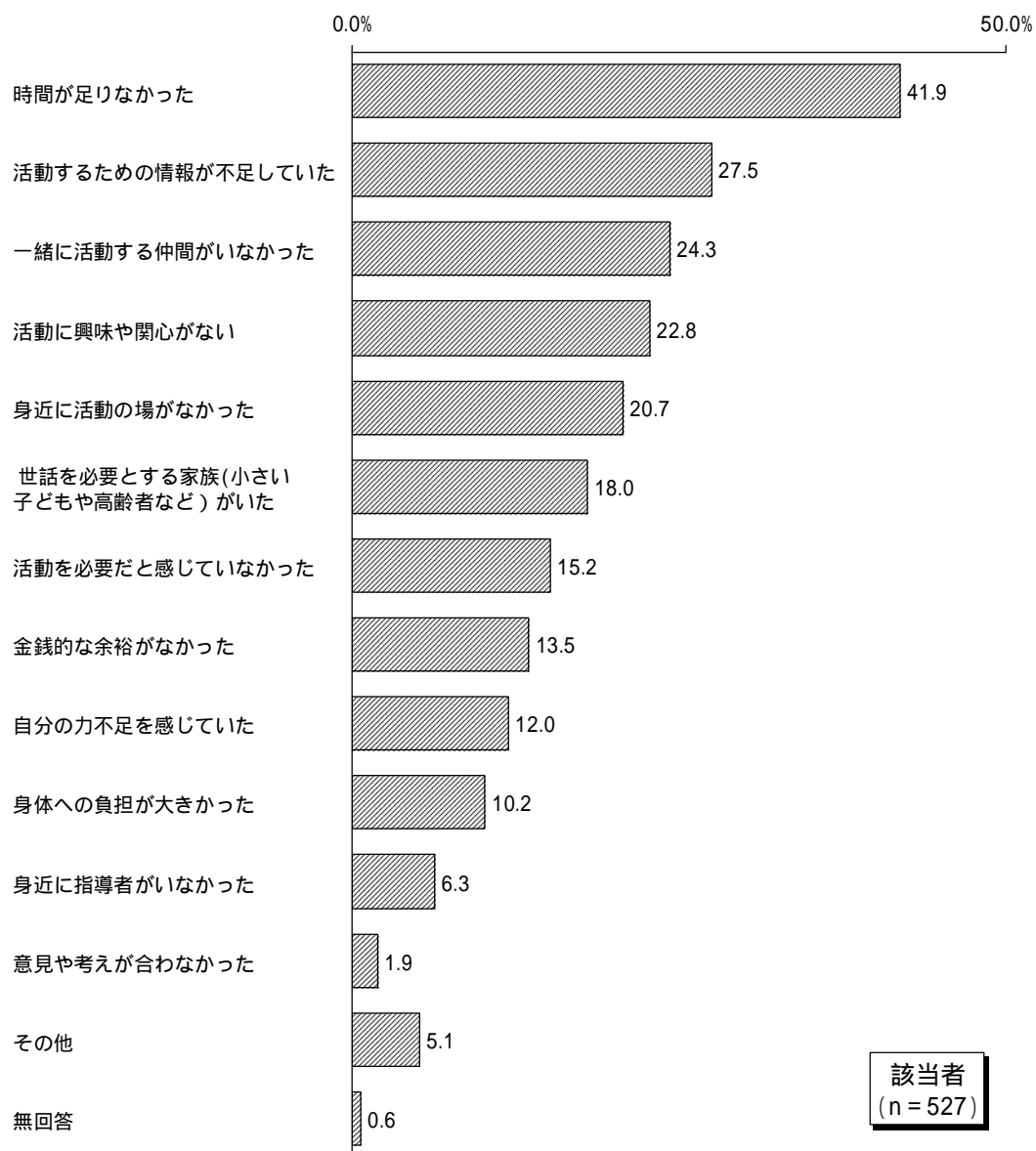
活動分野の位置関係はおおむね参加経験と同様だが、「地域行事」だけは 愛・正 志向型から 快・利 志向型に配置換えになったかたちである。ここでの「地域行事」は、健康や芸術作品と同じように、生活に楽しさ・彩り・ゆたかさをもたらすイベントとしてとらえられているものと解釈したい。

参加してみたい活動を1つ以上もつ回答者のほぼ半数があげた「健康づくり」は、容易に予想されるように、70歳代以上の65%をピークに高齢層の回答率が高い傾向がみられる。また、「団塊の世代」(1947-49年生)の回答者は、「文化・芸術」(41%)、「健康づくり」(60%)、「地域行事」(34%)、「環境保護・美化」(32%)といった分野の活動に参加意思をもつ人の割合が、前後の年齢層とくらべても目立って高い結果だった。

ここでも参加経験率と同様に、正 志向型の生活目標を掲げる人たち、平日・休日の自由時間の使いみちに「近所づきあいや町内会活動」や「福祉・ボランティア活動」をあげた人たちは、ほぼすべての分野で参加意思をもつ人の割合が高い。

### (3) 活動参加経験がない理由

「これまで上記のような社会活動に参加したことはない」を選んだ人にお聞きします。  
(付問) 参加しなかった、できなかった理由は何ですか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)



時間不足が最多理由であるが、情報不足も一因となっている。

「これまで社会活動に参加したことはない」と回答した人（527人）に、その理由、あるいは、阻害となった要因について聞いた。

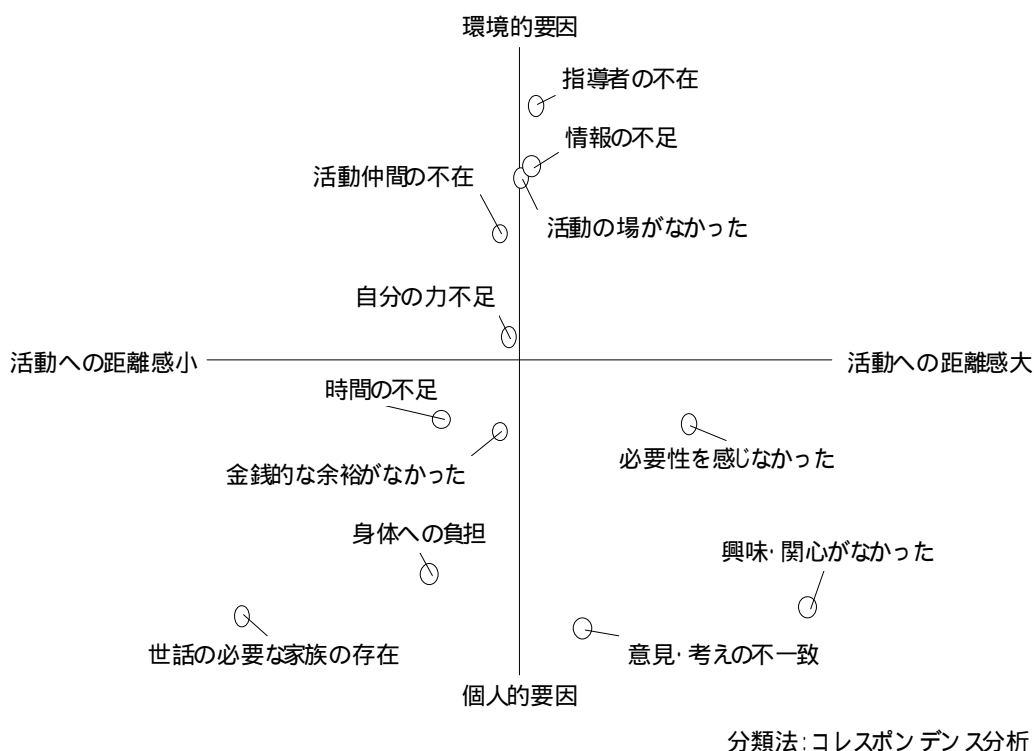
【全体結果の要約】

「時間が足りなかった」が最も多い。以下、回答率2割台で「活動するための情報が不足していた」、「一緒に活動する仲間がいなかった」、「活動に興味や関心がない」、「身近に活動の場がなかった」といった理由や要因が続く。

【結果考察】(図2 - 4 参照)

平日・休日の自由時間別に「時間の不足」をあげた人の割合をみると、たしかに「1時間未満」「1時間以上2時間未満」のグループで明らかに高い（平日では「1時間未満」62% / 「1時間以上2時間未満」60%、休日では「1時間未満」59% / 「1時間以上2時間未満」54%）。やはり多忙な生活を送っている人ほど「時間の不足」を意識する傾向が示されている。

<図2 - 4> 社会活動に参加したことがない理由の分類



選択肢にならべた理由を回答パターンで分類したのが図2-4である。ここでは横軸のプラス方向が「社会活動そのものへの距離感が大きいこと」、マイナス方向は「社会活動そのものへの距離感が小さいこと」を示している。

ものへの距離感が小さいこと を表わし、縦軸のプラス方向は 環境的な要因 を、マイナス方向は 個人的な要因 を、それぞれ表わしているものと意味づけた。

横軸に目を向けると、社会活動への 距離感が大きい ことを表わす「必要性を感じなかった」「興味・関心がなかった」という理由をあげる回答者が一定の割合を占めていることが確認できる。これら2つのグループでは、参加したい活動をあげた人の割合も低い(それぞれ、58%/40%。なお、活動参加未経験者全体での参加意思率は64%である)。

ほかの理由づけのもつ意味合いは、縦軸に沿ってながめると浮かび上がってくる。個人的 な要因という面がつよい理由では、「時間の不足」「世話の必要な家族の存在」の回答率が比較的高い。その一方で、「情報の不足」「活動仲間の不在」「活動の場がなかった」といった 環境的 な要因をあげる回答者がかなり多いこともわかる。

社会活動の参加にとってのハードルを下げる方策は、二方面で展開していく必要がある。ごく概括的に言えば、環境的 な阻害要因(「情報」「仲間」「場」の不足)については情報提供や活動機会(イベントや場所)の提供のあり方を見直すことで直接的に対応する余地があるし、個人的 な要因については、育児や介助を支援するサービスの手厚い提供が、参加率の底上げに間接的なかたちで寄与する可能性がある。

理由別に目立った傾向を拾い上げてみると、「時間の不足」をあげた人の割合は40歳代・50歳代の男性(それぞれ58%/57%)で高い一方、「世話の必要な家族の存在」をあげた人の割合は30歳代(30%)をピークに60歳代までの女性で高かった。「活動仲間の不在」をあげた人の割合が高いのは60歳代の男性(46%)、「情報の不足」の回答率が高いのは、20歳代の男女(42%/48%)と60歳代の男性(42%)、そして単身生活者(41%)である。

また、参加意思との関連では、環境的 な要因を参加経験のない理由としてあげた人たちの参加意思をもつ人の割合が高い傾向が読みとれる(「活動のための情報」81%/「活動仲間」80%/「活動の場」77%)。

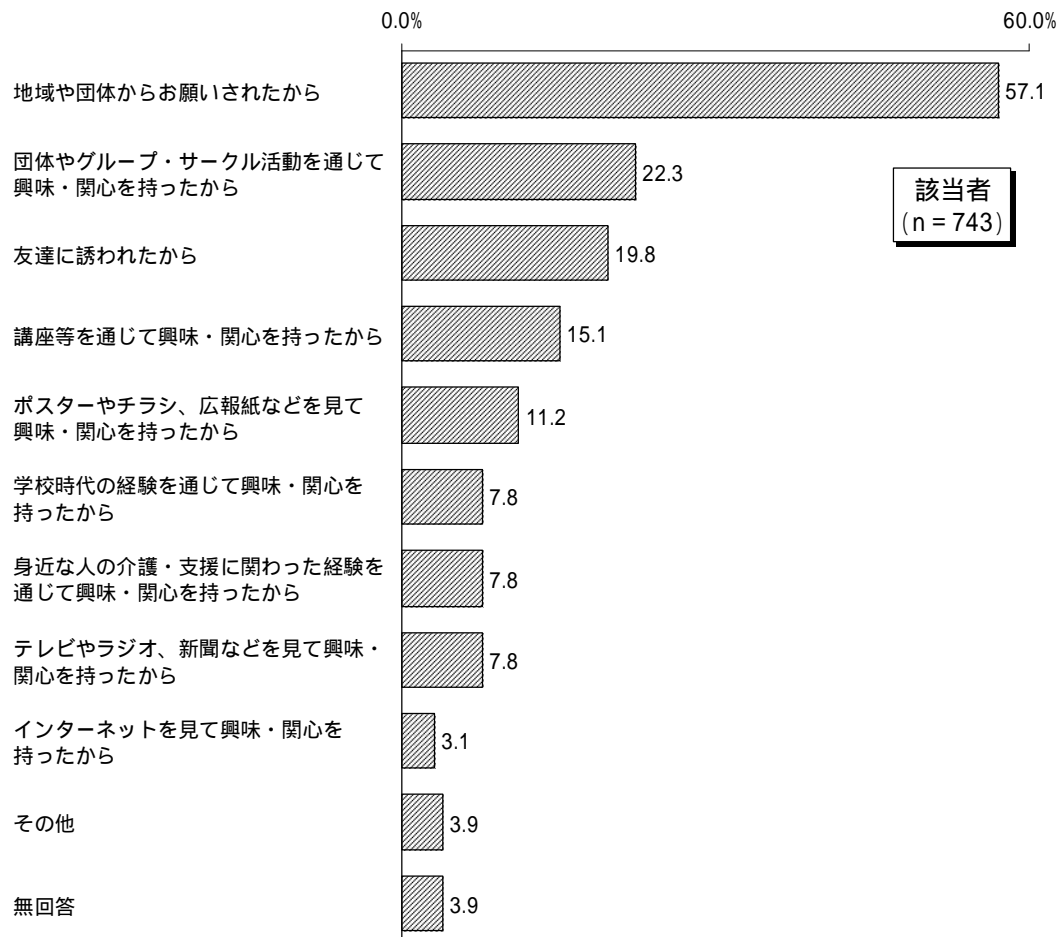


#### (4) 活動に参加したきっかけ

(『社会活動に参加したことがある』と答えた方にお聞きします。)

問 あなたが、社会活動に参加したきっかけは何ですか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)



参加者の6割弱は他者からの依頼による。

『社会活動に参加したことがある』と回答した人(743人)に、社会活動に参加したきっかけについて聞いた。

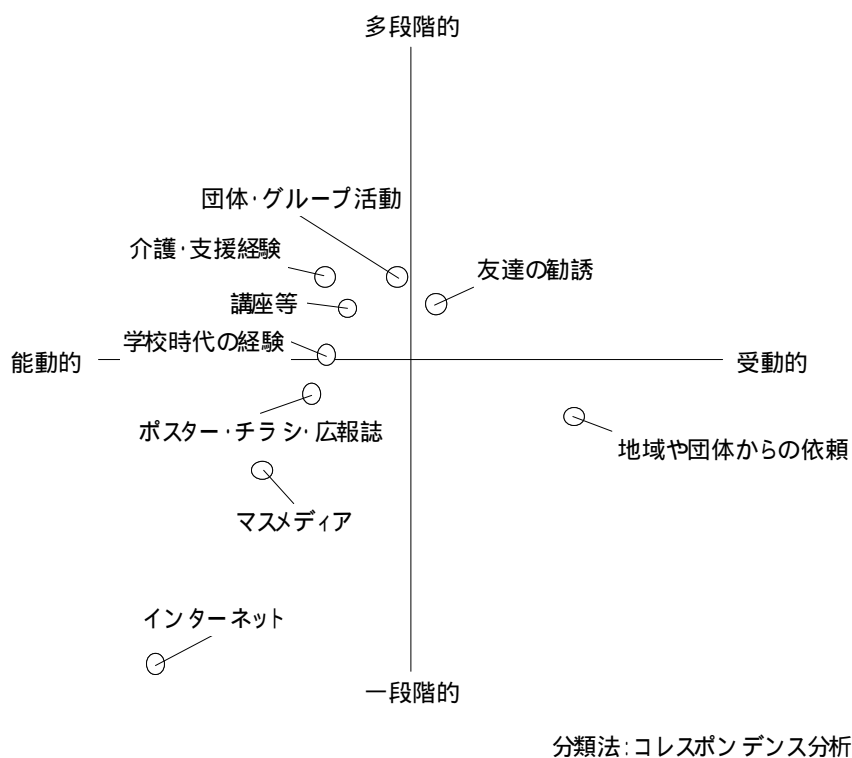
#### 【全体結果の要約】

多数は「地域や団体からお願いされたから」が社会活動参加のきっかけである。自発的な意志や目的、動機に起因する参加者は少ない。

【結果考察】(図2 - 5 参照)

活動経験者に聞いた参加のきっかけを回答パターンで分類した結果が図2-5である。

<図2 - 5> 社会活動に参加したきっかけの分類



縦軸は、生活史上の経験（学校生活、交友関係、介助体験、講座の受講歴、グループ等での活動歴）が参加までの経緯に影響しているか否か（参加の経緯が 多段階的 か 一段階的 か）を表わしているにとらえた。また、横軸のプラス方向はきっかけとの出会いが 受動的、マイナス方向は 能動的 であることを、それぞれ表わしていると解釈した。

回答率がもっとも高い「地域や団体からの依頼」は、一段階的 + 受動的 という性格をもつきっかけである。「ポスター・チラシ・広報紙」「マスメディア」「インターネット」での情報入手は、一段階的 である点では「依頼」と共通するが、通常は自分からアクセスする情報媒体であるという点で、より 能動的 な性質を有している。

一方で、生活史上のさまざまな体験を足がかりとする 多段階 的な契機としては、「団体・グループ活動」「友人からの勧誘」「講座の受講」「介護・支援経験」「学校での経験」があげられる。これらはおおよそ、多少とも 能動的 な性質を帯びたきっかけに分類される。

活動分野別に目立った回答傾向は次のとおりである。

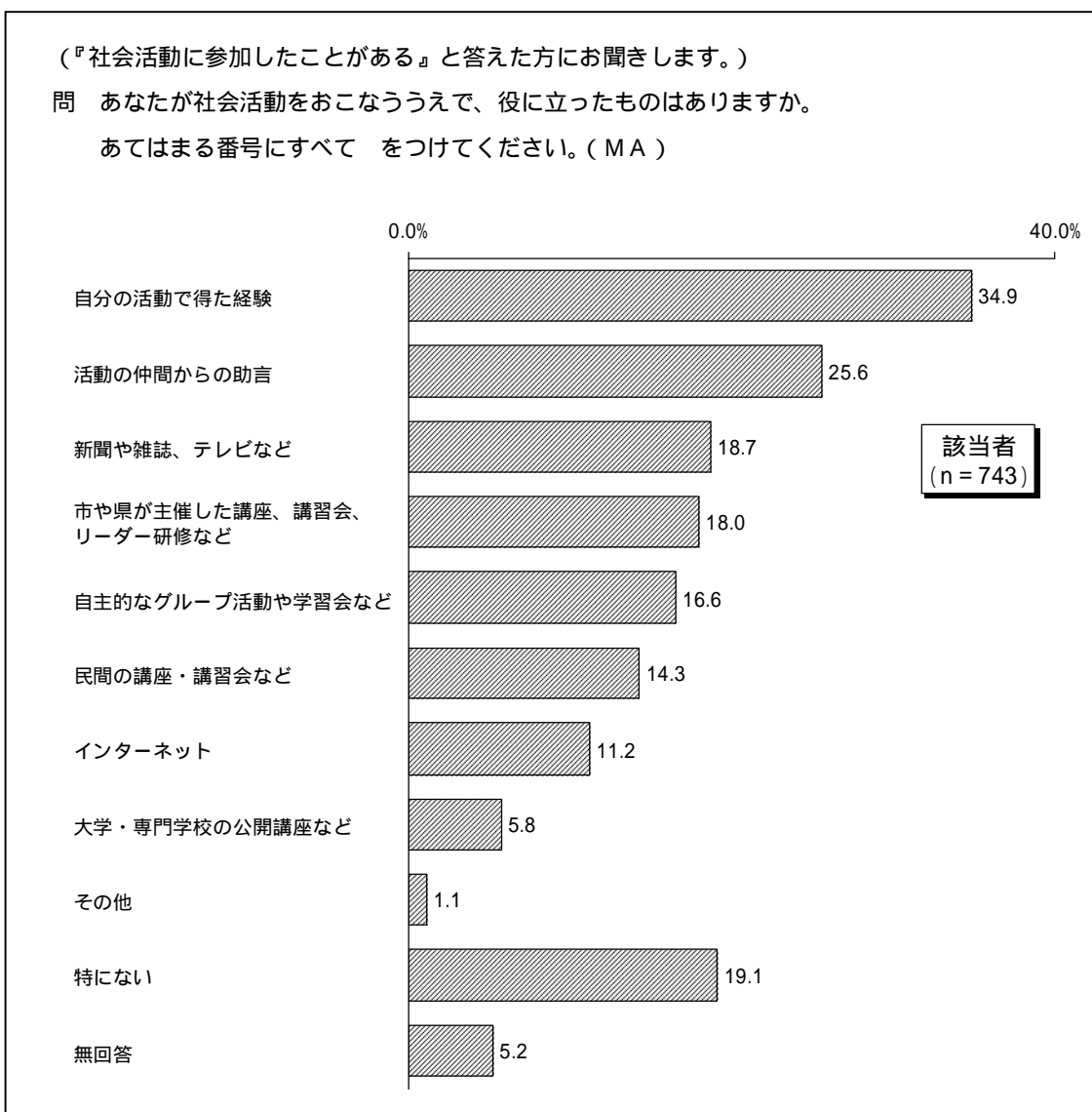
「講座の受講」と「団体・グループ活動」をきっかけにあげる人が高い割合を占める活動分野は、「文化・芸術」(それぞれ、38%/47%)、「健康づくり」(34%/37%)、「障がい者・

高齢者福祉」(26%/35%)、「人権擁護」(29%/50%)、「国際交流」(25%/47%)である。これらは、生涯学習の延長線上で展開されている活動分野という性質を色濃く帯びていると言える。付言すれば、平日・休日の自由時間を「近所づきあいや町内会活動」「学習や習いごと」「福祉・ボランティア活動」に使うと回答したグループでも、「講座の受講」「団体・グループ活動」をきっかけにあげる人の割合が目立って高い。

「介護・支援経験」がきっかけになったと答えた人の割合が高いのは、「障がい者・高齢者福祉」(36%)、「人権擁護」(36%)、「国際交流」(22%)といった 普遍 + 愛・正志向型の活動分野に参加した経験をもつグループである。

その一方で、「地域や団体からの依頼」をあげている人の割合が顕著に高いのは、「地域行事」「学校支援・青少年育成」「防犯・防災・交通安全」「災害救援」「環境保護・環境美化」「人権擁護」といった分野であり、いずれも参加経験者の70%以上がきっかけの1つに「依頼」をあげている。これらのうち、「人権擁護」をのぞく5つは 地域 + 愛・正志向型の活動である。自治会・町内会に拠点をもちこの型の活動経験者では、生活史上の体験内容と無関係に 受動的 なきっかけで関与することになった人が大半を占めているようだ。

## (5) 活動の役に立ったこと



3人に1人は「自分の活動で得た経験」を回答。

『社会活動に参加したことがある』と回答した人(743人)に、社会活動をおこなううえで、役に立ったものについて聞いた。

### 【全体結果の要約】

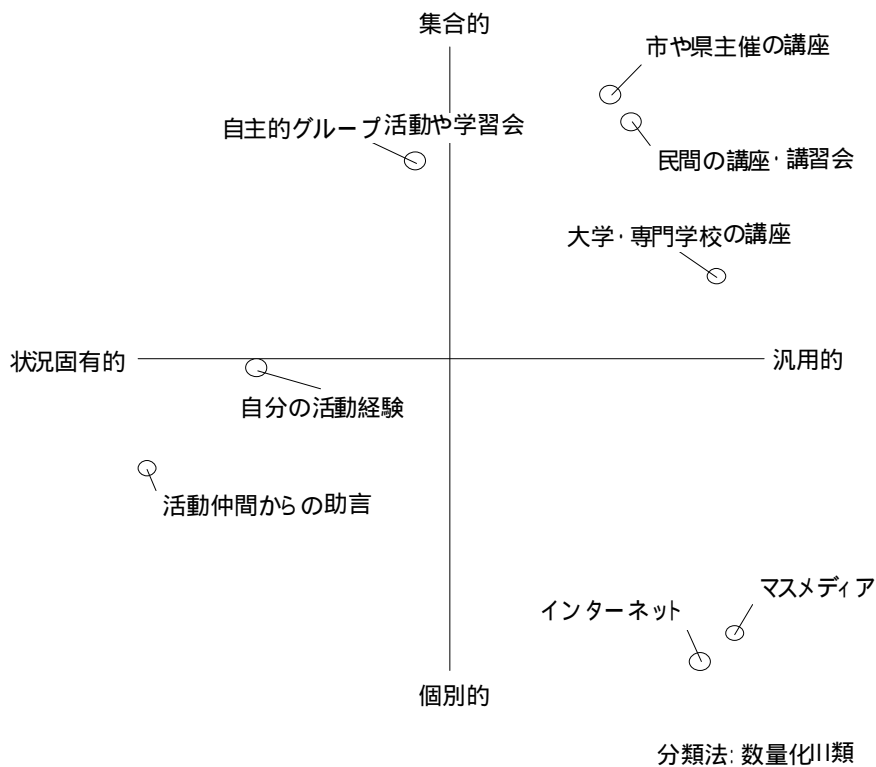
「自分の活動で得た経験」を回答した人が最も多く、次に「活動の仲間からの助言」が多い。上記以外の役立った事項も多岐にわたり回答されているが、各々1割台からそれ以下にとどまる。回答は全般的に分散している。

一方で、役立ったことは「特にない」との回答も2割弱あることに留意したい。

【結果考察】(図2 - 6 参照)

この設問の内容は、活動のうえで役立ててきた知識・情報源とも言い換えられる。回答パターンによる分類結果は図2-6のとおりである。縦軸は知識・情報を入手する場面が 集会的 か 個別的 か、横軸は知識・情報の性質が 汎用的 か 状況固有的 かを、それぞれ表わしていると解釈できる。

<図2 - 6> 社会活動で役に立ったことの分類



「自分の活動経験」「活動仲間からの助言」をあげているのは、具体的な状況への適合性が高い知識・情報に有益さを見いだしている人たちである。その一方で、図のうえでは対極に位置づけられる各種の「講座・講習会」をあげる人は、広範な適用可能性をもつ知識・情報に意義を見いだしていると考えられる。

これら2タイプ(個別的 + 状況固有的 / 集会的 + 汎用的)の知識・情報のどちらが重用されるかについて、活動分野による明確な違いはみられない。たとえば、「文化・芸術」「学校支援・青少年育成」「人権擁護」「国際交流」といった活動分野の参加経験者では、「市や県主催の講座」(集会的 + 汎用的)と「自分の活動で得た経験」(個別的 + 状況固有的)のどちらも回答率が高い。どちらのタイプの知識・情報を有益と評価するかは、活動分野の特性で色分けされるというより、参加者個人の好み左右する部分が多いようである。

むしろ注目したいのは、「地域行事」や「防犯・防災・交通安全」といった自治会・町内会拠点型の活動経験者で、役に立ったことは「とくにない」という回答の割合がほかの活動分野経験者と比較して高い傾向を示していることだ（「防犯・防災・交通安全」25%、「地域行事」22%、「環境保護・環境美化」14%、「防災救援」12%、「学校支援・青少年育成」11%、「その他」をのぞくほかの活動分野では、同様の数値が7%から9%の範囲）。これらの活動分野と知識・情報獲得行動（広義の「学習活動」と言ってもよい）との結びつきが、ほかの分野にくらべて希薄であることが示されている。

個別的 + 汎用的 な知識・情報源に分類された「新聞・雑誌・テレビ等」（マスメディア）と「インターネット」の2つをくらべると、やはり既存のマスメディアを重用している人の割合のほうが高い。ただし、20歳代では23%が「インターネット」で入手した情報が有益だったと評価しており、新しいメディアに意義を見いだす層が今後ふくらんでゆくかもしれない。

また、50歳代・60歳代の女性では、「市や県主催の講座」が役に立ったと評価する人の割合が高い（それぞれ、31% / 33%）。

平日・休日の自由時間を「福祉・ボランティア活動」に使うと答えた人たちでは、「市や県主催の講座」（平日41% / 休日39%）、「自主的グループ活動や学習会」（平日52% / 休日42%）、「自分の活動経験」（平日57% / 休日56%）、「活動仲間からの助言」（平日43% / 休日51%）を有益と評価する人の割合が、自由時間をほかの活動に充てているグループに比較して際だって高い。アクティブ層が、さまざまな機会をとらえて新たな知識や情報を取り入れようとする姿勢をもつ人びとであることがわかる。

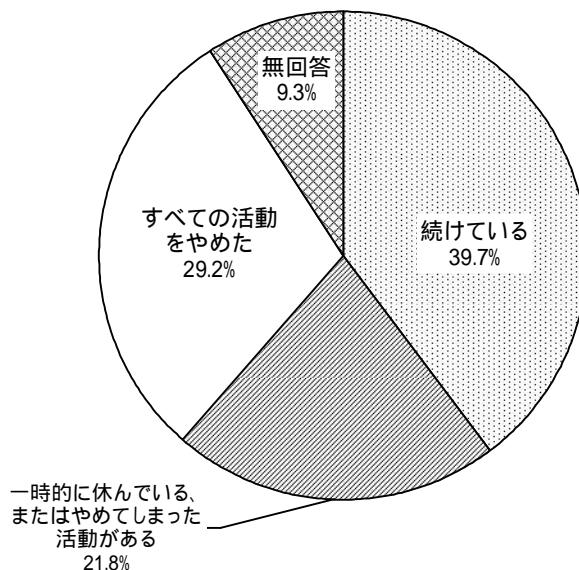
## (6) 活動の継続状況

(『社会活動に参加したことがある』と答えた方にお聞きします。)

問 あなたは、その社会活動を今も続けていますか。

あてはまる番号に1つだけ をつけてください。(SA)

該当者  
(n = 743)



現在も活動を続けている人は4割。

『社会活動に参加したことがある』と回答した人(743人)に、参加したことのある社会活動を今も続けているかについて聞いた。

### 【全体結果の要約】

「続けている」人が約4割いる一方で、「一時的に休んでいる、またはやめてしまった活動がある」と「すべての活動をやめた」を合わせた『非継続者』は51%と、半数を超える。

### 【結果考察】

年齢層別にみると、活動の継続率は高齢層で高い(60歳代・70歳代でともに49%)。反対に継続率が低いのは20歳代(26%)で、とくに20歳代女性では、継続している人が19%、すべての活動をやめた人が50%という結果である。男女別全体では、男性(46%)の継続率が女性(35%)を10ポイントほど上回った。

活動分野別にみると、「文化・芸術」(52%)、「人権擁護」(53%)、「国際交流」(52%)で継続率が5割を上回っている。いずれも 普遍 志向型に分類される活動分野である。

平日・休日の自由時間との関連では、休日の自由時間が「1時間未満」の層で継続率が27%と低いことをのぞいて、継続率に大きな差がないことが注目される。すくなくとも現在なんらかの活動に参加している人にとって、時間的余裕の有無が継続/休止・停止を左右する大きな要因となっていないようだ。

時間的余裕と継続率との関連が希薄であることを裏打ちする事実として、継続率の低い20歳代女性がとりたてて多忙な層ではないことも示しておこう。平日の自由時間が「1時間未満」と回答した人は、20歳代女性で7%であるのに対し、30歳代女性では33%、40歳代女性では27%、50歳代女性では26%と、いずれもより高い割合を占めている。

一方で、平日・休日の自由時間の使いみち別にみると、継続率が顕著に高いグループが浮かび上がってくる。「福祉・ボランティア活動」に平日とりにくんでいる人の89%、休日とりにくんでいる人の82%が、活動を継続している。それについて継続率が高いのは「近所づきあいや町内会活動」をおこなっているグループで、平日おこなっている人で59%、休日おこなっている人では58%という結果である。

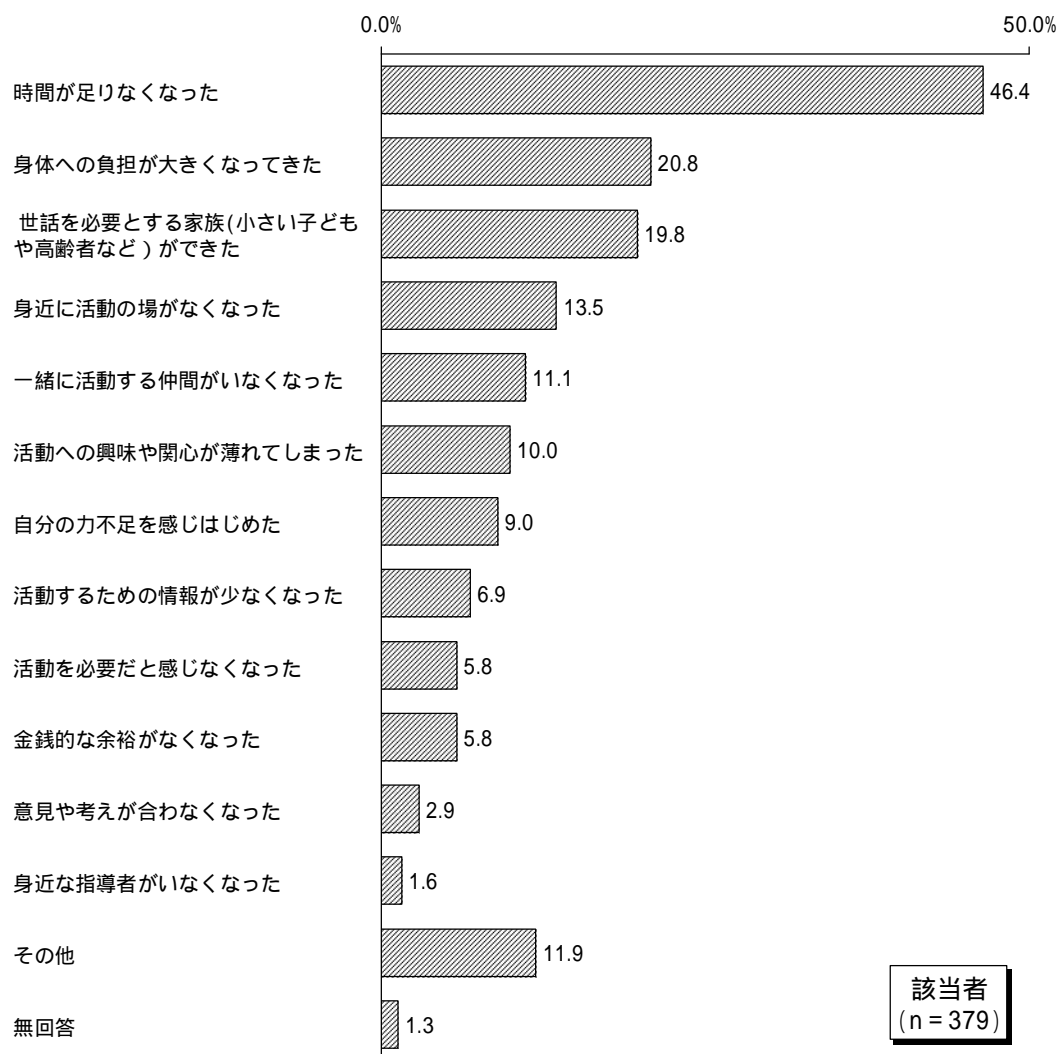


## (7) 活動の休止・停止理由

継続状態で「一時的に休んでいる、またはやめてしまった活動がある」あるいは、「すべての活動をやめた」を選んだ人にお聞きします。

(付問) 休んだ、あるいは、やめた理由は何ですか。

あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)



時間不足が最多理由である。

前問で「一時的に休んでいる、またはやめてしまった活動がある」、あるいは、「すべての活動をやめた」と回答した人（379人）に、その理由、あるいは、阻害となった要因について聞いた。

#### 【全体結果の要約】

半数弱は「時間が足りなくなった」ことを理由としている。以下、回答率2割前後で「身体への負担が大きくなってきた」、「世話を必要とする家族(小さい子どもや高齢者など)ができた」といった理由や要因が続く。

なお、「世話を必要とする家族ができた」といった理由は時間不足にも繋がる一つの要因である。

#### 【結果考察】

「時間の不足」を理由にあげた人の回答率を平日・休日の自由時間別にみると、休日については大きな差がないが、平日では「1時間未満」「1時間以上2時間未満」のグループでともに67%となっている。平日の時間的余裕がないことは、活動の継続を阻害する一因となっているようである。

年齢層別・性別では、20歳代の男女（71%）、40歳代女性（62%）、50歳代女性（57%）で、「時間の不足」をあげた人の割合が顕著に高い。

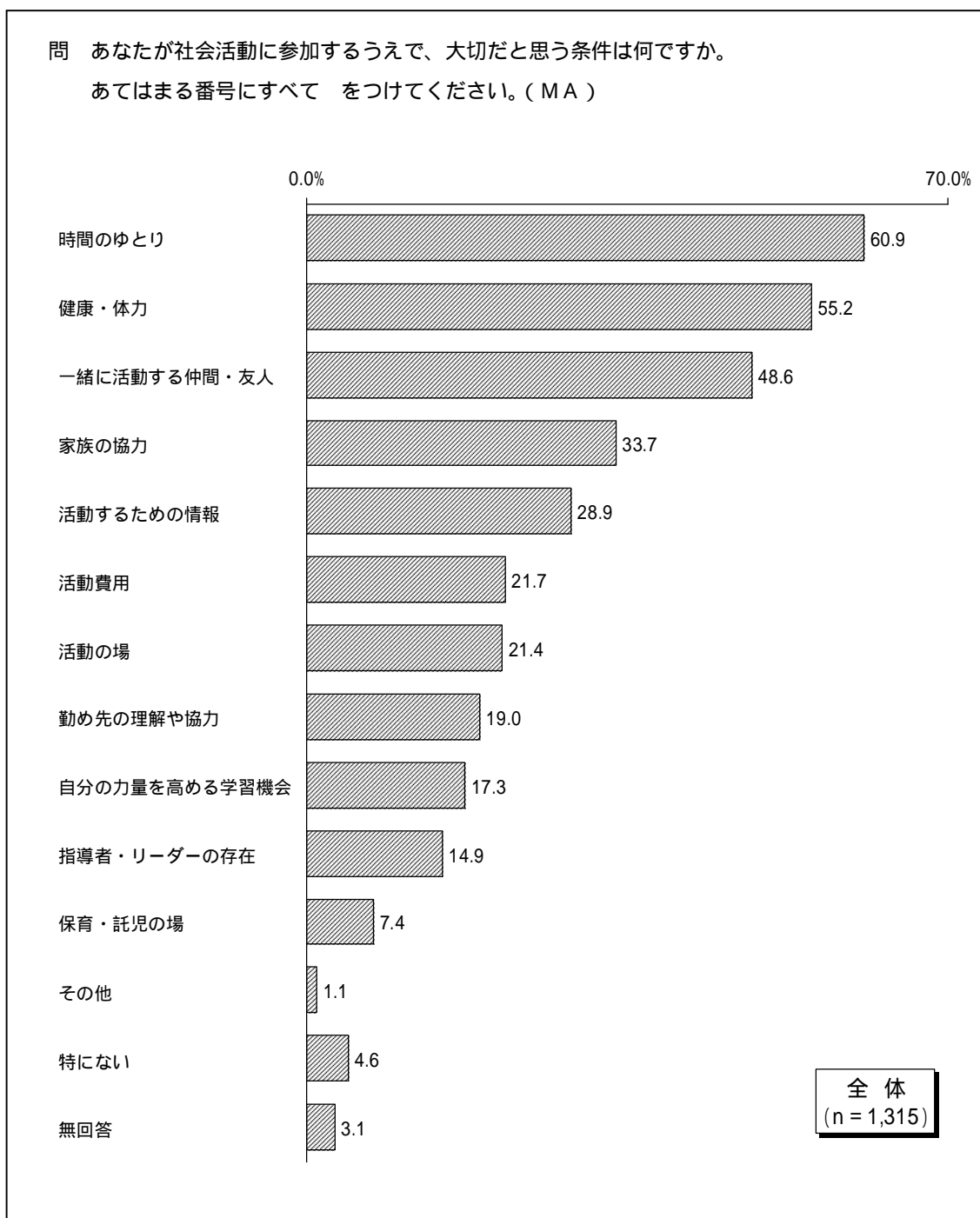
「身体への負担」をあげた人は、やはり高齢層で高い割合を占めている（70歳代で57%/80歳代で84%）。

「世話の必要な家族の存在」をあげた人の割合が高いのは、30歳代の男女（26%）、50歳代女性（28%）、60歳代女性（53%）という結果である。

社会活動への参加経験がない人があげた不参加理由と、参加経験者の休止・停止理由との異同をみると、前者では「活動のための情報」や「活動の場」の不足といった環境的要因の回答率が高いのに対し、後者では「身体への負担」「世話の必要な家族の存在」といった個人的な事情が回答率で上位を占めている。

また、参加してみたい活動をあげた人の割合は、参加未経験者が64%であるのに対し、休止・停止中の人では73%と10ポイント近く高い。また、参加意思をもつ人の割合は、活動の休止・停止理由に「活動のための情報不足」（92%）、「意見や考えの不一致」（91%）、「時間の不足」（84%）、「世話の必要な家族の存在」（84%）、「活動の場の不足」（80%）をあげた人たちで高い。

## (8) 活動参加の条件



重要な参加要件は、「時間」、「健康の」、「仲間」を確保すること。

社会活動に参加するうえで、大切だと思う条件について聞いた。

【全体結果の要約】

「時間のゆとり」、「健康・体力」、「一緒に活動する仲間・友人」を考慮条件とする人が6割～5割程度と多い。

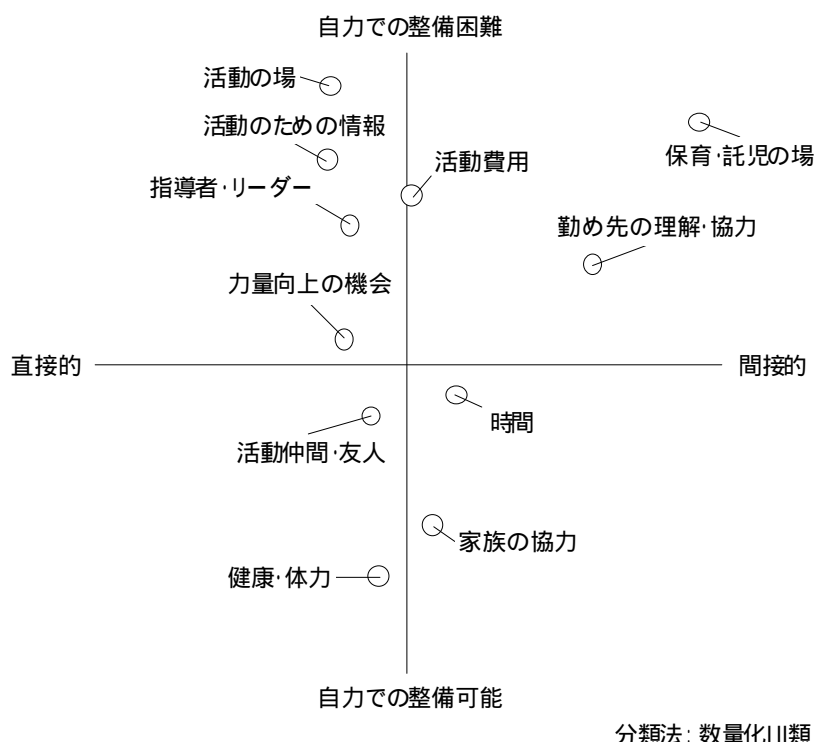
上記三大条件に比すると、学習に関連する「自分の力量を高める学習機会」をあげる人は2割弱と、それ程多くはない。

【結果考察】(図2-7・図2-8参照)

より多くの方が社会活動に参加するために充足すべき条件について、回答パターンをもとに分類した結果は図2-7のとおりである。

横軸は活動そのものにとって 間接的 な条件か 直接的 な条件かを表わし、縦軸は各自にとって 自力での整備が(どちらかといえば)困難 な条件か 自力での整備が(どちらかといえば)可能 な条件かを表わしていると解釈できる。

<図2-7> 社会活動に参加するための条件の分類



回答率が高い4つ(「時間のゆとり」、「健康・体力」、「活動仲間・友人」、「家族の協力」)は、いずれも 自力での整備が(どちらかといえば)可能 な条件に位置づけられる。

ついで回答率が高いのは「活動のための情報」であり、もっとも 自力での整備が困難

な条件に位置づけられているものだ。「活動費用」「活動の場」をあげる人もすくなくない。

つぎに、属性別の回答傾向を検討しよう。

比較的若い層では「時間のゆとり」をあげる人の割合が高い（20歳代 77% / 30歳代 75% / 40歳代 80%）。また、平日の自由時間が「1時間未満」（80%）、「1時間以上2時間未満」（73%）のグループでも「時間」の回答率が顕著に高い。20歳代・30歳代・40歳代では、「勤め先の理解・協力」をあげる人も目立つ（それぞれ、35% / 34% / 28%）。「勤め先」の回答率は、平日の自由時間が「1時間未満」「1時間以上2時間未満」のグループでも高かった（それぞれ、36% / 30%）。

また、20歳代の43%が「活動のための情報」を、32%が「活動の場」を、それぞれあげている。20歳代の参加未経験者で不参加理由に「情報の不足」をあげる人の割合が高いこととも呼応するものである。若年層に訴求する情報発信の方法を探る必要があることを示している。

男女での差が目立つのは「家族の協力」であり、30歳代から60歳代までの女性の回答率がいずれも高い（それぞれ、42% / 47% / 49% / 44%）。30歳代から60歳代までの女性で、活動に参加したことがない理由や活動を休んでいる・やめた理由として「世話の必要な家族の存在」をあげる人の割合が高いこととも符合する結果である。この年齢層の女性たちは、活動参加に際して家族内の事情（たとえば、子どもの養育や老親の介助等）に配慮しなければならない立場に置かれていることがうかがえる。20歳代と30歳代の女性では「保育・託児の場」をあげている人の割合も比較的高い（それぞれ、19% / 33%）。

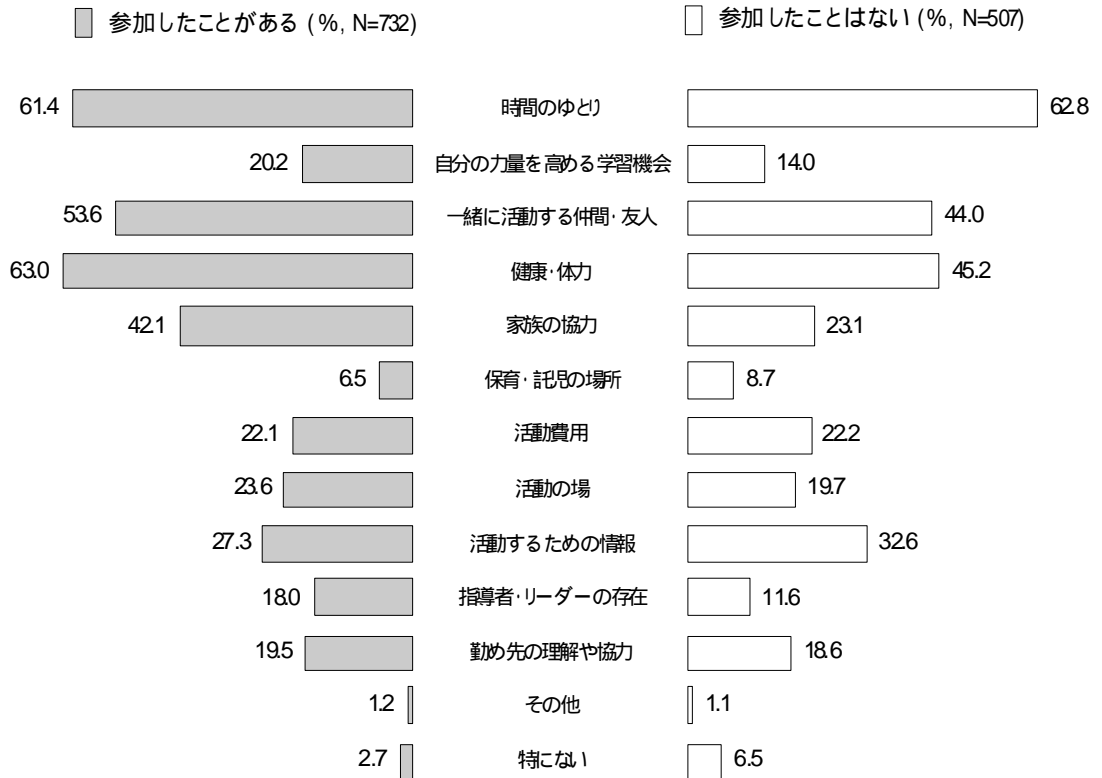
一方で、「健康・体力」は、やはり比較的高齢のグループで回答率の高さが目立つ（50歳代女性 69% / 60歳代の男女 75% / 70歳代男性 71%）。

上でとりあげたアクティブ層の回答傾向は、ここでも目立っている。平日の自由時間を「近所づきあい・町内会活動」や「福祉・ボランティア活動」に使っている人たちでは、「力量向上の機会」（それぞれ、31% / 38%）、「活動仲間・友人」（71% / 83%）、「健康・体力」（71% / 83%）、「家族の協力」（54% / 66%）の回答率が比較的高い一方で、「時間のゆとり」をあげる人の割合は逆に比較的低い（44% / 49%）。アクティブ層にとって、活動のための時間は、「与えられる」というより「つくりだす」ものにとらえられているのかもしれない。

社会活動への参加経験がある人とない人とのあいだでも、回答率に違いがみられる（次頁、図2-8）。

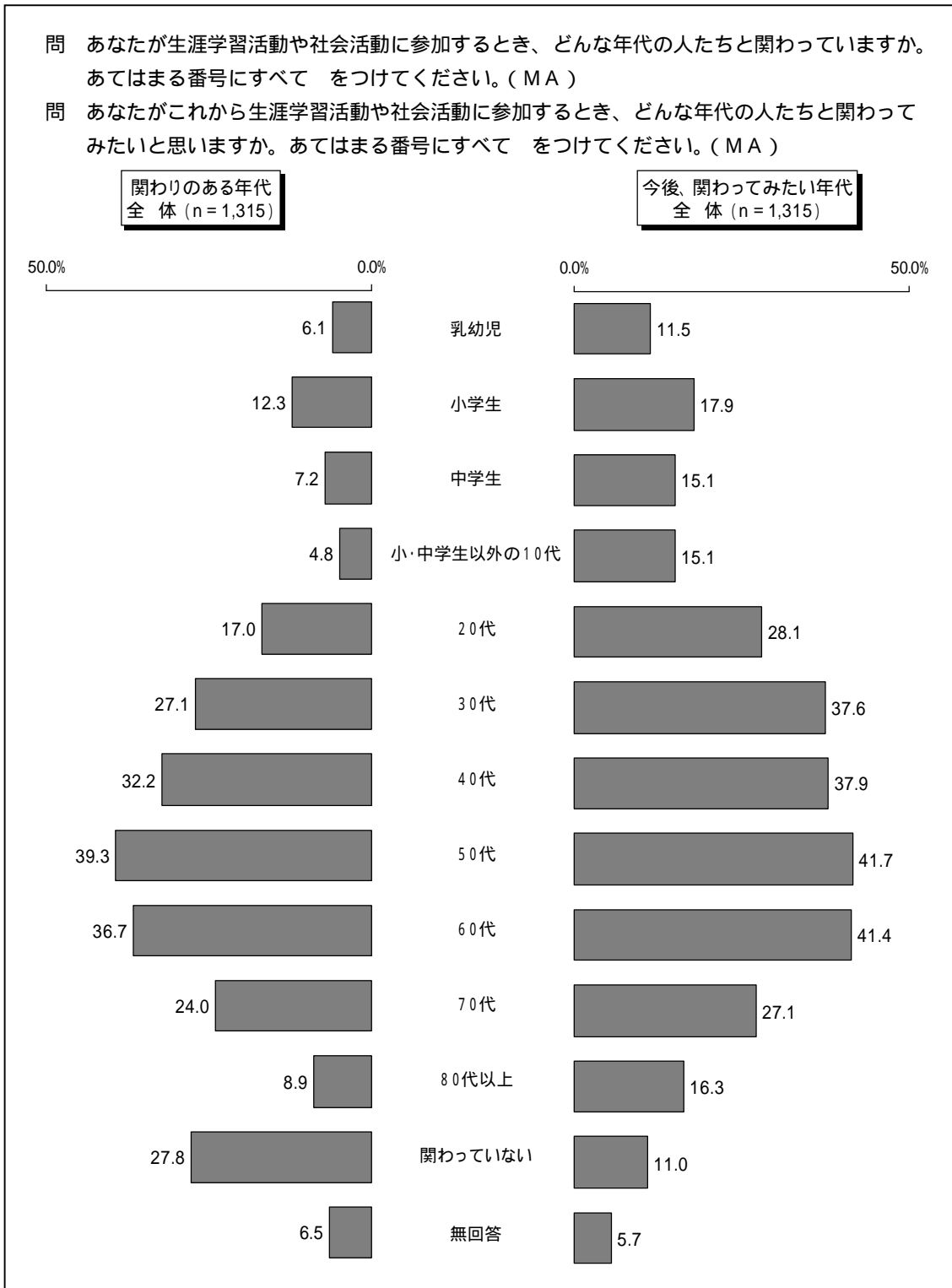
参加経験者の回答率が上回っている条件に「力量向上の機会」「活動仲間・友人」「健康・体力」「家族の協力」がならぶ一方で、「活動のための情報」は参加経験のない人の回答率が上回っている。参加経験者の支持率が上回る条件群は上記の分類で自力で整備可能なものにおおよそ合致している（これは上記のアクティブ層とも一致する傾向である）。それと対照的に、参加未経験者の支持率が上回る「情報」は自力では整備困難な条件である。参加経験者は活動を「つづけていく」ために充足されるべき個別的・具体的な条件をあげ、未経験者は活動を「はじめる」ためのとっかかりをもとめている。そんな傾向が読みとれる。

< 図 2 - 8 > 社会活動参加するための条件 参加経験の有無別



### 3 人との関わり

#### (1) 年代による「人との関わり」の現状と意向



中高年層と関わりを持つ人、持ちたい人が比較的多い。

生涯学習活動や社会活動に参加するとき、どんな年代の人たちと関わっているか、及び、これから生涯学習活動や社会活動に参加するとき、どんな年代の人たちと関わってみたいと思うかについて聞いた。

【全体結果の要約】

回答者の年齢構成による部分もあるが、「50歳代」をピークに中高年世代と関わりを持つ人が多くなっている。

一方で、「関わっていない」との回答が3割弱あることに留意したい。

また、今後の意向については、回答者の年齢構成による部分もあるが、『50歳代～60歳代』をピークに中高年世代と関わりたい意向を持つ人が多くなっている。

自身の今後の加齢を想定してのことか、『実際に関わっている年代』の設問に比して年齢層は高くなる傾向にある。

【結果考察】(表3 - 1 参照)

<表3 - 1> 年代による「人との関わり」の現状と意向との比較

		乳幼児	小学生	中学生	小・中学生以外の10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代以上	関わらない
20歳代	現状	9.1%	9.8%	6.1%	10.6%	43.9%	40.2%	27.3%	18.9%	12.1%	6.8%	4.5%	34.8%
	意向	22.7%	21.2%	18.2%	25.0%	60.6%	56.8%	40.9%	36.4%	32.6%	26.5%	23.5%	6.8%
30歳代	現状	13.6%	18.2%	5.9%	5.5%	26.4%	47.7%	40.5%	27.7%	21.8%	10.9%	4.5%	34.1%
	意向	21.4%	26.4%	19.1%	19.5%	37.3%	64.5%	49.1%	27.7%	22.3%	16.8%	12.7%	8.6%
40歳代	現状	5.3%	27.4%	19.7%	8.2%	20.2%	39.4%	58.2%	43.8%	28.8%	13.5%	3.4%	26.4%
	意向	12.0%	26.4%	27.4%	26.0%	38.0%	54.8%	65.4%	51.9%	35.1%	24.0%	17.8%	7.2%
50歳代	現状	4.3%	8.0%	4.8%	4.5%	14.5%	26.1%	38.6%	58.0%	44.0%	22.2%	10.2%	26.1%
	意向	9.4%	17.3%	13.6%	15.1%	27.6%	33.8%	40.6%	60.8%	53.4%	27.3%	15.9%	7.4%
60歳代	現状	4.8%	8.9%	5.4%	0.6%	5.4%	8.3%	12.5%	42.9%	60.7%	32.7%	9.5%	22.0%
	意向	7.1%	11.3%	9.5%	4.2%	10.1%	12.5%	17.3%	39.9%	58.9%	23.8%	7.7%	12.5%
70歳代	現状	1.3%	3.1%	3.1%	1.3%	1.9%	3.1%	11.3%	34.4%	54.4%	60.0%	11.3%	21.3%
	意向	1.9%	6.3%	5.0%	4.4%	7.5%	11.1%	14.4%	22.5%	46.3%	47.5%	15.0%	17.5%
80歳代以上	現状	3.2%	6.3%	3.2%	1.6%	1.6%	7.9%	4.8%	14.3%	22.2%	38.1%	36.5%	33.3%
	意向	0.0%	4.8%	4.8%	0.0%	1.6%	4.8%	4.8%	17.5%	23.8%	33.3%	36.5%	36.5%

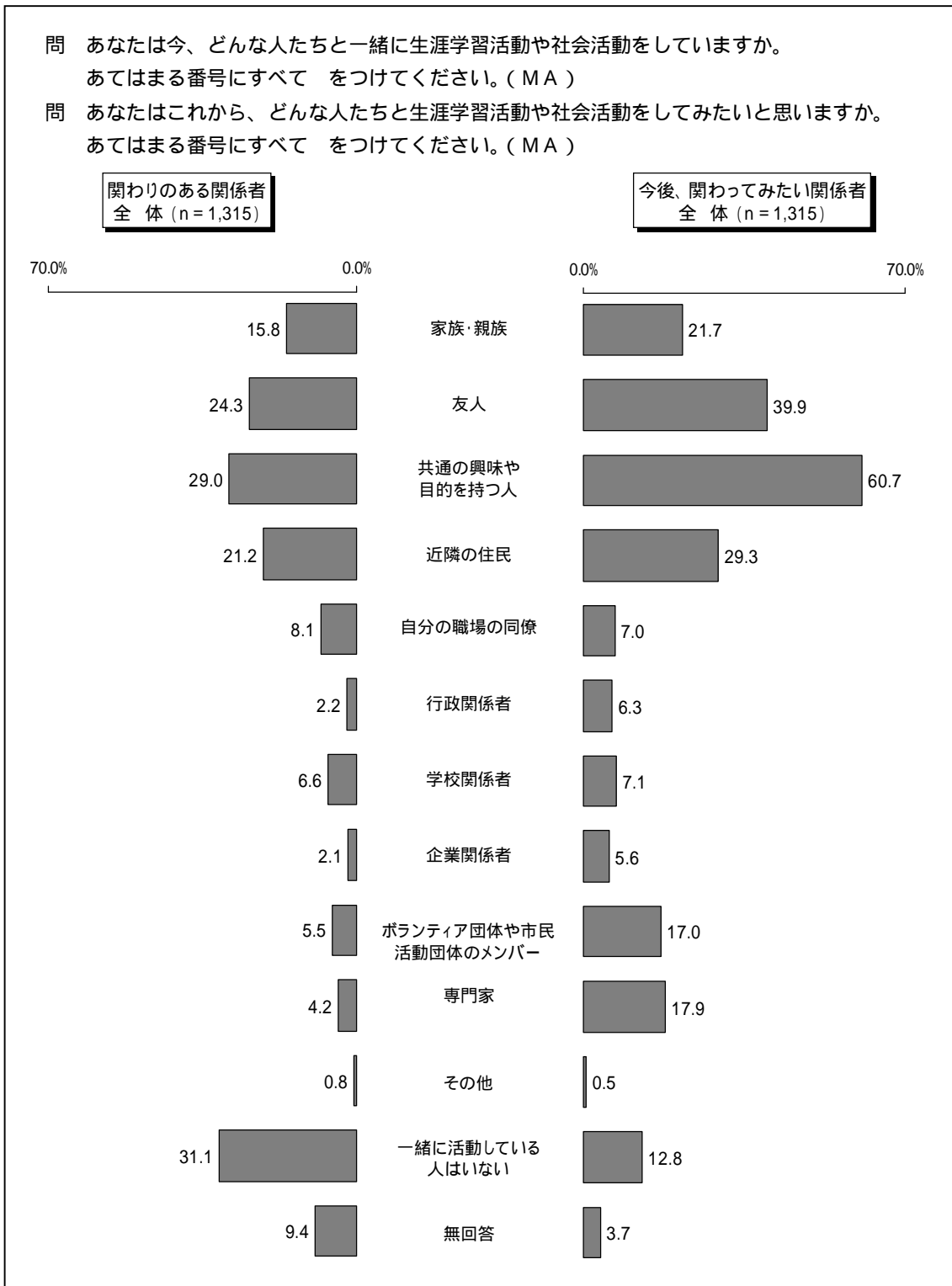
「中学生」や「小・中学生以外の10歳代」との関わりが、現状と意向ともに、特に少なくなっている。

若年層(20歳代・30歳代)では、関わっている人と関わってみたいと思っている人の割合の差が大きく、意向はあるものの、実際には関わりを持っていないという現状がある。若い年代ほど、様々な年代と関わってみたいという意向を持っていることがわかる。

また、高齢層(60歳代・70歳代)では、同年代との関わりを実際に持っている人が約6割と多く、現状よりも意向の割合が逆に低くなっている。



## (2) 活動上の関係者による「人との関わり」の現状と意向



現状は「共通の興味仲間」、「友人」、「近隣住民」などが比較的多い。  
 今後は、6割の人が「共通の興味仲間」とともに活動したいと思っている。

どんな人たちと一緒に生涯学習活動や社会活動をしているか、及びどんな人たちと生涯学習活動や社会活動をしてみたいと思うかについて聞いた。

【全体結果の要約】

現在は、「共通の興味や目的を持つ人」や「友人」、「近隣の住民」が比較的多い。

一方で、「一緒に活動している人はいない」との回答が3割以上あることに留意したい。

今後は、「共通の興味や目的を持つ人」を望む人がかなり多い。以下、「友人」が約4割、「近隣の住民」が約3割で続く。

上位3つの関係者は、『実際の活動上の関係者』と同様であるが、その中でも「共通の興味や目的を持つ人」の比率は約2倍程度にまで上昇している。

【結果考察】(表3 - 2 参照)

<表3 - 2> 活動上の関係者による「人との関わり」の現状と意向との比較

		家族・親族	友人	共通の興味 や目的を持 つ人	近隣の住民	自分の職場 の同僚	行政関係者	学校関係者	企業関係者	ボランティア 団体や市民 活動団体の メンバー	専門家	その他	一緒に活動 しない
20 歳代	現状	15.9%	22.0%	21.2%	6.8%	15.9%	0.0%	5.3%	2.3%	4.5%	4.5%	0.0%	37.1%
	意向	25.8%	50.0%	71.2%	18.9%	14.4%	9.1%	10.6%	12.9%	21.2%	28.0%	0.8%	6.1%
30 歳代	現状	17.7%	18.6%	22.7%	17.3%	13.2%	1.4%	10.9%	2.7%	3.2%	5.0%	0.5%	41.8%
	意向	28.6%	36.4%	64.5%	21.8%	10.5%	5.5%	9.5%	8.2%	15.9%	21.4%	0.5%	9.5%
40 歳代	現状	20.2%	21.2%	27.9%	22.1%	11.5%	2.9%	16.8%	2.4%	4.8%	2.4%	1.4%	32.7%
	意向	20.7%	39.9%	67.8%	25.0%	9.6%	8.2%	12.0%	8.2%	16.3%	23.1%	0.0%	11.5%
50 歳代	現状	13.1%	25.9%	32.4%	22.7%	7.1%	2.6%	3.4%	2.8%	6.0%	5.7%	0.9%	28.7%
	意向	20.2%	40.1%	66.8%	32.7%	6.8%	5.1%	4.0%	4.0%	19.9%	19.9%	1.1%	9.1%
60 歳代	現状	14.9%	27.4%	34.5%	28.0%	2.4%	5.4%	3.0%	1.2%	8.9%	2.4%	1.2%	20.2%
	意向	17.3%	40.5%	57.7%	42.3%	2.4%	9.5%	6.5%	3.6%	21.4%	10.1%	0.6%	12.5%
70 歳代	現状	14.4%	32.5%	36.9%	29.4%	0.6%	1.3%	1.3%	0.6%	6.3%	5.0%	1.3%	22.5%
	意向	21.9%	38.1%	42.5%	37.5%	0.6%	3.8%	4.4%	0.6%	11.3%	7.5%	0.0%	18.8%
80 歳代 以上	現状	17.5%	23.8%	22.2%	19.0%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	4.8%	1.6%	0.0%	34.9%
	意向	15.9%	34.9%	28.6%	20.6%	0.0%	1.6%	1.6%	0.0%	3.2%	4.8%	0.0%	42.9%

どの年代でも、「共通の興味や目的を持つ人」との関わりを望んでいる人が特に多くなっており、実際に関わっている人の2倍以上の割合を示していることが注目される。

また、若い年代ほど、現状と意向との違いが大きい傾向にある。20歳代においては、「共通の興味や目的を持つ人」との関わりの実際の割合が21%と一番低いにも関わらず、意向では71%と最も高い。

# 全体結果数表



問1. あなたが今、おこなっている生涯学習活動はありますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合計 ベース)	(%)	文化・教養 に関する こと(文学・歴史・ 科学・思想など)	芸術・工芸 に関する こと(美術・音楽・ 園芸・日曜大工など)	スポーツ・レ クリエーション・健康 に関する こと(水泳・ダンス・ ウォーキング・キャンプ など)	福祉に関す ること(手話・点字・介 護技術な ど)	まちづくりに 関すること (地域学・都 市工学な ど)	子育て・教 育に関す ること	仕事上の知 識・技能に 関すること (資格取得・ 様々な能力 の習得な ど)	家庭生活に 関すること (料理・編み 物など)	政治・経済 に関する こと	環境問題に 関すること
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	170 12.9%	295 22.4%	340 25.9%	45 3.4%	33 2.5%	99 7.5%	207 15.7%	174 13.2%	62 4.7%	84 6.4%

人権擁護に 関すること (男女平等・国際交 流・海外旅 行など)	国際化に関 すること(語 学・国際交 流・海外旅 行など)	情報化に関 すること(パ ソコン・イン ターネットな ど)	その他	特にな い	無回答
15 1.1%	59 4.5%	154 11.7%	9 0.7%	522 39.7%	65 4.9%

(問1で「生涯学習活動をおこなっている」と答えた方にお聞きします。)

問2. あなたは、その生涯学習活動をどのような方法でおこなっていますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合計 ベース)	(%)	本・雑誌・新 聞	インターネッ ト・携帯電 話	テレビ・ラジ オ	通信教育・ 放送大学	大学・専門 学校の公開 講座	市や県の講 座や講習会	仲間とやっ ているグ ループ・サ ークル・ 団体など	民間の塾・ 文化教室・ スポーツク ラブなど	その他	無回答
*** 全体結果 ***	728 100.0%	409 56.2%	190 26.1%	196 26.9%	45 6.2%	33 4.5%	111 15.2%	241 33.1%	148 20.3%	29 4.0%	23 3.2%

「7. 仲間とやっているグループ・サークル・団体など」を選んだ人にお聞きします。

(付問) そのグループ等は、どのような活動をしていますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合計 ベース)	(%)	地域づくりに ボランティア 活動	子育て支援 活動・教育 支援(学校 支援)活動	政治・経済 について学 ぶ活動	歴史・郷土 史について 学ぶ活動	文化・芸術 活動	スポーツ・レ クリエーション・ 野外活 動	自然保護・ 環境美化活 動	衣食住につ いて学ぶ活 動	技術や資格 を身につけ る活動	その他
*** 全体結果 ***	241 100.0%	73 30.3%	32 13.3%	7 2.9%	19 7.9%	57 23.7%	114 47.3%	24 10.0%	12 5.0%	23 9.5%	13 5.4%

無回答
2 0.8%

(問1で「生涯学習活動をおこなっている」と答えた方にお聞きします。)

問3. あなたは、その生涯学習活動をどこでおこなっていますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合計 ベース)	(%)	自宅	公共の屋内 外施設	民間の屋内 外施設	山、海、野 原などの野 外	その他	無回答
*** 全体結果 ***	728 100.0%	429 58.9%	359 49.3%	193 26.5%	92 12.6%	30 4.1%	22 3.0%

「2. 公共の屋内外施設」を選んだ人にお聞きします。  
 (付問)それは、どのような公共施設ですか。あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)

合 計 (%) ベース)	生涯学習センター・公民館・学習館	図書館	体育・スポーツ施設	芸術・文化会館、美術館	コミュニティセンター、農村環境改善センター、自治会館	博物館、資料館	福祉会館、保健福祉センター、老人福祉センター	保育園、幼稚園、その他の子育て施設	大学・専門学校	小学校・中学校・高校	
*** 全体結果 ***	359 100.0%	136 37.9%	65 18.1%	132 36.8%	49 13.6%	73 20.3%	25 7.0%	41 11.4%	12 3.3%	30 8.4%	39 10.9%

その他	無回答
5 1.4%	3 0.8%

(問1で「生涯学習活動をおこなっている」と答えた方にお聞きします。)  
 問4. あなたが問3で選んだ施設は、どこにありますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)

合 計 (%) ベース)	新潟市内	新潟市以外 の新潟県内	新潟県外	その他	無回答	
*** 全体結果 ***	728 100.0%	590 81.0%	86 11.8%	51 7.0%	2 0.3%	117 16.1%

(問1で「生涯学習活動をおこなっている」と答えた方にお聞きします。)  
 問5. あなたは、生涯学習活動で身につけた知識や技能をどのように活かしていますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)

合 計 (%) ベース)	自分の趣味の活動に活かしている	自分の健康づくりに活かしている	学業や学校生活で活かしている	仕事や就職で活かしている	資格の取得に活かしている	学習やスポーツ、文化活動などの指導に活かしている	ボランティア活動に活かしている	地域での活動に活かしている	その他	活かしていない	
*** 全体結果 ***	728 100.0%	484 66.5%	355 48.8%	12 1.6%	223 30.6%	100 13.7%	42 5.8%	74 10.2%	74 10.2%	19 2.6%	14 1.9%

無回答
22 3.0%

問6. あなたが、これから生涯学習活動としておこなってみたいと思っていることはありますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)

合 計 (%) ベース)	文化・教養に関すること(文学・歴史・科学・思想など)	芸術・工芸に関すること(美術・音楽・芸能・園芸・日曜大工など)	スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること(水泳・ダンス・ウォーキング・キャンプなど)	福祉に関すること(手話・点字・介護技術など)	仕事上の知識・技能に関すること(資格取得・様々な能力の習得など)	家庭生活に関すること(料理・編み物など)	政治・経済に関すること	環境問題に関すること	人権擁護に関すること(男女平等・同和問題など)	国際化に関すること(語学・国際交流・海外旅行など)	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	252 19.2%	427 32.5%	533 40.5%	142 10.8%	244 18.6%	259 19.7%	81 6.2%	177 13.5%	38 2.9%	160 12.2%

情報化に関すること(パソコン・インターネットなど)	その他	特になし	無回答
285 21.7%	11 0.8%	217 16.5%	41 3.1%

問7. 生涯学習活動をもっと盛んにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。  
 あてはまる番号を3つ選んで をつけてください。(3A)

合 計 (%) ベース)	利用できる 施設の数を 増やす	施設の設定 備・備品を 充実させる	学校施設を もっと地域に 開放する	専門的な知識 を持つ職 員を多く配 置する	講座や行事、 イベント を増やす	講座の内容 を充実させる	講座や事業 などの広報 を充実させる	インターネット による情報 提供を充実 させる	住民のニーズ や満足度 などを把握 して、施策 に反映させる	リーダーを 育成する	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	590 44.9%	255 19.4%	228 17.3%	181 13.8%	467 35.5%	239 18.2%	351 26.7%	170 12.9%	329 25.0%	111 8.4%

ボランティア 活動を支援 する	グループや 団体等の自 主的な活動 を支援する	その他	無回答
173 13.2%	184 14.0%	74 5.6%	96 7.3%

問8. あなたが生涯学習活動をおこなう上で、手に入れたい情報はありますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合 計 (%) ベース)	講座や催し 物について の情報	指導者や講 師について の情報	リーダーに ついての情 報	活動の相談 窓口	施設の内容 や利用方法	市・県や財 団からの資 金援助の申 込み方法	グループ・ サークルの 活動内容に ついての情 報	ボランティア の活動内容 についての 情報	その他	特にない	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	747 56.8%	271 20.6%	55 4.2%	230 17.5%	526 40.0%	141 10.7%	355 27.0%	155 11.8%	6 0.5%	204 15.5%

無回答
59 4.5%

問9. あなたはこの1年間、どんな目的であなたが住まいの地域にある小・中学校へ行きましたか(ただし、「選挙のため」を除く。)。あてはまる番号に、すべて をつけてください。(MA)

合 計 (%) ベース)	授業参観の ため	個人懇談の ため	学校行事の ため(運動 会・文化祭 合唱コン クールなど)	授業(総合 学習)の発表 会のため	P.T.A活動の ため	セーフティ スタッフ活 動のため	学校支援ボ ランティア 活動のため (読み聞かせ・昔あそび・学校環境整備など)	授業補助の ため	ふれあいス クールボラ ンティア活 動のため	特別支援教 育ボラン ティア活動 のため	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	153 11.6%	130 9.9%	316 24.0%	65 4.9%	93 7.1%	12 0.9%	26 2.0%	5 0.4%	14 1.1%	7 0.5%

非行防止活 動のため (中学校サ ポートチ ーム活動・街 頭育成活動 など)	学校開放に よる活動の ため(ス ポーツ・文 化活動な ど)	地域の行事 のため	その他	行かなか った	無回答
9 0.7%	71 5.4%	106 8.1%	19 1.4%	811 61.7%	72 5.5%

問10. 次の中で、あなたがこれまでに参加したことのある社会活動はありますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

	合 計 (%) ベース)	文化・芸術 に関わる活 動	健康づくり に関わる活 動	障がい者・ 高齢者など の福祉に関 わる活動	地域行事に 関わる活動	学校支援や 青少年育成 に関わる活 動(セーフ ティスタッ フ・学校支 援ポラン ティア・ふれ あいスクー ルポランテ ィアなど)	防犯・防災・ 交通安全に 関わる活動	災害救援活 動	環境保護・ 環境美化に 関わる活動	人権擁護に 関わる活動	国際交流に 関わる活動
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	169 12.9%	195 14.8%	143 10.9%	402 30.6%	123 9.4%	217 16.5%	69 5.2%	169 12.9%	15 1.1%	33 2.5%

その他	これまで上 記のような 社会活動に 参加したこ とはない	無回答
13 1.0%	527 40.1%	45 3.4%

「12. これまで上記のような社会活動に参加したことはない」を選んだ人にお聞きします。

(付問) 参加しなかった、できなかった理由は何ですか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

	合 計 (%) ベース)	時間が足り なかった	自分の力不 足を感じて いた	一緒に活動 する仲間が いなかった	意見や考え が合わな かった	身体への負 担が大き かった	世話を必要 とする家族 (小さい子 どもや高 齢者など) がいた	活動に興 味や関心 がない	活動を必要 だと感じて いなかった	金銭的な余 裕がなかつ た	身近に活動 の場がな かった
*** 全体結果 ***	527 100.0%	221 41.9%	63 12.0%	128 24.3%	10 1.9%	54 10.2%	95 18.0%	120 22.8%	80 15.2%	71 13.5%	109 20.7%

活動するた めの情報が 不足してい た	身近に指導 者がいな かった	その他	無回答
145 27.5%	33 6.3%	27 5.1%	3 0.6%

(問10で「社会活動に参加したことがある」と答えた方にお聞きします。)

問11. あなたが、社会活動に参加したきっかけは何ですか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

	合 計 (%) ベース)	講座等を通 じて興味・ 関心を持っ たから	団体やグル ープ・サ ークル活 動を通じて 興味・関心 を持ったか ら	学校時代の 経験を通じ て興味・関 心を持った から	身近な人の 介護・支援 に関わった 経験を通じ て興味・関 心を持った から	ポスターや チラシ、広 報紙などを 見て興味・ 関心を持っ たから	テレビやラ ジオ、新聞 などを見て 興味・関心 を持ったか ら	インターネッ トを見て興 味・関心 を持ったか ら	地域や団体 からお願 いされたか ら	友達に誘わ れたから	その他
*** 全体結果 ***	743 100.0%	112 15.1%	166 22.3%	58 7.8%	58 7.8%	83 11.2%	58 7.8%	23 3.1%	424 57.1%	147 19.8%	29 3.9%

無回答
29 3.9%



(問10で「社会活動に参加したことがある」と答えた方にお聞きします。)

問12. あなたが社会活動をおこなううえで、役に立ったものはありますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合 計 (%) ベース)	市や県が主催した講座、講習会、リーダー研修など	大学・専門学校等の公開講座など	民間の講座・講習会など	自主的なグループ活動や学習会など	自分の活動で得た経験	活動の仲間からの助言	新聞や雑誌、テレビなど	インターネット	その他	特になし	
*** 全体結果 ***	743 100.0%	134 18.0%	43 5.8%	106 14.3%	123 16.6%	259 34.9%	190 25.6%	139 18.7%	83 11.2%	8 1.1%	142 19.1%

無回答
39 5.2%

(問10で「社会活動に参加したことがある」と答えた方にお聞きします。)

問13. あなたは、その社会活動を今も続けていますか。あてはまる番号に1つだけ をつけてください。(SA)

合 計 (%) ベース)	続けている	一時的に休んでいる、またはやめてしまった活動がある	すべての活動をやめた	無回答	
*** 全体結果 ***	743 100.0%	295 39.7%	162 21.8%	217 29.2%	69 9.3%

「2. 一時的に休んでいる、またはやめてしまった活動がある」あるいは、「3. すべての活動をやめた」を選んだ人にお聞きします。

(付問) 休んだ、あるいは、やめた理由は何ですか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合 計 (%) ベース)	時間が足りなくなった	自分の力不足を感じはじめた	一緒に活動する仲間がいなくなった	意見や考えが合わなくなった	身体への負担が大きくなってきた	世話を必要とする家族(小さい子どもや高齢者など)ができた	活動への興味や関心が薄れてしまった	活動を必要だと感じなくなった	金銭的な余裕がなくなった	身近に活動の場がなくなった	
*** 全体結果 ***	379 100.0%	176 46.4%	34 9.0%	42 11.1%	11 2.9%	79 20.8%	75 19.8%	38 10.0%	22 5.8%	22 5.8%	51 13.5%

活動するための情報が少なくなった	身近な指導者がいなくなった	その他	無回答
26 6.9%	6 1.6%	45 11.9%	5 1.3%

問14. あなたが今後、参加してみたい社会活動はありますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合 計 (%) ベース)	文化・芸術にかかわる活動	健康づくりにかかわる活動	障がい者・高齢者などの福祉にかかわる活動	地域行事にかかわる活動	学校支援や青少年育成に関する活動(セーフティスタッフ・学校支援ボランティア・ふれあいスクールボランティアなど)	防犯・防災・交通安全にかかわる活動	災害救援活動	環境保護・環境美化にかかわる活動	人権擁護にかかわる活動	国際交流にかかわる活動	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	319 24.3%	464 35.3%	210 16.0%	258 19.6%	128 9.7%	141 10.7%	94 7.1%	262 19.9%	40 3.0%	118 9.0%

その他	特になし	無回答
8 0.6%	325 24.7%	55 4.2%

問15. あなたが社会活動に参加するうえで、大切だと思う条件は何ですか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合計 ベース)	(% 時間のゆとり	自分の力量 を高める学 習機会	一緒に活動 する仲間・ 友人	健康・体力	家族の協力	保育・託児 の場	活動費用	活動の場	活動するた めの情報	指導者・ リーダーの 存在	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	801 60.9%	228 17.3%	639 48.6%	726 55.2%	443 33.7%	97 7.4%	286 21.7%	282 21.4%	380 28.9%	196 14.9%

勤め先の理 解や協力	その他	特にない	無回答
250 19.0%	15 1.1%	61 4.6%	41 3.1%

問16. あなたが生涯学習活動や社会活動に参加するとき、どんな年代の人たちと関わっていますか。  
あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合計 ベース)	乳幼児	小学生	中学生	小・中学生 以外の10 代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	80 6.1%	162 12.3%	95 7.2%	63 4.8%	224 17.0%	356 27.1%	424 32.2%	517 39.3%	483 36.7%	316 24.0%

80代以上	関わって いない	無回答
117 8.9%	366 27.8%	85 6.5%

問17. あなたは今、どんな人たちと一緒に生涯学習活動や社会活動をしていますか。あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合計 ベース)	家族・親族	友人	共通の興味 や目的を持 つ人	近隣の住民	自分の職場 の同僚	行政関係者	学校関係者	企業関係者	ボランティア 団体や市民 活動団体の メンバー	専門家	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	208 15.8%	320 24.3%	381 29.0%	279 21.2%	106 8.1%	29 2.2%	87 6.6%	28 2.1%	72 5.5%	55 4.2%

その他	一緒に活動 している人 はいない	無回答
11 0.8%	409 31.1%	124 9.4%

問18. あなたがこれから生涯学習活動や社会活動に参加するとき、どんな年代の人たちと関わってみたいと思いますか。  
あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)

合計 ベース)	乳幼児	小学生	中学生	小・中学生 以外の10 代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	151 11.5%	235 17.9%	199 15.1%	198 15.1%	370 28.1%	494 37.6%	498 37.9%	549 41.7%	545 41.4%	357 27.1%

80代以上	関わりたいと 思わない	無回答
214 16.3%	145 11.0%	75 5.7%

問19. あなたはこれから、どんな人たちと生涯学習活動や社会活動をしてみたいと思いますか。  
 あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)

	合計 ベース (%)	家族・親族	友人	共通の興味 や目的を持つ 人	近隣の住民	自分の職場 の同僚	行政関係者	学校関係者	企業関係者	ボランティア 団体や市民 活動団体の メンバー	専門家
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	286 21.7%	525 39.9%	798 60.7%	385 29.3%	92 7.0%	83 6.3%	94 7.1%	73 5.6%	224 17.0%	236 17.9%

その他	特いない	無回答
7 0.5%	168 12.8%	49 3.7%

属問1. 性別をお答えください。(SA)

合計 ベース (%)	男性	女性	無回答	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	547 41.6%	759 57.7%	9 0.7%

属問2. 平成20年6月1日現在の満年齢をご記入ください。(NA)

合計 ベース (%)	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	132 10.0%	220 16.7%	208 15.8%	352 26.8%	168 12.8%	160 12.2%	63 4.8%	12 0.9%

属問3. お住まいは何区ですか。(SA)

合計 ベース (%)	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	無回答	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	134 10.2%	222 16.9%	296 22.5%	95 7.2%	123 9.4%	67 5.1%	267 20.3%	102 7.8%	9 0.7%

属問4. あなたのご職業は何ですか。主なお仕事を1つだけお答えください。(SA)

合計 ベース (%)	(自営業) 農・林・漁業 [農業・林 業・漁業の 自営者]	(自営業) 商・工・サー ビス業[小売 店・飲食店・ 理髪店・修 理店など]	(自営業)自 由業[開業 医・弁護士 ・宗教家・芸 術家・茶華 道師匠など]	(家族従業 者)農・林 ・漁業[農業 ・漁業を継 続的に手 伝っている 人]	(家族従業 者)商・工・ サービス業 [商・工・ サービス業 の家業を継 続的に手 伝っている 人]	(家族従業 者)自由業 [自由業の 家業を継続 的に手伝っ ている人]	(勤め人)管 理職[民間 会社・官公 庁の課長職 以上]	(勤め人)事 務職・専門 技術職[事 務職員・教 員・技術者 など]	(勤め人)技 能・労務職 [技能工・販 売店員・外 交員など]	(無職)主 婦・主夫	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	38 2.9%	72 5.5%	21 1.6%	13 1.0%	18 1.4%	8 0.6%	68 5.2%	298 22.7%	206 15.7%	374 28.4%

(無職)学生	(無職)そ 他	無回答
21 1.6%	156 11.9%	22 1.7%

属問5.最後に在学した学校はどこですか(在学中、退学を含む)。(SA)

合 計 (%) ベース)	小学校、尋 常小学校、 高等小学校	中学校、旧 制3年制実 業学校	高校、中学 卒業後に専 門・専修学 校、旧制中 学、旧制5 年制実業学 校	短大、高 専、高校卒 業後に専 門・専修学 校、旧制高 校、旧制専 門学校	大学、大学 院、大学卒 業後に専 門・専修学 校	その他	無回答	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	85 6.5%	139 10.6%	568 43.2%	238 18.1%	263 20.0%	5 0.4%	17 1.3%

属問6.あなたの世帯の家族構成は、次のうちのどれですか。(SA)

合 計 (%) ベース)	ひとり暮らし	夫婦のみ	2世代世帯 (親と子)	3世代世帯 (親と子と 孫)	その他	無回答	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	107 8.1%	285 21.7%	627 47.7%	269 20.5%	16 1.2%	11 0.8%

属問7.毎日生活を送るうえで目標にしていることは何ですか。次の中から、最も重視することを1つだけ選んでください。(SA)

合 計 (%) ベース)	その日その 日を自由に 楽しく過ご す	しっかりと計 画を立て て、豊かな 生活を築く	身近な人た ちと、なごや かな毎日を 送る	みんなと力 を合わせ て、世の中 をよくする	その他	無回答	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	280 21.3%	260 19.8%	588 44.7%	77 5.9%	62 4.7%	48 3.7%

属問8.あなたが自由に使える時間は1日何時間ですか。平日・休日それぞれ、あてはまる番号に1つだけ をつけてください。 平日(SA)

合 計 (%) ベース)	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上	無回答	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	162 12.3%	303 23.0%	331 25.2%	208 15.8%	98 7.5%	156 11.9%	57 4.3%

属問8.あなたが自由に使える時間は1日何時間ですか。平日・休日それぞれ、あてはまる番号に1つだけ をつけてください。 休日(SA)

合 計 (%) ベース)	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上	無回答	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	50 3.8%	117 8.9%	259 19.7%	271 20.6%	172 13.1%	383 29.1%	63 4.8%

属問9.その時間をどのようなことに使っていますか。平日・休日それぞれ、あてはまる番号にすべて をつけてください。  
その他の場合は、下の枠内に平日・休日それぞれで、具体的に記入してください。 平日(MA)

合 計 (%) ベース)	新聞や雑誌 を読む・テレ ビを見る	趣味や娯楽 を楽しむ(読 書・ゲーム・ 映画・音楽・ ドライブ・買 い物など)	スポーツを 楽しむ・身 体をきたえ る	家族との団 らんを楽しむ	近所づきあ いや町内会 活動をおこ なう	休養する	学習や習い ごとなどに とりくむ	福祉・ボラン ティア活動 などにとり くむ	その他	無回答	
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	1,000 76.0%	569 43.3%	221 16.8%	380 28.9%	93 7.1%	487 37.0%	196 14.9%	47 3.6%	25 1.9%	41 3.1%

属問9. その時間をどのようなことに使っていますか。平日・休日それぞれ、あてはまる番号にすべてをつけてください。  
 その他の場合は、下の枠内に平日・休日それぞれで、具体的に記入してください。 休日(MA)

	合 計 (% ベース)	新聞や雑誌 を読む・テレ ビを見る	趣味や娯楽 を楽しむ(読 書・ゲーム・ 映画・音楽・ ドライブ・買 い物など)	スポーツを 楽しむ・身 体をきたえ る	家族との団 らんを楽し む	近所づきあ いや町内会 活動をおこ なう	休養する	学習や習い ごとなどにと りくむ	福祉・ボラン ティア活動 などにとりく む	その他	無回答
*** 全体結果 ***	1,315 100.0%	868 66.0%	877 66.7%	283 21.5%	608 46.2%	115 8.7%	715 54.4%	170 12.9%	42 3.2%	25 1.9%	38 2.9%

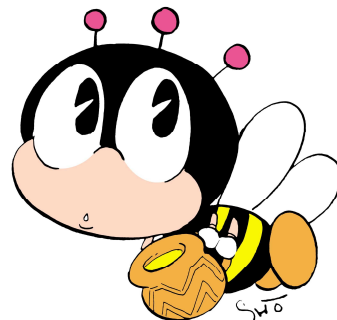


## (付) 調査票様式





## 新潟市生涯学習市民意識調査



# 生涯学習に関するアンケート

新潟市は、生涯学習の推進を重要課題の一つに位置づけて取り組んでいます。

このアンケートは、市民のみなさんの学習や文化・スポーツ活動、社会活動の様子やご要望をうかがって、今後の生涯学習推進のための基礎的な資料として活用するためにおこなうものです。

市内にお住まいの20歳以上の方の中から、2,500人をくじ引きのような方法で無作為に選ばせていただき、新潟市教育委員会が㈱ITスクエアに委託して実施しています。

このアンケートへの回答はすべて無記名としてしますので、決してご迷惑をおかけすることはありません。

どうぞ、お気軽にお答えください。

### ご記入にあたって

このアンケートは、封筒のあて名ご本人が記入してください。

それぞれの設問の選択肢から、あてはまる番号に 印を記入してください。

「その他」の場合は、( )内に内容を具体的に記入してください。

それぞれの設問の指示に従って、最後まで記入してください。

記入いただいたアンケートは、同封の返信用封筒に入れて、6月10日(火)までにお近くの郵便ポストに投かんしてください。

このアンケートについてのご意見やお問い合わせは、

新潟市教育委員会生涯学習課 までお願いします。

電話 >>>>> 025-226-3221〔直通〕

E-mail >>>>> [gakushu@city.niigata.lg.jp](mailto:gakushu@city.niigata.lg.jp)

平成20年5月

新潟市教育委員会

## 1. あなたの生涯学習活動への関わりについてお聞きします。



「生涯学習活動」とは...

生涯学習活動とは、一人ひとりが自発的に生涯を通じて行なう学習活動のことをいいます。  
生涯学習には、個人の学習活動のほか、学校教育や社会教育などの組織的に行なわれる学習、さらにはスポーツ、文化、レクリエーションなど、趣味的なものから職業能力の向上を目指すものまで、あらゆる学習活動が含まれます。

問1. あなたが今、おこなっている生涯学習活動はありますか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 文化・教養に関すること（文学・歴史・科学・思想など）
2. 芸術・工芸に関すること（美術・音楽・芸能・園芸・日曜大工など）
3. スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること（水泳・ダンス・ウォーキング・キャンプなど）
4. 福祉に関すること（手話・点字・介護技術など）
5. まちづくりに関すること（地域学・都市工学など）
6. 子育て・教育に関すること
7. 仕事上の知識・技能に関すること（資格取得・様々な能力の習得など）
8. 家庭生活に関すること（料理・編み物など）
9. 政治・経済に関すること
10. 環境問題に関すること
11. 人権擁護に関すること（男女平等・同和問題など）
12. 国際化に関すること（語学・国際交流・海外旅行など）
13. 情報化に関すること（パソコン・インターネットなど）
14. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
15. 特にない → **5ページの間6までお進みください。**



(問1で『生涯学習活動をおこなっている』と答えた方にお聞きします。)

問2. あなたは、その生涯学習活動をどのような方法でおこなっていますか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 本・雑誌・新聞
2. インターネット・携帯電話
3. テレビ・ラジオ
4. 通信教育・放送大学
5. 大学・専門学校の公開講座
6. 市や県の講座や講習会

7. 仲間とやっているグループ・サークル・団体など } (以下の付問にお答えください。)
8. 民間の塾・文化教室・スポーツクラブなど
9. その他(具体的に: )

「7. 仲間とやっているグループ・サークル・団体など」を選んだ人にお聞きします。

(付問) そのグループ等は、どのような活動をしていますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 地域づくり・ボランティア活動
2. 子育て支援活動・教育支援(学校支援)活動
3. 政治・経済について学ぶ活動
4. 歴史・郷土史について学ぶ活動
5. 文化・芸術活動
6. スポーツ・レクリエーション・野外活動
7. 自然保護・環境美化活動
8. 衣食住について学ぶ活動
9. 技術や資格を身につける活動
10. その他(具体的に: )

(引き続き、問1で『生涯学習活動をおこなっている』と答えた方にお聞きします。)

問3. あなたは、その生涯学習活動をどこでおこなっていますか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 自宅

2. 公共の屋内外施設 } (以下の付問にお答えください。)

3. 民間の屋内外施設

4. 山、海、野原などの野外

5. その他(具体的に: )

「2. 公共の屋内外施設」を選んだ人にお聞きします。

(付問)それは、どのような公共施設ですか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 生涯学習センター・公民館・学習館
2. 図書館
3. 体育・スポーツ施設
4. 芸術・文化会館, 美術館
5. コミュニティセンター, 農村環境改善センター, 自治会館
6. 博物館, 資料館
7. 福社会館, 保健福祉センター, 老人福祉センター
8. 保育園, 幼稚園, その他の子育て施設
9. 大学・専門学校
10. 小学校・中学校・高校
11. その他(具体的に: )

(引き続き、問1で『生涯学習活動をおこなっている』と答えた方にお聞きします。)

問4. あなたが問3で選んだ施設は、どこにありますか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 新潟市内
2. 新潟市以外の新潟県内
3. 新潟県外
4. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

問5. あなたは、生涯学習活動で身につけた知識や技能をどのように活かしていますか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 自分の趣味の活動に活かしている
2. 自分の健康づくりに活かしている
3. 学業や学校生活で活かしている
4. 仕事や就職で活かしている
5. 資格の取得に活かしている
6. 学習やスポーツ, 文化活動などの指導に活かしている
7. ボランティア活動に活かしている
8. 地域での活動に活かしている
9. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
10. 活かしていない



ここからは、再び全員にお聞きします。

問6 . あなたが、これから生涯学習活動としておこなってみたいと思っていることはありますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

- 1 . 文化・教養に関すること (文学・歴史・科学・思想など)
- 2 . 芸術・工芸に関すること (美術・音楽・芸能・園芸・日曜大工など)
- 3 . スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること (水泳・ダンス・ウォーキング・キャンプなど)
- 4 . 福祉に関すること (手話・点字・介護技術など)
- 5 . 仕事上の知識・技能に関すること (資格取得・様々な能力の習得など)
- 6 . 家庭生活に関すること (料理・編み物など)
- 7 . 政治・経済に関すること
- 8 . 環境問題に関すること
- 9 . 人権擁護に関すること (男女平等・同和問題など)
- 10 . 国際化に関すること (語学・国際交流・海外旅行など)
- 11 . 情報化に関すること (パソコン・インターネットなど)
- 12 . その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )
- 13 . 特にない

問7 . 生涯学習活動をもっと盛んにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号を3つ選んでをつけてください。

- 1 . 利用できる施設の数を増やす
- 2 . 施設の設備・備品を充実させる
- 3 . 学校施設をもっと地域に開放する
- 4 . 専門的な知識を持つ職員を多く配置する
- 5 . 講座や行事, イベントを増やす
- 6 . 講座の内容を充実させる
- 7 . 講座や事業などの広報を充実させる
- 8 . インターネットによる情報提供を充実させる
- 9 . 住民のニーズや満足度などを把握して、施策に反映させる
- 10 . リーダーを育成する
- 11 . ボランティア活動を支援する
- 12 . グループや団体等の自主的な活動を支援する
- 13 . その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

問 8 . あなたが生涯学習活動をおこなう上で、手に入れたい情報はありますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

- 1 . 講座や催し物についての情報
- 2 . 指導者や講師についての情報
- 3 . リーダーについての情報
- 4 . 活動の相談窓口
- 5 . 施設の内容や利用方法
- 6 . 市・県や財団からの資金援助の申込み方法
- 7 . グループ・サークルの活動内容についての情報
- 8 . ボランティアの活動内容についての情報
- 9 . その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 10 . 特にない

## 2. あなたの社会活動への関わりについてお聞きします。

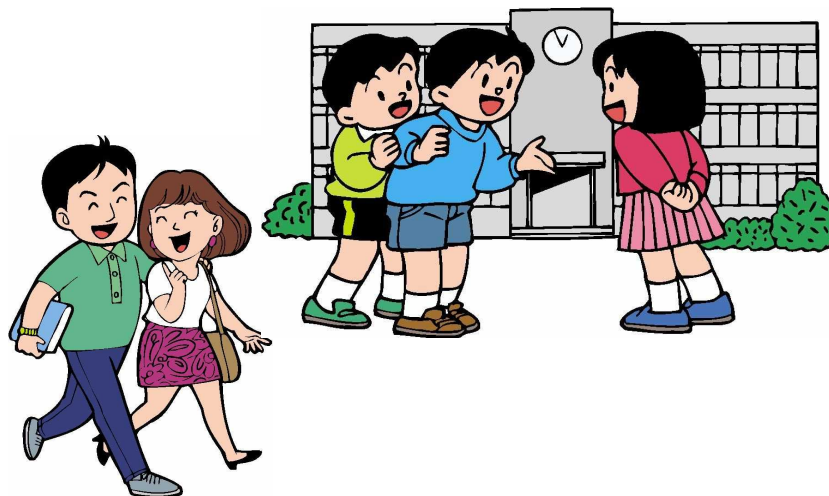


「社会活動」とは...

社会活動とは、市民自らが個人や組織、団体を問わず、様々な分野での地域活動やボランティア活動、NPO活動などに参加し、地域のニーズや課題に取り組む活動をいいます。

問9. あなたはこの1年間、どんな目的であなたがお住まいの地域にある小・中学校へ行きましたか（ただし、「選挙のため」を除く。）。あてはまる番号に、すべてをつけてください。

1. 授業参観のため
2. 個人懇談のため
3. 学校行事のため（運動会・文化祭・合唱コンクールなど）
4. 授業（総合学習）の発表会のため
5. PTA活動のため
6. セーフティ・スタッフ活動のため
7. 学校支援ボランティア活動のため（読み聞かせ・昔あそび・学校環境整備など）
8. 授業補助のため
9. ふれあいスクールボランティア活動のため
10. 特別支援教育ボランティア活動のため
11. 非行防止活動のため（中学校サポートチーム活動・街頭育成活動など）
12. 学校開放による活動のため（スポーツ・文化活動など）
13. 地域の行事のため
14. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
15. 行かなかった





問10. 次の中で、あなたがこれまでに参加したことがある社会活動はありますか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 文化・芸術に関わる活動
2. 健康づくりに関わる活動
3. 障がい者・高齢者などの福祉に関わる活動
4. 地域行事に関わる活動
5. 学校支援や青少年育成に関わる活動（セーフティスタッフ・学校支援ボランティア・ふれあいスクールボランティアなど）
6. 防犯・防災・交通安全に関わる活動
7. 災害救援活動
8. 環境保護・環境美化に関わる活動
9. 人権擁護に関わる活動
10. 国際交流に関わる活動
11. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ ）

12. これまで上記のような社会活動に参加したことはない } （以下の付問にお答えください。）

「12. これまで上記のような社会活動に参加したことはない」を選んだ人にお聞きます。

（付問）参加しなかった、できなかった理由は何ですか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 時間が足りなかった
2. 自分の力不足を感じていた
3. 一緒に活動する仲間がいなかった
4. 意見や考えが合わなかった
5. 身体への負担が大きかった
6. 世話を必要とする家族（小さい子どもや高齢者など）がいた
7. 活動に興味や関心がない
8. 活動を必要だと感じていなかった
9. 金銭的な余裕がなかった
10. 身近に活動の場がなかった
11. 活動するための情報が不足していた
12. 身近に指導者がいなかった
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ ）



「これまで社会活動に参加したことはない」方は、11ページの問14までお進みください。

(問10で『社会活動に参加したことがある』と答えた方にお聞きします。)

問11. あなたが、社会活動に参加したきっかけは何ですか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 講座等を通じて興味・関心を持ったから
2. 団体やグループ・サークル活動を通じて興味・関心を持ったから
3. 学校時代の経験を通じて興味・関心を持ったから
4. 身近な人の介護・支援に関わった経験を通じて興味・関心を持ったから
5. ポスターやチラシ、広報紙などを見て興味・関心を持ったから
6. テレビやラジオ、新聞などを見て興味・関心を持ったから
7. インターネットを見て興味・関心を持ったから
8. 地域や団体からお願いされたから
9. 友達に誘われたから
10. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

問12. あなたが社会活動をおこなううえで、役に立ったものはありますか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 市や県が開催した講座、講習会、リーダー研修など
2. 大学・専門学校の公開講座など
3. 民間の講座・講習会など
4. 自主的なグループ活動や学習会など
5. 自分の活動で得た経験
6. 活動の仲間からの助言
7. 新聞や雑誌、テレビなど
8. インターネット
9. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
10. 特にない

(引き続き、問10で『社会活動に参加したことがある』と答えた方にお聞きします。)

問13. あなたは、その社会活動を今も続けていますか。  
あてはまる番号に1つだけをつけてください。

1. 続けている

2. 一時的に休んでいる、またはやめてしまった活動がある

3. すべての活動をやめた

(以下の付問にお答えください。)

「2. 一時的に休んでいる、またはやめてしまった活動がある」  
あるいは、「3. すべての活動をやめた」を選んだ人にお聞きします。

(付問) 休んだ、あるいは、やめた理由は何ですか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 時間が足りなくなった
2. 自分の力不足を感じはじめた
3. 一緒に活動する仲間がいなくなった
4. 意見や考えが合わなくなった
5. 身体への負担が大きくなってきた
6. 世話を必要とする家族(小さい子どもや高齢者など)ができた
7. 活動への興味や関心が薄れてしまった
8. 活動が必要だと感じなくなった
9. 金銭的な余裕がなくなった
10. 身近に活動の場がなくなった
11. 活動するための情報が少なくなった
12. 身近な指導者がいなくなった
13. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

ここからは、再び全員にお聞きします。

問14．あなたが今後、参加してみたい社会活動はありますか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

- 1．文化・芸術にかかわる活動
- 2．健康づくりにかかわる活動
- 3．障がい者・高齢者などの福祉にかかわる活動
- 4．地域行事にかかわる活動
- 5．学校支援や青少年育成に関する活動（セーフティスタッフ・学校支援ボランティア・ふれあいスクールボランティアなど）
- 6．防犯・防災・交通安全にかかわる活動
- 7．災害救援活動
- 8．環境保護・環境美化にかかわる活動
- 9．人権擁護にかかわる活動
- 10．国際交流にかかわる活動
- 11．その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 12．特にない

問15．あなたが社会活動に参加するうえで、大切だと思う条件は何ですか。  
あてはまる番号にすべてをつけてください。

- 1．時間のゆとり
- 2．自分の力量を高める学習機会
- 3．一緒に活動する仲間・友人
- 4．健康・体力
- 5．家族の協力
- 6．保育・託児の場
- 7．活動費用
- 8．活動の場
- 9．活動するための情報
- 10．指導者・リーダーの存在
- 11．勤め先の理解や協力
- 12．その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 13．特にない

### 3. あなたの「人との関わり」についてお聞きします。

問16. あなたが生涯学習活動や社会活動に参加するとき、どんな年代の人たちと関わっていますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 乳幼児
2. 小学生
3. 中学生
4. 小・中学生以外の10代
5. 20代
6. 30代
7. 40代
8. 50代
9. 60代
10. 70代
11. 80代以上
12. 関わっていない



問17. あなたは今、どんな人たちと一緒に生涯学習活動や社会活動をしていますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

1. 家族・親族
2. 友人
3. 共通の興味や目的を持つ人
4. 近隣の住民
5. 自分の職場の同僚
6. 行政関係者
7. 学校関係者
8. 企業関係者
9. ボランティア団体や市民活動団体などのメンバー
10. 専門家
11. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
12. 一緒に活動している人はいない

問18．あなたがこれから生涯学習活動や社会活動に参加するとき、どんな年代の人たちと関わってみたいと思いますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

- 1．乳幼児
- 2．小学生
- 3．中学生
- 4．小・中学生以外の10代
- 5．20代
- 6．30代
- 7．40代
- 8．50代
- 9．60代
- 10．70代
- 11．80代以上
- 12．関わりたいと思わない

問19．あなたはこれから、どんな人たちと生涯学習活動や社会活動をしてみたいと思いますか。あてはまる番号にすべてをつけてください。

- 1．家族・親族
- 2．友人
- 3．共通の興味や目的を持つ人
- 4．近隣の住民
- 5．自分の職場の同僚
- 6．行政関係者
- 7．学校関係者
- 8．企業関係者
- 9．ボランティア団体や市民活動団体などのメンバー
- 10．専門家
- 11．その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
- 12．特にいない

## 4. あなた自身のことについてお聞きします。

属問1. 性別をお答えください。

1. 男性
2. 女性

属問2. 平成20年6月1日現在の満年齢をご記入ください。

歳

属問3. お住まいは何区ですか。

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 1. 北区  | 4. 江南区 | 7. 西区  |
| 2. 東区  | 5. 秋葉区 | 8. 西蒲区 |
| 3. 中央区 | 6. 南区  |        |

属問4. あなたのご職業は何ですか。主なお仕事を1つだけお答えください。

1. (自営業) 農・林・漁業 [ 農業・林業・漁業の自営者 ]
2. (自営業) 商・工・サービス業 [ 小売店・飲食店・理髪店・修理店など ]
3. (自営業) 自由業 [ 開業医・弁護士・宗教家・芸術家・茶華道師匠など ]
4. (家族従業者) 農・林・漁業 [ 農業・林業・漁業の家業を継続的に手伝っている人 ]
5. (家族従業者) 商・工・サービス業 [ 商・工・サービス業の家業を継続的に手伝っている人 ]
6. (家族従業者) 自由業 [ 自由業の家業を継続的に手伝っている人 ]
7. (勤め人) 管理職 [ 民間会社・官公庁の課長職以上 ]
8. (勤め人) 事務職・専門技術職 [ 事務職員・教員・技術者など ]
9. (勤め人) 技能・労務職 [ 技能工・販売店員・外交員など ]
10. (無職) 主婦・主夫
11. (無職) 学生
12. (無職) その他

属問5．最後に在学した学校はどこですか（在学中、退学を含む）。

- 1．小学校、尋常小学校、高等小学校
- 2．中学校、旧制3年制実業学校
- 3．高校、中学卒業後に専門・専修学校、旧制中学、旧制5年制実業学校
- 4．短大、高専、高校卒業後に専門・専修学校、旧制高校、旧制専門学校
- 5．大学、大学院、大学卒業後に専門・専修学校
- 6．その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

属問6．あなたの世帯の家族構成は、次のうちのどれですか。

- 1．ひとり暮らし
- 2．夫婦のみ
- 3．2世代世帯（親と子）
- 4．3世代世帯（親と子と孫）
- 5．その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

属問7．毎日常生活を送るうえで目標にしていることは何ですか。  
次の中から、最も重視することを**1つだけ**選んでください。

- 1．その日その日を自由に楽しく過ごす
- 2．しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く
- 3．身近な人たちと、なごやかな毎を送る
- 4．みんなと力を合わせて、世の中をよくする
- 5．その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )



属問8 . あなたが自由に使える時間は1日何時間ですか。  
 平日・休日それぞれ、あてはまる番号に1つだけ をつけてください。

【平日】 【休日】

- |     |     |               |
|-----|-----|---------------|
| 1 . | 1 . | 1 時間未満        |
| 2 . | 2 . | 1 時間以上 2 時間未満 |
| 3 . | 3 . | 2 時間以上 4 時間未満 |
| 4 . | 4 . | 4 時間以上 6 時間未満 |
| 5 . | 5 . | 6 時間以上 8 時間未満 |
| 6 . | 6 . | 8 時間以上        |



属問9 . その時間をどのようなことに使っていますか。  
 平日・休日それぞれ、あてはまる番号にすべて をつけてください。  
 その他の場合は、下の枠内に平日・休日それぞれで、具体的に記入してください。

【平日】 【休日】

- |     |     |                                     |
|-----|-----|-------------------------------------|
| 1 . | 1 . | 新聞や雑誌を読む・テレビを見る                     |
| 2 . | 2 . | 趣味や娯楽を楽しむ (読書・ゲーム・映画・音楽・ドライブ・買い物など) |
| 3 . | 3 . | スポーツを楽しむ・身体をきたえる                    |
| 4 . | 4 . | 家族との団らんを楽しむ                         |
| 5 . | 5 . | 近所づきあいや町内会活動をおこなう                   |
| 6 . | 6 . | 休養する                                |
| 7 . | 7 . | 学習や習いごとなどにとりくむ                      |
| 8 . | 8 . | 福祉・ボランティア活動などにとりくむ                  |
| 9 . | 9 . | その他 ……                              |

具体的に記入してください。

【平日の場合】

【休日の場合】



## あ と が き

生涯学習市民意識調査の結果がまとまり、ここにご報告申し上げます。

おとなの学習ニーズは多様であることを特長としています。この多様性にも、粗く言って、2つの特色が見い出せます。1つは、市場原理に基づく学習要求ですし、2つは、教育・公共原理に基づく学習課題です。

急速に変わる現代社会は、情報化、国際化、高齢化などで新しい学習ニーズが生じてきて、ライフステージの移行に伴う学習課題も変化していきます。そこで、定期的な生涯学習市民意識調査が必要になります。

今回の調査は、生涯学習推進基本計画を策定するための基礎データを得ることを目的としています。この目的は、前回の調査（『生涯学習に関する市民の意識調査報告書』2000年3月）と同様です。

今回の調査は、生涯学習市民意識調査内容検討委員会と庁内プロジェクトチームが協働して、調査に係る事柄を検討した点で、前回の調査と異なります。委員会のメンバーは、齋藤勉（新潟大学）、中村恵子（新潟青陵大学）、内田健（新潟大学）の3名です。チームのメンバーは、生涯学習課、中央公民館、関屋地区公民館の職員6名です。

この9名で、4回の会議を開催しました。各回の検討内容を示します。

- 第1回 1.調査目的 2.調査の主眼（柱）の設定
- 第2回 確認事項 1.市政世論調査の回収率が高かった理由・方法  
2.新・新潟市総合計画における社会貢献の位置づけ  
3.パートナーシップ事業に係る調査項目の必要性
- 検討事項 1.調査項目の検討について  
(1) 前回（H11.9調査実施）の調査項目について  
(2) 今回調査でどんなことを知りたいか
- 第3回 検討事項 1.調査票について  
2.調査項目追加について
- 第4回 検討事項 1.調査票（最終案）について  
2.調査方法について  
3.業務委託の内容について

生涯学習活動の範囲を個人的活動、社会的貢献活動、NPOの活動等に限定しました。

また、今回、教育ビジョンに示されている学・社・民の融合に関する設問を作ることになりましたので、地域と学校ふれあい推進課の意向も伺いました。

さらに、質問紙作成の最終段階で教育委員の方々からもコメントを加えていただくことで、市民にわかりやすい調査用紙ができあがりしました。

その後、調査実施、集計、分析、執筆、印刷を経て、この報告書ができあがりしました。

この報告書は、数多くの方々の協力の賜です。

生涯学習に関心をお持ちの方々に、お読みいただき、今後の生涯学習活動の推進にお役出ただけければ幸いです。

平成20（2008）年12月  
新潟大学教授 齋藤 勉

---

## 新潟市生涯学習市民意識調査報告書

平成20年12月発行

新潟市教育委員会生涯学習課

〒951-8550 新潟市学校町通1番町602番地1

電話 代表 025(228)1000

<http://www.city.niigata.jp/info/shogaku/public/>

---